

京都大学生態学研究センター  
業績目録

---

---

Publication List

Center for Ecological Research, Kyoto University

第1巻 (1991年まで)

1992 (平成4) 年5月

Volume 1 (until 1991)

May, 1992

京都大学

## 生態学研究センター・ニュース No.7

---

はじめに

京都大学生態学研究センターが1991年4月に設立されて1年が経過しました。この1年間、全国共同利用施設として、共同研究や公募研究会、国際シンポジウムといった共同利用事業にくわえ、公開講演会などの社会的な活動もいくつかおこなってまいりました。今回、ここにセンターとしてはじめての業績目録を出版いたします。

当センターのような研究機関では、自前の紀要のような定期刊行物を出版して研究活動を公表していき、その成果をアピールすべきであるという考えかたもあるでしょう。しかし、発表の場が機関の紀要に多かれ少なかれ限定されるようなことになっては、国際的な問題意識をもって生態科学の研究を推進する研究機関としては問題です。私たちは、全国共同利用施設の構成員として、内外のさまざまな研究発表の場に成果を発表し、またそうした場の活性化に貢献することが責務であると考えています。そこで、あえて紀要の類は刊行せず、そのかわりとして発表した業績を目録としてお目にかけることにいたしました。また、当センターからの印刷物はすべて『生態学研究センター・ニュース』と一本化することになっています。これは整理の際の便利さと引用の容易さを考慮してのことです。

“研究者のおこなう活動”の業績をどのように評価するかについては、現在、大学や文部省内はいうにおよばず、社会的にもいろいろな議論がなされています。評価以前に業績の範囲を定義するだけでも、立場や個人によって、また何のために評価するのかによっても異なった見解がありえます。国際的に一流の学術誌が研究発表の媒体としてもっとも重要であり、当然、そうした媒体での研究発表だけで評価すればいいという立場に立てば、すっきりした目録を作ることができます。しかし、いっぽう、社会的影響という点では読者の多い新聞での発表のほうが有効な場合もありえますし、教育の重要性を強調する立場もあるでしょう。いずれにしても業績評価の問題は今後大学という組織ではさけてとおれない重要な問題であることはまちがいありません。

そこで、この業績目録を出版するにあたっては、以下の2点を方針としました。第1は業績の範囲は一切限定せず、また、評価にあたるようなことは一切しませんでした。つまり、完全な自己申告制としました。したがって、ある人は狭い範囲の業績に限定しているのに、別の人はいへん広く網羅しています。このばらつき自体が業績を各人がどのように考えているかについてのある種の情報を提供しています。

第2の方針は、発表年代をセンター設立以後に限定せず、平成3年12月までに発表された全業績を収録しました。これは現在センターを構成している研究者がどのような研究経歴をもっているのかを発足時点で整理しておくことに意義を見いだしたからです。これまでセンター・ニュースにおいて教官の自己紹介のコラムを作ってきましたが、それとあわせて“読んで”いただければ幸いです。しかし、これはこれまでの研究業績の方向にセンターが進んでいくことをまったく意味しません。逆に、5年後、10年後にセンターがどのように変身していったかを測るためのベースラインであると考えています。なお、今後は1年ごとの業績を出版していく予定です。

この目録をとおしてみなさんからのご批判をおおぎ、全国共同利用施設としての活動をさらに深めてまいりたいと存じます。ご協力をお願いいたします。

生態学研究センター長 川那部浩哉

## 収録内容と凡例

1. 本業績目録には生態学研究センターに所属する常勤スタッフ、大学院生および研修員が、1991(平成4)年(「年度」ではない)までに発表した業績を収録する。印刷中のものも、発表年が1992年以降になるものは収録していない。
2. 配列は、(A)スタッフと(B)大学院生および研修員のそれぞれについて、名前のアルファベット順とした。各人ごとに、発表年代順にナンバーをふった。業績の種別(原著論文、総説、解説記事、報告書など)については区別しなかった。
3. 印刷の形式は欧文・和文にかかわらず以下の3通りとした：

### (a) 定期刊行学術誌掲載の論文など

ナバ(-) 著者名{; 著者名; ...} (刊行年) 論文タイトル. 定期刊行物名 巻: 始ページ - 終ページ.  
[キウト]

例\_\_\_\_\_

2) 安部琢哉 (1971) 草地に生息する4種アリ間の食物分配について 1. 日生態会誌 20:  
219-230.

18) Abe, T. (1977) Preliminary study on the ant fauna of the Tokara Island and Amami  
Oshima. Ecol. Stud. Nat. Cons. Ryukyu Isl. 3: 93-102.

### (b) 単行本(含翻訳)など

ナバ(-) 著者名{; 著者名; ...} (刊行年) 著書タイトル. 総ページ pp. 出版社, 所在地. [キウト]

例\_\_\_\_\_

1) 川那部浩哉; 大沢秀行; 安部琢哉, 訳 (1971) 侵略の生態学. (チャールス, S. エルトン著).  
223 pp. 思索社, 東京.

83) 安部琢哉 (1989) シロアリの生態 - 熱帯の生態学入門. 156 pp. 東京大学出版会, 東京.

### (c) 単行本のなかに掲載の論文など

ナバ(-) 著者名{; 著者名; ...} (刊行年) 論文タイトル. In: 単行本名. (ed. by 編者名{; ...}) pp. 始ページ - 終ページ. 出版社, 所在地. [キウト]

例\_\_\_\_\_

46) 安部琢哉 (1980) 熱帯ジャングルと生物群. In: 琉球の自然史. (ed. by 木崎甲子郎). pp.  
167-181. 築地書館, 東京.

77) Abe, T.; Kumagai, A. (1987) Trail polarity in the ant *Monomorium destructor*. In:  
Chemistry and biology of social insects. (ed. by Eder, J.; Rembold, H.). pp.  
533-534. Verlag J. Peperny, München.

## A. スタッフ

ABE, T.	安部琢哉	7
FJITA, N.	藤田 昇	12
INOUE, T.	井上民二	17
KAWANABE, H.	川那部浩哉	24
KOHYAMA, T.	甲山隆司	49
MIURA, T.	三浦泰蔵	52
NAKANISHI, M.	中西正己	56
NARITA, T.	成田哲也	60
SHIMIZU, I.	清水 勇	62
SUGIMOTO, A.	杉本敦子	68
TABATA, H.	田端英雄	69
TEZUKA, Y.	手塚泰彦	73
WADA, E.	和田英太郎	78
YUMA, M.	遊磨正秀	89

## B. 大学院生・研修員

HARAGUCHI, A.	原口 昭	95
KATAYAMA, M.	片山雅男	95
MAKITA, A.	蒔田明史	97
MATSUBARA, K.	松原健司	98
MATSUI, K.	松井 淳	99
NAKANO, S.	中野伸一	100
NOMA, N.	野間直彦	101
SAKUMA, D.	佐久間大輔	102
UMEKI, K.	梅木 清	102

## A. スタッフ

ABE, Takuya 安部 琢哉

---

- 1) 川那部浩哉; 大沢秀行; 安部琢哉, 訳 (1971). 侵略の生態学. (チャ - ルス, S . エルトン著) .  
223 pp. 思索社, 東京 .
- 2) 安部琢哉 (1971) 草地に生息する 4 種アリ間の食物分配について 1. 日生態会誌 20:  
219-230.
- 3) 安部琢哉 (1973) 結婚飛行時におけるクロオオアリの行動について. 昆虫 41: 333-341.
- 4) 安部琢哉 (1973) 草地に生息する 4 種アリ間の食物分配について 2. 琉大理工紀要 理学編 16:  
232-245.
- 5) 安部琢哉 (1973) 八重山とびあるき. 月刊むし 25: 40-44.
- 6) 安部琢哉 (1974) 西表島のアリ相について. 琉球列島の自然とその保護に関する基礎的研究 1:  
105-111.
- 7) 池原貞雄; 大嶺哲男; 下謝名松栄; 安部琢哉 (1974) 西表島と石垣島における森林陸上土壌動物群  
集. 琉球列島の自然とその保護に関する基礎的研究 1: 51-62.
- 8) 池原貞雄; 大嶺哲男; 下謝名松栄; 安部琢哉 (1974) 西表島の土壌動物について. 琉球列島の自  
然とその保護に関する基礎的研究 1: 63-69.
- 9) Chiba, S.; Abe, T.; Aoki; Imadate, G.; Ishikawa, K.; Kondoh, M.; Watanabe, H. (1975)  
Studies on the productivity of soil animals in Pasoh Forest Reserve, West Malaysia  
(1). Seasonal change in the density of soil mesofauna: Acari, Collembola and others. Sci.  
Rep. Hirosaki Univ. 22(2): 82-124.
- 10) 池原貞雄; 高良鉄夫; 安部琢哉; 与那城義春; 下謝名松栄; 宮城進 (1975) ノグチゲラ *Sapheopipo*  
*noguchii* (Seebohm) の実態調査報告書 (1) . 沖縄県天然記念物シリ - ズ 1: 1-44.
- 11) Chiba, S.; Abe, T.; Kondoh, M.; Shiba, M.; Watanabe, H.; (1976) Studies on the  
productivity of soil animals in Pasoh Forest Reserve, West Malaysia (2). Seasonal change  
in the density of Nematoda and Enchytreidae. Sci. Rep. Hirosaki Univ. 23(2): 74-78.
- 12) Ikehara, S.; Abe, T.; Shimajana, M.; Yonashiro, Y.; Miyagi, S. (1976) Nest site of  
*Noguchigera* or *Okinawa Woodpecker*, *Sapheopipo noguchii*. Biol. Mag. Okinawa 14:  
55-60.
- 13) Abe, T.; Nakamori, M.; Uesu, K. (1976) Fauna and density of ants of a coastal limestone  
area in Okinawa Island. Ecol. Stud. Nat. Cons. Ryukyu Isl. 2: 113-120.
- 14) 安部琢哉 (1976) 草地に生息する 4 種アリ間の食物分配について 3. 生理生態 17: 91-100

- 15) 安部琢哉 (1976) アリにとっての食料問題 - 種内, 種間の関係. アニマ 36: 22-28.
- 16) 池原貞雄; 安部琢哉; 与那城義春; 下謝名松栄; 宮城進 (1976) ノグチゲラ *Sapheopipo noguchii* (Seebohm)の実態調査報告書(2). 沖縄県天然記念物シリ - ズ 5: 1-48.
- 17) 安部琢哉 (1976) 熱帯多雨林と動物たち . パソの森の働きもの シロアリ. 朝日百科 世界の植物 12: 2852-2853.
- 18) Abe, T. (1977) Preliminary study on the ant fauna of the Tokara Island and Amami Oshima. Ecol. Stud. Nat. Cons. Ryukyu Isls. 3: 93-102.
- 19) Abe, T.; Maeda, A. (1977) Fauna and density of ants in sugarcane fields of the southern part of Okinawa Island. Ecol. Stud. Nat. Cons. Ryukyu Isls. 3: 75-91.
- 20) Ikehara, S.; Abe, T.; Omine, T.; Chinen, M.; Shimojana, M. (1977) Preliminary study on the forest floor macrofauna in the Ryukyu Islands. Ecol. Stud. Nat. Cons. Ryukyu Isls. 3: 55-73.
- 21) Abe, T.; Uezu, K. (1977) Biology of *Diacamma rugosum* (Le Guillou) in the Ryukyu Islands with special reference to foraging behaviour. Proc. 8th Int. Congress, IUSSI: 142-143.
- 22) 池原貞雄; 安部琢哉; 与那城義春; 下謝名松栄; 日越国昭; 宮城進 (1977) ノグチゲラ *Sapheopipo noguchii* (Seebohm)の実態調査報告書 (3). 沖縄県天然記念物シリ - ズ 8: 1-77
- 23) 池原貞雄; 安部琢哉; 大嶺哲雄; 垣花義孝 (1977) 屋嘉比島に生息するケラマジカの現況 - 1976年秋 - ケラマジカ実態調査報告 (2). 沖縄県天然記念物シリ - ズ 11: 33-55.
- 24) 池原貞雄; 新納義馬; 新城和治; 安部琢哉 他7名 (1978) 屋嘉比島におけるケラマジカの土地利用 ケラマジカ実態調査報告 (3). 沖縄県天然記念物シリ - ズ 12: 93-134.
- 25) 池原貞雄; 安部琢哉; 又吉盛健; 久場政春 (1978) 慶留間島におけるケラマジカ - 1977年夏 - ケラマジカ実態調査報告 (3). 沖縄県天然記念物シリ - ズ 12: 135-149.
- 26) 池原貞雄; 安部琢哉 (1978) アサヒナキマダラセセリ生息地における葉上及び土壌動物について アサヒナキマダラセセリ 調査報告. 沖縄県天然記念物シリ - ズ 13: 11-18.
- 27) 池原貞雄; 安部琢哉; 宮城康一; 城間 牟 (1978) ハブ生息地実態調査. 沖縄特殊有害動物駆除対策基本調査報告書 1: 1-56.
- 28) Abe, T. (1978) Studies on the distribution and ecological role of termites in a lowland rain forest of West Malaysia (1) Faunal composition, size, colouration and nest of termites in Pasoh Forest Reserve. Kontyu 46(2): 273-290.
- 29) Abe, T.; Matsumoto, T. (1978) Distribution of termites in Pasoh Forest Reserve. Malay. Nat. J. 30: 325-334.
- 30) 安部琢哉 (1978) 熱帯多雨林におけるシロアリの役割. 遺伝 32(6): 42-50.
- 31) 安部琢哉 (1978) 尖閣列島, 南小島を訪ねて. 沖生誌 16: 39-44.

- 32) 池原貞雄; 安部琢哉; 宮城康一; 千木良芳範 (1979) ハブ生息地実態調査. 沖縄特殊有害動物駆除対策基本調査報告書 2: 1-80.
- 33) 池原貞雄; 安部琢哉 他5名 (1979) 屋嘉比島におけるケラマジカの日撃観察 - 1978 - ケラマジカ実態調査報告 (4). 沖縄県天然記念物シリ - ズ 19: 25-55.
- 34) 安部琢哉 (1979) 屋嘉比島におけるケラマジカ個体数 ケラマジカ実態調査報告 (4). 沖縄県天然記念物シリ - ズ 19: 143-145.
- 35) 松本忠夫; 安部琢哉 (1979) 西表島のイタジイ林における落葉・落枝及び動物の糞落下量. 各種生態系における野生動物の現存量に関する研究報告書. pp. 59-64. 立教大学.
- 36) 安部琢哉; 松本忠夫; 草野保; 池原貞雄 (1979) 西表島のイタジイ林におけるシロアリの密度・現存量について. 各種生態系における野生動物の現存量に関する研究報告書. pp. 65-84. 立教大学.
- 37) 斉藤晋; 寺田美奈子; 藤田朋子; 安部琢哉 (1979) 西表島のシイ林における大型土壌動物の現存量. 各種生態系における野生動物の現存量に関する研究報告書. pp. 85-122. 立教大
- 38) Abe, T. (1979) Studies on the distribution and ecological role of termites in a lowland rain forest of West Malaysia (2) Food and feeding habits of termites in Pasoh Forest Reserve. Jap. J. Ecol. 29: 121-135.
- 39) Abe, T.; Matsumoto, T. (1979) Studies on the distribution and ecological role of termites in a lowland rain forest of West Malaysia(3) Distribution and abundance of termites in Pasoh Forest Reserve. Jap. J. Ecol. 29: 337-351.
- 40) Matsumoto, T.; Abe, T. (1979) The role of termites in an equatorial rain forest ecosystem. 2. The role of termites in the decomposition of leaf litter on the forest floor. Oecologia 38: 261-274.
- 41) 安部琢哉; 前田敦 (1979) 琉球列島に分布するアリの属の検索. 沖生誌 17: 29-35.
- 42) 池原貞雄; 安部琢哉; 赤嶺博行 (1980) ハブ生息地実態調査. 沖縄特殊有害動物駆除対策基本調査報告書 3: 5-36.
- 43) Abe, T. (1980) Studies on the distribution and ecological role of termites in a lowland rain forest of West Malaysia(4). Role of termites in the process of wood decomposition in Pasoh Forest Reserve. Rev. Ecol. Biol. Sol. 17: 23-40.
- 44) Kondoh, M.; Watanabe, H.; Chiba, S.; Abe, T. (1980) Studies on the productivity of soil animals in Pasoh Forest Reserve, West Malaysia. 5. Seasonal change in the density and biomass of soil macrofauna: Oligochaeta, Hirudinea and Arthropoda. Mem. Shiraume Gakuen College 16: 1-26.
- 45) 安部琢哉 (1980) 久米島における土地利用の違いと大型土壌動物. 琉球列島における島嶼生態系とその人為的変革 1: 97-103.

- 46) 安部琢哉 (1980) 熱帯ジャングルと生物群. In: 琉球の自然史. (ed. by 木崎甲子郎). pp. 167-181. 築地書館, 東京.
- 47) 安部琢哉 (1980) 栽培するシロアリ. アニマ 91: 13-17.
- 48) 安部琢哉 (1980) マレ - シアにシロアリをたずねて ジャングル日誌 1. しろあり 42: 2-6.
- 49) 安部琢哉 (1980) マレ - シアにシロアリをたずねて ジャングル日誌 2. しろあり 43: 18-23.
- 50) 池原貞雄; 安部琢哉; 大神一宏; 島村賢正 (1981) ハブ生息地実態調査. 沖縄特殊有害動物駆除対策基本調査報告書 4: 1-23.
- 51) 池原貞雄; 安部琢哉 他5名 (1981) ケナガネズミ実態調査報告書. 沖縄県天然記念物シリ - ズ 22: 1-65.
- 52) Abe, T.; Ikehara, S. (1981) Ecological distribution of terrestrial isopods in the subtropical uninhabited islands (Uoturijima and Minami-kojima, the Senkaku Islands, Japan). Bull. College of Science, University of the Ryukyus 31: 61-70.
- 53) 安部琢哉 (1981) 久米島と西表島における土地利用形態の違いと大型土壌動物. 琉球列島における島嶼生態系とその人為的変革 2: 173-192.
- 54) 安部琢哉 (1981) アリの餌採集活動. 昆虫と自然 16(1): 11-16.
- 55) Onoyama, K.; Abe, T. (1982) Foraging behaviour of the harvester ant *Messor aciculatus* in relation to the amount and distribution of food. Jap. J. Ecol. 32: 383-393.
- 56) Abe, T. (1982) Ecological role of termites in a tropical rain forest. In: The biology of social insects. (ed. by Breed, M.D. et al.). pp. 71-75. West View.
- 57) 安部琢哉; 牧幸司 (1982) ヤエヤマサソリ *Liocheles australasiae* (Fabricius) の産子活動と幼虫の行動. *Atypus* 80: 19-23.
- 58) 牧幸司; 上江洲いち子; 安部琢哉 (1982) 西表島から発見された日本未記録のシロアリ *Procapritermes* sp. 沖生誌 20: 31-31.
- 59) Abe, T.; Watanabe, H. (1982) Soil macrofauna in a subtropical rain forest and its adjacent cassava plantation in Okinawa with special reference to the activity of termites. *Physiol. Ecol. Jpn.* 20: 101-114.
- 60) 安部琢哉 (1982) マレ - シアにシロアリをたずねて ジャングル日誌3. しろあり 50: 2-7.
- 61) Fukumoto, Y.; Abe, T. (1983) Social organization of colony movement in the tropical ponerine ant, *Diacamma rugosum* (Le Guillou). *J. Ethol.* 1: 101-108.
- 62) 黒住耐二; 安部琢哉 (1983) 硫黄島で得た昆虫類 1. アリ類. 琉球の昆虫 8: 1-6.
- 63) 安部琢哉 (1983) マレ - シアにシロアリをたずねて ジャングル日誌4. しろあり 51: 3-10.
- 64) Abe, T. (1984) Colonization of the Krakatau Islands by termites (Insecta: Isoptera). *Physiol. Ecol. Jpn.* 21: 63-88.

- 65) Yukawa, J.; Abe, T.; Iwamoto, T.; Yamane, Sk. (1984) The fauna of the Krakatau, Peucang and Panaitan Islands. In: Research on the ecological succession and the formation process of volcanic ash soil on the Krakatau Islands. (ed. by Tagawa, H.). pp. 93-114. Kagoshima Univ.
- 66) 小笠原潤; 安部琢哉 (1984) タカサゴシロアリの営巣場所と蟻道の造設場所. 沖生会誌 22: 37-45.
- 67) 安部琢哉 (1984) 西表島のマングロ - ブにおけるシロアリの種組成, 分布, コロニ - の密度. マングロ - ブ生態系に関する生理生態学的研究. pp. 141-152.
- 68) 安部琢哉 (1984) ケニアにシロア리를たずねて サバンナの記録1. しるあり 55: 10-16.
- 69) Abe, T. Darlington, J.P.E.C. (1985) Distribution and abundance of a mound-building termite, *Macrotermes michaelseni*, with special reference to its subterranean colonies and predators. *Physiol. Ecol. Jpn.* 22: 59-74.
- 70) 安部琢哉 (1985) シロアリの生活様式と進化. 創造の世界 55: 6-39.
- 71) 八木繁実; 安部琢哉 (1985) 東アフリカの昆虫 特にICIPEにおける農業害虫の研究を中心として. アフリカ研究 26: 71-86.
- 72) 安部琢哉 (1985) 生物的自然におけるバランスについて 熱帯におけるシロアリの生活と関連させて. 第四紀研究 24: 221-228.
- 73) 安部琢哉 (1985) ケニアにシロア리를たずねて サバンナの記録2. しるあり 59: 2-9.
- 74) Maki, K.; Abe, T. (1986) Proportion of soldiers in the colonies of a dry wood termite, *Neotermes koshunensis* (Kalotermitidae, Isoptera). *Physiol. Ecol., Jpn.* 23: 109-117.
- 75) 安部琢哉 (1986) シロアリのキノコ栽培. In: キノコの不思議. (ed. by 森毅). pp. 240-253. 光文社, 東京.
- 76) Abe, T. (1987) Evolution of life types in termites. In: Evolution and coadaptation in biotic communities. (ed. by Kawano, S.; Connell, J.H.; Hidaka, T.). pp. 128-148. Univ. of Tokyo Press, Tokyo.
- 77) Abe, T.; Kumagai, A. (1987) Trail polarity in the ant *Monomorium destructor*. In: Chemistry and biology of social insects. (ed. by Eder, J.; Rembold, H.). pp. 533-534. Verlag J. Peperny, Munchen.
- 78) Abe, T. (1987) Population structure of *Lamprologus savoryi*. *Ecol. Limnol. Tanganyika.* 4: 36-37.
- 79) 安部琢哉 (1987) 西表島の高菱, 古見におけるイリオモテヤマネコの糞の分布. 沖縄島嶼研究 5: 1-7.
- 80) Vachon, M.; Abe, T. (1988) Colonization of the Krakatau Islands (Indonesia) by scorpions. *Acta Arachnol.* 37: 23-32.

- 81) Fukumoto, Y.; Abe, T.; Taki, A. (1989) A novel form of colony organization in the 'queenless' ant *Diacamma rugosum*. *Physiol. Ecol., Jpn.* 26: 51-61.
- 82) 安部琢哉 (1989) 亜熱帯森林のシロアリの生態. *家屋害虫* 11: 43-50.
- 83) 安部琢哉 (1989) シロアリの生態 - 熱帯の生態学入門. 156 pp. 東京大学出版会, 東京.
- 84) Abe, T. (1990) Evolution of worker caste in termites. In: *Social insects and the environments*. (ed. by Veeresh, Gk.; Malik, B.; Viraktamaty, C.A.). pp. 29-30. Oxford & IBH, New Delhi.
- 85) Abe, T. (1990) Termite community in the grassland of Kenya with special reference to their feeding habits. In: *Social insects and the environments*. (ed. by Veeresh, Gk.; Malik, B.; Viraktamaty, C.A.). pp. 207-208. Oxford & IBH, New Delhi.
- 86) 安部琢哉 (1990) 体内微生物と共生するシロアリの驚異 新釈どうぶつ読本. 別冊宝島 119: 110-113.
- 87) Abe, T.; Higashi, M. (1991) Cellulose centered perspective on terrestrial community structure. *Oikos* 60: 127-133.
- 88) Higashi, M.; Yamamura, N.; Abe, T.; Burns, T. (1991) Why don't all termite species have a sterile worker caste? *Proc. R. Soc. Lond. B.* 246: 25-29.
- 89) Abe, T. (1991) Distribution and abundance of subterranean fungus-growing termites (Isoptera) in the grassland of Kajiado, Kenya. In: *Advances in management and conservation of soil fauna*. (ed. by Veeresh, Gk. et al.). pp. 111-121. Oxford & IBH, New Delhi.
- 90) 安部琢哉 (1991) サバンナにおけるシロアリの生態. *地形* 12: 189-202.
- 91) Abe, T. (1991) Ecological factors associated with the evolution of worker and soldier castes in termites. *Ann. Entomol.* 9: (in press).

FUJITA Noboru 藤田 昇

---

- 1) 田端英雄; 村田源; 藤田昇 (1974) 京都府の植物. 京都府公害対策室. [京都府, 植生, 植物群落, 貴重植物, 植生調査票]
- 2) 藤田昇 (1975) ギボウシ属の種類と生活. *新花卉* 85: 28-33. [日本産ギボウシ属, 分類, 外部形態, 生育場所, 地理分布]
- 3) 藤田昇 (1975) ギボウシ属植物の生育場所と耐湿性について. In: 第22回日本生態学会大会講演要旨集. p. 2D07. [ギボウシ属, 根の呼吸活性, 酸化力, 耐湿性]
- 4) Fujita, N. (1976) Habitat and water economy of Japanese *Hosta*. *Jap. J. Ecol.* 26: 71-81.

[Japanese Hosta, habitat preference, water economy, relative growth rate]

- 5) 藤田昇 (1976) 日本産ギボウシ属. 植物分類地理 27: 66-96. [ギボウシ属, 分類, 種類, 地理分布, 検索表]
- 6) 黒岩澄雄; 田端英雄; 藤田昇; 紺野康夫; 土屋和三; 高田研一; 角野康郎; 清水善和; 小島巖 (1976) 大峰山系の植生 (予報) I - 温帯林, Whittaker法による場合. In: 第23回日本生態学会大会講演要旨集. p. 1B9. [ブナ林, 環境傾度分析, 標高]
- 7) 黒岩澄雄; 田端英雄; 藤田昇; 紺野康夫; 土屋和三; 高田研一; 角野康郎; 清水善和; 小島巖 (1976) 大峰山系の植生 (II) - 温帯林, Goodall法, Braun-Blanquet法による場合. In: 第23回日本生態学会大会講演要旨集. p. 1B10. [ブナ林, 群落分類]
- 8) 藤田昇 (1977) ヒルムシロ科. In: 週刊朝日百科 世界の植物. (ed. by 北村四郎; 本田正次; 佐藤達夫). p. 2394. 朝日新聞社, 東京. [ヒルムシロ科]
- 9) 藤田昇 (1977) ヒルムシロ. In: 週刊朝日百科 世界の植物. (ed. by 北村四郎; 本田正次; 佐藤達夫). pp. 2394-2396. 朝日新聞社. [ヒルムシロ, 分類, 生育場所, 繁殖様式]
- 10) 黒岩澄雄; 田端英雄; 村田源; 藤田昇; 紺野康夫; 土屋和三; 高田研一; 角野康郎; 清水善和; 安溪貴子 (1977) 大峰山系の植生 (III) - 温帯林~亜寒帯林, Braun-Blanquet法・Goodall法による場合. In: 第24回日本生態学会大会講演要旨集. p. 176. [ブナ林, トウヒ林, 群落分類]
- 11) 黒岩澄雄; 田端英雄; 村田源; 藤田昇; 紺野康夫; 土屋和三; 高田研一; 角野康郎; 清水善和; 安溪貴子 (1977) 大峰山系の植生 (IV) - 温帯林~亜寒帯林, Whittaker法による場合. In: 第24回日本生態学会大会講演要旨集. [ブナ林, トウヒ林, 環境傾度分析, 標高]
- 12) 黒岩澄雄; 田端英雄; 村田源; 藤田昇; 紺野康夫; 土屋和三; 高田研一; 角野康郎; 清水善和; 安溪貴子 (1977) 大峰山系の植生 (V) - 暖帯林上部~温帯林, Braun-Blanquet法・Bray-Curtis法による場合. In: 第24回日本生態学会大会講演要旨集. p. 178. [カシ林, ブナ林, 群落分類]
- 13) 黒岩澄雄; 田端英雄; 村田源; 藤田昇; 紺野康夫; 土屋和三; 高田研一; 角野康郎; 清水善和; 安溪貴子 (1977) 大峰山系の植生 (VI) - 暖帯林上部~温帯林, Whittaker法の場合. In: 第24回日本生態学会大会講演要旨集. [カシ林, ブナ林, 環境傾度分析, 標高]
- 14) Fujita, N. (1978) Flooding tolerance of Japanese Hosta in relation to habitat preference. Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ. Ser. Biol. 7: 45-57. [Japanese Hosta, respiration, oxidative capacity, flooding tolerance]
- 15) Fujita, N. (1978) Reproductive capacity and leaf development of Japanese Hosta as viewed from ecology and evolution. Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ. Ser. Biol. 7: 59-86. [Japanese Hosta, distribution, habitat, fecundity, neotenic leaf development]
- 16) 田端英雄; 村田源; 小山博滋; 藤田昇; 土屋和三; 角野康郎; 片山雅男; 忠津哲光 (1978) 第2回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書. 京都府. [京都府, 特定植物群落, 植生調査票]
- 17) 田端英雄; 村田源; 藤田昇 (1979) 第2回自然環境保全基礎調査 植生調査報告書. 京都府.

[京都府北部, 植物群落, 植生調査票]

- 18) 藤田昇; 高田研一 (1979) ブナ林低木の生長について. In: 第26回日本生態学会大会講演要旨集. p. 178. [ブナ林, ササ, 実生, 生長様式]
- 19) 藤田昇; 高田研一 (1980) 天城山ブナ天然林の組成と更新様式. In: 第27回日本生態学会大会講演要旨集. p. 4. [太平洋型ブナ林, 階層, ササ]
- 20) 土屋和三; 藤田昇; 田端英雄; 松井淳 (1981) 深泥池浮島の植生. In: 深泥池の自然と人 深泥池学術調査報告書. (ed. by 深泥池学術調査団). pp. 92-94. 京都市文化観光局. [浮島, 高層湿原, ビュルテ, シュレンケ, ハリミズゴケ]
- 21) 土屋和三; 藤田昇; 田端英雄; 松井淳 (1981) 深泥池浮島の生態学的研究. In: 深泥池の自然と人. (ed. by 深泥池学術調査団). pp. 95-138. 京都市文化観光局. [高層湿原, 再生複合体, 浮島の浮沈, ミズゴケ, 水質, 遷移]
- 22) Kohyama, T.; Fujita, N. (1981) Studies in the Abies population of Mt. Shimagare I. survivorship curve. Bot. Mag. Tokyo 94: 55-68. [Abies forest, Mt. Shimagare, self-thinning, survivorship curve, wave regeneration]
- 23) 藤田昇 (1981) ブナ林の更新様式と構造. In: 森林の更新過程と機構の生態学的解析. (ed. by 黒岩澄雄). pp. 30-37. 文部省科学研究費補助金 (総合研究A) 研究成果報告書. [太平洋型ブナ林, 日本海型ブナ林, 階層, ササ, ギャップ更新]
- 24) 藤田昇 (1982) ササとブナ林の構造・組成. In: 第29回日本生態学会大会講演要旨集. p. 114. [ブナ林, 林床型, ギャップ, 階層]
- 25) 藤田昇; 紺野康夫; 高田研一; 蒔田明史; 鈴木英治; 浜端悦治; 三原貴子; 仲和夫; 中静透 (1983) 比良山系のイブキザサの開花枯死と植生変化 2. 植生変化. In: 第30回日本生態学会大会講演要旨集. p. 88. [一斉開花, ササ原, 種数, 被度]
- 26) 藤田昇; 紺野康夫; 高田研一; 蒔田明史; 鈴木英治; 浜端悦治; 三原貴子; 仲和夫; 中静透 (1983) 比良山系のイブキザサの開花枯死と植生変化 3. イブキザサ実生の定着と生長. In: 第30回日本生態学会大会講演要旨集. p. 87. [種子の被食, 稈密度, 初期生長]
- 27) 原口昭; 松井淳; 藤田昇 (1985) 深泥池の浮島・開水域・流入水の水質. In: 深泥池浮島高層湿原の再生と遷移機構の生態学的解析. (ed. by 黒岩澄雄). pp. 1-11. 文部省科学研究費補助金 (一般研究B) 研究成果報告書. [ミズゴケ湿原, 水質, pH, 電気伝導度, 溶存酸素, リン, 窒素]
- 28) 藤田昇; 片山雅男 (1985) 深泥池の水質とミズゴケ類の消長. In: 深泥池浮島高層湿原の再生と遷移機構の生態学的解析. (ed. by 黒岩澄雄). pp. 15-20. 文部省科学研究費補助金 (一般研究B) 研究成果報告書. [ミズゴケ, 伸長成長, pH, カルシウムイオン濃度, 耐水性]
- 29) 片山雅男; 清水善和; 土屋和三; 藤田昇 (1985) 深泥池浮島上における植生の主要構成種の種子発芽特性. In: 深泥池高層湿原の再生と遷移機構の生態学的解析. (ed. by 黒岩澄雄). pp. 21-32. 文部省科学研究費補助金 (一般研究B) 研究成果報告書. [種子発芽, 水中発芽, 冠水,

耐湿性]

- 30) 藤田昇 (1985) ギボウシ野生種の種類と生活. 植物と自然 19: 4-8. [ギボウシ, 分類, 生育場所, 発生変異, 多産性]
- 31) 田端英雄; 土屋和三; 清水善和; 藤田昇; 小池文人; 松井淳; 湯本貴和 (1985) ネパ - ル・ヒマラヤの植生 I - ララ湖周辺の植生 -. In: 第32回日本生態学会大会講演要旨集. p. 245. [西ネパ - ル, 植生, 垂直分布, 斜面方位]
- 32) 田端英雄; 土屋和三; 清水善和; 小池文人; 藤田昇; 松井淳; 湯本貴和 (1985) ネパ - ル・ヒマラヤの植生 II - ララ湖周辺の気象と植生. In: 第32回日本生態学会大会講演要旨集. p. 246. [西ネパ - ル, 植生, 斜面方位, 気温, 雨量]
- 33) 藤田昇 (1986) 日本海型のブナ林と太平洋型のブナ林の構造と組成. 種生物学研究 10: 1-13. [ブナ林, 階層構造, ササ, ギヤップ更新, 積雪量]
- 34) 藤田昇; 片山雅男; 原口昭; 松井淳; 土屋和三; 田端英雄 (1986) ミズゴケ類の消長からみた深泥池浮島の遷移と水質. In: 第33回日本生態学会大会講演要旨集. p. 66. [浮島, ミズゴケ湿原, 遷移, 水質]
- 35) 藤田昇 (1987) ブナ林構成樹種の太平洋型分布と日本海型分布. 植物分類・地理 38: 311-329. [ブナ帯, 分布類型, 分布限界, 温量指数, ササ]
- 36) 藤田昇 (1987) ジュンサイ. In: 京都植物たちの物語 古都の花と緑と作物. (ed. by 堀田満). pp. 131-134. かもがわ出版 京都. [ジュンサイ, 京料理, 水生植物, 水質]
- 37) 藤田昇 (1987) ヒオウギ ( 桜扇 ). In: 京都植物たちの物語. (ed. by 堀田満). pp. 160-162. かもがわ出版. [ヒオウギ, 祇園祭]
- 38) 藤田昇 (1987) 日本海型ブナ林低木の光環境と分布・生長. In: 第34回日本生態学会大会講演要旨集. p. 107. [日本海型ブナ林, 相対光強度, 常緑性低木, 落葉性低木]
- 39) 藤田昇 (1988) 浮島. In: 世界大百科事典. p. 206. 平凡社, 東京. [浮島]
- 40) 藤田昇 (1988) 塩生植物. In: 世界大百科事典. p. 747. 平凡社, 東京. [塩生植物, 耐塩性]
- 41) 藤田昇 (1988) 乾生植物. In: 世界大百科事典. p. 398. 平凡社, 東京. [乾生植物, 乾生形態, 耐乾性]
- 42) 藤田昇 (1988) ギボウシ. In: 世界大百科事典. pp. 125-126. 平凡社, 東京. [ギボウシ, 分類, 生育場所]
- 43) 藤田昇 (1988) 極相. In: 世界大百科事典. pp. 403-404. 平凡社, 東京. [単極相説, 多極相説]
- 44) 藤田昇 (1988) 高木限界. In: 世界大百科事典. p. 25. 平凡社, 東京. [高木限界, 樹木限界, 森林限界]
- 45) 藤田昇 (1988) 湿原. In: 世界大百科事典. pp. 371-372. 平凡社, 東京. [高層湿原, 低層湿原, 湿性遷移, 水位, 水質]
- 46) 藤田昇 (1988) 照葉樹林. In: 世界大百科事典. pp. 571-572. 平凡社, 東京. [照葉樹林, 常緑

広葉樹, 暖温帯]

- 47) 藤田昇 (1988) 常緑樹. In: 世界大百科事典. pp. 578-579. 平凡社, 東京. [常緑樹, 落葉樹]
- 48) 藤田昇 (1988) 植生. In: 世界大百科事典. pp. 23-25. 平凡社, 東京. [植生, 植物群落, 植生帯]
- 49) 藤田昇 (1988) 植物群落. In: 世界大百科事典. pp. 49-50. 平凡社, 東京. [植物群落, 遷移, 再生]
- 50) 藤田昇 (1988) 植物社会学. In: 世界大百科事典. p. 50. 平凡社, 東京. [植物社会学, 群落分類]
- 51) 藤田昇 (1988) 森林限界. In: 世界大百科事典. p. 500. 平凡社, 東京. [森林限界, 高木限界, 樹木限界]
- 52) 藤田昇 (1988) 水草. In: 世界大百科事典. pp. 570-571. 平凡社, 東京. [水草]
- 53) 藤田昇 (1988) 遷移. In: 世界大百科事典. pp. 31-32. 平凡社, 東京. [遷移, 遷移系列, 乾性遷移, 湿性遷移]
- 54) 藤田昇 (1988) 相観. In: 世界大百科事典. p. 236. 平凡社, 東京. [相観, 景観, 群系]
- 55) 藤田昇 (1988) 中生植物. In: 世界大百科事典. p. 292. 平凡社, 東京. [中生植物, 乾生植物, 湿生植物]
- 56) 藤田昇 (1988) 落葉樹. In: 世界大百科事典. pp. 338-339. 平凡社, 東京. [落葉樹, 常緑樹]
- 57) 塚本洋太郎; 藤田昇 (1988) ギボウシ属. In: 園芸植物大事典. (ed. by 塚本洋太郎). pp. 55-61. 小学館, 東京. [ギボウシ属, 分類, 園芸品種]
- 58) 蒔田明史; 紺野康夫; 藤田昇; 高田研一; 浜端悦治 (1988) 比良山系におけるイブキザサの一斉開花. *Bamboo J.* 6: 14-21. [イブキザサ, 一斉開花, 開花地図, 開花時期]
- 59) Tabata, H.; Tsuchiya, K.; Shimizu, Y.; Fujita, N.; Matsui, K.; Koike, F.; Yumoto, T. (1988) Vegetation and climatic changes in Nepal Himalayas. I. Vegetation and climate in Nepal Himalayas as basis of palaeoecological studies. In: *Proc. Indian natn. Sci. Acad.* pp. 530-537. [palaeoecology, climatic change, Nepal, pollen, altitudinal vegetation zone]
- 60) 田端英雄; 村田源; 小山博滋; 藤田昇 (1988) 第3回自然環境保全基礎調査 植生調査報告書 (京都府). 環境庁. [京都府南部, 植生, 地質, 植物群落, 植生調査票]
- 61) 田端英雄; 小山博滋; 村田源; 藤田昇; 片山雅男 (1988) 第3回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書 生育状況調査 (京都府). 環境庁. [特定植物群落, 生育状況, 現況写真, 毎木調査表, 植生調査票]
- 62) 藤田昇 (1988) 日本海型ブナ林ササ型林床の光条件と低木の分布. In: 第35回日本生態学会大会講演要旨集. p. 164. [日本海型ブナ林, ササ層, 低木層, 相対光強度]
- 63) 藤田昇; 紺野康夫; 高田研一; 蒔田明史; 浜端悦治; 三原貴子; 仲和夫; 中静透 (1988) 比良山系のイブキザサの開花枯死と植生変化 4. 10年間の植生変化. In: 第35回日本生態学会大会講演

- 要旨集. p. 131. [ササ枯死地, 植生変化, 被度]
- 64) 田端英雄; 小山博滋; 村田源; 藤田昇; 片山雅男 (1989) 第3回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書 追加調査・追跡調査(京都府). 環境庁. [特定植物群落, 特定植物群落調査票]
- 65) 藤田昇 (1989) ギボウシ属. In: 世界有用植物事典. (ed. by 堀田満). pp. 533-534. 平凡社 東京. [ギボウシ属, 分類, 観賞植物, 食用植物]
- 66) 辻英夫; 藤田昇; 片山雅男; 原口昭; 田中歩; 柴坂三根夫 (1989) 京都市深泥池浮島高層湿原の植物流理・生態学的研究. 日本生命財団研究成果報告書. [浮島, 高層湿原, ミズゴケ, 水質, 富栄養化, ヨシ, 低層湿原化]
- 67) 藤田昇; 片山雅男; (1989) 京都市深泥池浮島湿原の環境とその再生・遷移. In: 第36回日本生態学会大会講演要旨集. p. 136. [ミズゴケ湿原, 再生, 遷移, 水質, 水位, 酸化還元電位]
- 68) Fujita, N.; Shibasaka, M. (1990) Effects of pH and calcium content on growth and survival of Sphagnum species. In: Abstracts V INTECOL. p. 356. [Sphagnum, elongation, dry weight increase, cation exchange capacity]
- 69) 藤田昇 (1990) プナ林常緑性低木の葉の寿命. In: 日本植物学会第55回大会研究発表記録. p. 198. [常緑性低木, 相対光強度, 葉寿命, 葉サイズ]
- 70) 藤田昇; 片山雅男; 八田修三 (1991) 京都市深泥池浮島高層湿原の再生と遷移. In: 第38回日本生態学会大会講演要旨集. p. 178. [ミズゴケ湿原, 植生の座標づけ, 水位, 水質]
- 71) 藤田昇; 柴坂三根夫 (1991) pH・カルシウム濃度とミズゴケ類の成長. In: 日本植物学会第56回大会研究発表. p. 209. [ミズゴケ, 伸長成長, 枯死, pH, カルシウムイオン濃度]

INOUE, Tamiji 井上民二

---

- 1) 井上民二 (1971) イヨシロオビアブの分散と大発生. 京都大学農学部卒業論文. 70 pp. [アブ, 昆虫, 分散]
- 2) 上村清; 渡辺護; 井上民二 (1972) イヨシロオビアブの季節消長と個体数推定および発生源について. 衛生動物 23: 1-9. [アブ, 分散, 季節消長, 個体群生態学]
- 3) 井上民二 (1972) 生物の『動き』の研究史. 個体群生態学会会報 21: 18-32. [分散, 行動]
- 4) 井上民二 (1972) 昆虫の分散機構の分析. 植物防疫 26: 32-37. [分散, 昆虫]
- 5) Inoue, T.; Kamimura, K.; Watanabe, M. (1973) A quantitative analysis of dispersal in a horse-fly, *Tabanus iyonensis* Shiraki and its application to estimate the population size. Res. Popul. Ecol. 14: 209-233. [dispersal, population ecology, horse-fly, insect]
- 6) 井上民二 (1974) カマキリの生態学的研究 - エサの分布に対する反応 -. 京都大学大学院農

- 学研究科修士論文. 52 pp. [カマキリ, 捕食行動, 最適戦略]
- 7) 井上民二; 松良俊明 (1975) カマキリ - その捕食行動 -. 自然 30: 48-56. [カマキリ, 捕食行動, 最適戦略]
  - 8) 井上民二 (1975) カマキリの種内関係 (共食いと交尾). インセクトリウム 12: 258-259. [カマキリ, 共食い, 交尾]
  - 9) Matsura, T.; Inoue, T.; Hosomi, Y. (1975) Ecological studies of a mantid, *Paratenodera angustipennis* de Saussure I. Evaluation of the feeding condition in natural habitats. Res. Popul. Ecol. 17: 64-76. [mantis, Mantodeae, insect, foraging, feeding]
  - 10) Inoue, T.; Ohgushi, R. (1976) A simulation model of the arrowhead scale population on a citrus tree in relation to control programmes (I). Res. Popul. Ecol. 18: 89-104. [citrus pest, simulation, control program]
  - 11) Inoue, T.; Ohgushi, R. (1977) A simulation model of the arrowhead scale population on a citrus tree in relation to control programmes (II) Dispersal of the scale and the amount of petroleum oil. Res. Popul. Ecol. 18: 302-318. [citrus pest, simulation, control program]
  - 12) Inoue, T. (1978) A new regression method for analyzing animal movement patterns. Res. Popul. Ecol. 20: 141-163. [dispersal pattern, method]
  - 13) Fujita, K.; Inoue, T.; Takafuji, A. (1979) Systems analysis of an acarine predator-prey system. I. Res. Popul. Ecol. 21: 105-119. [predator-prey system, simulation, system analysis]
  - 14) 井上民二 (1979) 標識再捕法によって得られたデ - タにもとづく個体群への全加入数の推定法. In: 文部省科学研究費一般研究B 『害虫個体群の分布動態に関する数理的および実証的研究』研究成果報告書 (代表 巖俊一). pp. 24-34. [個体数推定法]
  - 15) 井上民二 (1979) 動物の捕食行動とその最適性に関する生態学的研究. 京都大学大学院農学研究科 博士論文. 304 pp. [捕食行動, 最適戦略]
  - 16) 井上民二 (1980) ディ - ビス, N. B.; クレブス, J. R. 「生態学, 自然選択, 社会行動を考えるにあたって」の翻訳と解説. 個体群生態学会報 33: 20-32. [行動生態学, 総説, 翻訳]
  - 17) 井上民二 (1980) 最適捕食戦略 - カマキリの捕食行動を中心として -. 遺伝 34 (8): 41-48. [最適戦略, カマキリ]
  - 18) 松良俊明; 井上民二 (共著) (1980) カマキリの捕食行動. In: 無名のものたちの世界 III. pp. 71-91. 思索社, 東京. [カマキリ, 捕食行動]
  - 19) 井上民二 (1981) 行動生態学の最近の進歩 - 動物の採餌戦略は最適に進化しているか? 植物防疫 35: 333-338. [行動生態学, 採餌戦略, 最適戦略]
  - 20) 藤田和幸; 井上民二; 高藤晃雄 (1981) 捕食者と被食者の相互作用の解析. 植物防疫 35:

339-342. [捕食モデル]

- 21) 井上民二 (1981) 絶対比較型捕食戦略のモデル. In: 文部省科学研究費 総合研究 『動物の適応戦略と個体群動態 -個体群生物学よりのアプローチ-』 中間報告書 (代表 巖俊一). pp. 4-7. [採餌戦略, 最適戦略]
- 22) 井上民二 (1982a) 最適パッチ利用戦略に対する全知を仮定した解析解. In: 文部省科学研究費 総合研究 『動物の適応戦略と個体群動態 - 個体群生物学よりのアプローチ -』 研究報告書 (代表 巖俊一・久野英二). pp. 13-22. [採餌戦略, 最適戦略]
- 23) 井上民二 (1982b) カブリダニ・ハダニ相互作用システムの解析. In: トヨタ財団助成研究報告書 (代表 巖俊一・久野英二). pp. 50-55. [システム分析, 捕食モデル]
- 24) Inoue, T.; Matsura, T. (1983) Foraging strategy of a mantid, *Paratenodera angustipennis* S.: Mechanisms of switching tactics between ambush and active search. *Oecologia* 56: 264-271. [foraging strategy, mantid, insect, optimal foraging]
- 25) Inoue, T. (1983) Foraging strategy of a non-omniscient predator in a changing environment (I) Model with a data window and absolute criterion. *Res. Popul. Ecol.* 25: 81-104. [foraging strategy, mantid, insect, optimal foraging]
- 26) Inoue, T. (1983) Foraging strategy of a non-omniscient predator in a changing environment (II) Model with two data windows and a relative comparison criterion. *Res. Popul. Ecol.* 25: 264-279. [foraging strategy, bird, optimal foraging]
- 27) Sakagami, S. F.; Inoue, T.; Yamane, S.; Salmah, S. (1983) Nest architecture and colony composition of the Sumatran stingless bee *Trigona (Tetragonula) laeviceps*. *Kontyu* 51: 100-111. [stingless bee, Apidae, nest structure]
- 28) Sakagami, S. F.; Yamane, S.; Inoue, T. (1983) Oviposition behavior of two Southeast Asian stingless bees, *Trigona (Tetragonula) laeviceps* and *T. (T.) pagdeni*. *Kontyu* 51: 441-457. [oviposition behavior, stingless bee, Apidae]
- 29) Sakagami, S. F.; Inoue, T. (1983) Introduction for stingless bees. In: *Ecological study on social insects in central Sumatra with special reference to wasps and bees.* (ed. by Sumatra Nature Study (Entomology) group). p. 37. [stingless bee, Apidae]
- 30) Sakagami, S. F.; Inoue, T.; Yamane, S.; Salmah, S. (1983) Stingless bees collected from Sumatera Barat. In: *Ecological study on social insects in central Sumatra with special reference to wasps and bees.* (ed. by Sumatra Nature Study (Entomology) group). pp. 37-38. [stingless bee, Apidae]
- 31) Sakagami, S. F.; Inoue, T.; Yamane, S.; Salmah, S. (1983) Nesting habits of Sumatran stingless bees. In: *Ecological study on social insects in central Sumatra with special reference to wasps and bees.* (ed. by Sumatra Nature Study (Entomology) group). pp.

- 38-45. [stingless bee, Apidae, nest structure]
- 32) Salmah, S.; Inoue, T.; Sakagami, S. F.; Yamane, S. (1983) Colony composition of *Trigona* (*Tetragonula*) *laeviceps*. In: Ecological study on social insects in central Sumatra with special reference to wasps and bees. (ed. by Sumatra Nature Study (Entomology) group). p. 46. [stingless bee, Apidae, nest structure]
- 33) Sakagami, S. F.; Yamane, S.; Inoue, T. (1983) Intranidal behaviors of *Trigona* (*Tetragonula*) *laeviceps* and *T. (Trigonella) moorei*. In: Ecological study on social insects in central Sumatra with special reference to wasps and bees. (ed. by Sumatra Nature Study (Entomology) group). pp. 46-51. [stingless bee, Apidae, behavior]
- 34) Inoue, T.; Sakagami, S. F.; Salmah, S.; Yamane, S. (1983) The process of colony multiplication in *Trigona* (*Tetragonula*) *laeviceps*. In: Ecological study on social insects in central Sumatra with special reference to wasps and bees. (ed. by Sumatra Nature Study (Entomology) group). pp. 51-56. [stingless bee, Apidae, colony multiplication]
- 35) Inoue, T.; Salmah, S. (1983) Parasitoids infesting Sumatran mantids' oothecae. In: Ecological study on social insects in central Sumatra with special reference to wasps and bee. (ed. by Sumatra Nature Study (Entomology) group). pp. 62-63. [mantid, Mantodae, egg]
- 36) Salmah, S.; Inoue, T.; Sakagami, S. F. (1984) Relationship between age sequence and pigmentation in the stingless bee *Trigona* (*Tetragonula*) *laeviceps*. *J. Apic. Res.* 23: 55-58. [stingless bee, Apidae]
- 37) Inoue, T.; Sakagami, S. F.; Salmah, S.; Yamane, S. (1984) The process of colony multiplication in the Sumatran stingless bee *Trigona* (*Tetragonula*) *laeviceps*. *Biotropica* 16: 100-111. [stingless bee, Apidae, colony multiplication]
- 38) Inoue, T.; Sakagami, S. F.; Salmah, S.; Nukmal, N. (1984) Discovery of successful absconding in the stingless bee *Trigona* (*Tetragonula*) *laeviceps*. *J. Apic. Res.* 23: 136-142. [stingless bee, Apidae, absconding]
- 39) Sakagami, S. F.; Inoue, T. (1985) Taxonomic notes on three bicolorous *Tetragonula* stingless bees in Southeast Asia. *Kontyu* 53: 174-189. [stingless bee, Apidae]
- 40) Sakagami, S. F.; Inoue, T.; Salmah, S. (1985) Key to the stingless bee species found or expected from Sumatra. In: Evolutionary ecology of insects in humid tropics, especially in Central Sumatra. (ed. by Sumatra Nature Study (Entomology) group). pp. 37-43. [stingless bee, Apidae]
- 41) Inoue, T.; Salmah, S.; Yusuf, E. (1985) Foraging behavior of individual workers and

- foraging dynamics of colonies of three Sumatran stingless bees. In: Evolutionary ecology of insects in humid tropics, especially in Central Sumatra. (ed. by Sumatra Nature Study (Entomology) group). pp. 44-49. [stingless bee, Apidae, foraging behavior]
- 42) Inoue, T.; Salmah, S.; Abbas, I.; Yusuf, E. (1985) Foraging behavior of individual workers and foraging dynamics of colonies of three Sumatran stingless bees. Res. Popul. Ecol. 27: 373-392. [stingless bee, Apidae, foraging behavior]
- 43) 井上民二 (1986) ハリナシバチの巣別かれ. 自然学研究 1: 1-11. [ハリナシバチ]
- 44) 井上民二 (1986) 省農薬ミカンづくりの可能性. 現在農業 65: 256-259. [柑橘害虫]
- 45) Salmah, S.; Inoue, T.; Mardius, P.; Sakagami, S. F. (1987) Incubation period and post-emergence pigmentation in the Sumatran stingless bee, *Trigona* (*Trigonella*) *moorei*. Kontyu 55: 383-390. [stingless bee, Apidae]
- 46) Sakagami, S. F.; Inoue, T. (1987) Stingless bees of the genus *Trigona* (subgenus *Trigonella*) with notes on the reduction of spatha in male genitalia of the subgenus *Tetragonula* (Hymenoptera, Apidae). Kontyu 55: 610-627. [stingless bee, Apidae]
- 47) 井上民二 (1987a) 花と昆虫の生態学 花暦・虫暦. 日本の生物 1 (1): 38-41. [送紛生態学]
- 48) 井上民二 (1987b) 花と昆虫の生態学 ミツバチの仲間たち. 日本の生物 1 (2): 38-41. [送紛生態学]
- 49) 井上民二 (1988) ミナンカバウのハチミツ採り. インセクトリウム 25: 68-77. [ミツバチ]
- 50) 井上民二 共著 (1988) 四季に住む 京の昆虫たち. 京都新聞社. [昆虫, 雑文]
- 51) 市岡孝朗; 井上民二 (1989) 柑橘に寄生するカイガラムシに関する生態学的研究. I. 温州ミカンに寄生するカイガラムシ 3種のグレード法による推定. 日本応用動物昆虫学会誌 33: 76-81. [柑橘害虫]
- 52) Sakagami, S. F.; Inoue, T. (1989) Stingless bees of the genus *Trigona* (Subgen. *Geniotrioga*) (Hymenoptera, Apidae), with description of *T. (G.) incisa* sp. nov. from Sulawesi. Jpn. J. Ent. 57: 605-620. [stingless bee, Apidae]
- 53) Sakagami, S. F.; Inoue, T.; Yamane, S.; Salmah, S. (1989) Nests of the myrmecophilous stingless bee, *Trigona moorei*: How do bees initiate their nest within an arboreal ant nest? Biotropica 21: 265-274. [stingless bee, Apidae]
- 54) Kakutani, T.; Inoue, T.; Kato, M. (1989) Nectar secretion pattern of the dish-shaped flower, *Cayratia japonica* (Vitaceae), and nectar utilization patterns by insect visitors. Res. Popul. Ecol. 31: 381-400. [pollination ecology, nectar, honey bee]
- 55) 井上民二 (1990) スミソニアン其自然史学 - パナマの熱帯研究所での1年の経験から - . 生

- 物科学 42: 27-36. [博物館, 自然史, スミソニアン熱帯研究所]
- 56) 井上民二 (1990) 書評 チビアシナガバチの社会. 個体群生態学会会報 47: 94-97. [書評, 社会性昆虫]
- 57) 井上民二 (1990) ユカタン紀行 - マヤの養蜂を求めて -. ミツバチ科学 11: 49-58. [雑文, ミツバチ, 養蜂]
- 58) 井上民二 (1990) 花をめぐるマルハナバチの種間関係. 遺伝 44: 35-38. [送紛生態学, マルハナバチ]
- 59) Inoue, T.; Nakamura, K. (1990) Physical and biological background for insect studies in Sumatra. In: Natural history of social wasps and bees in equatorial Sumatra. (ed. by Sakagami, S. F.; Ohgushi, R.; Roubik, D.W.). pp. 1-12. Hokkaido University Press, Sapporo. [Sumatra, Indonesia, S. E. Asia, tropical ecology, climate, biogeography, population dynamics, population ecology, review]
- 60) Sakagami, S. F.; Inoue, T.; Salmah, S. (1990) Stingless bees in central Sumatra. In: Natural history of social wasps and bees in equatorial Sumatra. (ed. by Sakagami, S. F.; Ohgushi, R.; Roubik, D. W.). pp. 125-138. Hokkaido University Press, Sapporo. [taxonomy, stingless bee, Apidae, biogeography, S. E. Asia, Sumatra]
- 61) Salmah, S.; Inoue, T.; Sakagami, S. F. (1990) An analysis of apid bee richness (Apidae) in central Sumatra. In: Natural history of social wasps and bees in equatorial Sumatra. (ed. by Sakagami, S. F.; Ohgushi, R.; Roubik, D. W.). pp. 139-174. Hokkaido University Press, Sapporo. [pollination ecology, bee, Apidae, S. E. Asia, faunal study, habitat selection, community ecology, nest site selection, Sumatra]
- 62) Inoue, T.; Salmah, S.; Sakagami, S. F.; Yamane, S.; Kato, M. (1990) An analysis of anthophilous insects in central Sumatra. In: Natural history of social wasps and bees in equatorial Sumatra. (ed. by Sakagami, S. F.; Ohgushi, R.; Roubik, D. W.). pp. 175-200. Hokkaido University Press, Sapporo. [pollination ecology, flower-visiting insect, community ecology, S. E. Asia, Sumatra, biogeography]
- 63) Sakagami, S. F.; Inoue, T. (1990) Oviposition behavior of two Sumatran stingless bees, *Trigona (Tetragonula) laeviceps* and *T. (T.) fuscobalteata*. In: Natural history of social wasps and bees in equatorial Sumatra. (ed. by Sakagami, S. F.; Ohgushi, R.; Roubik, D. W.). pp. 201-218. Hokkaido University Press, Sapporo. [stingless bee, Apidae, behavioral ecology, oviposition behavior]
- 64) Inoue, T.; Adri; Salmah, S. (1990) Nest site selection and reproductive ecology of the Asian honey bee, *Apis cerana indica* in central Sumatra. In: Natural history of social wasps and bees in equatorial Sumatra. (ed. by Sakagami, S. F.; Ohgushi, R.; Roubik, D.

- W.). pp. 219-232. Hokkaido University Press, Sapporo. [honey bee, Apidae, reproductive ecology, Sumatra, S. E. Asia, nest site selection]
- 65) Inoue, T.; Roubik, D. W. (1990) Kin recognition of stingless bee, *Melipona fasciata*. In: Social insects and the environment. (ed. by Veeresh, G. K.; Mallik, B.; Viraktamath, C. A.). pp. 517-518. Oxford and IBH Publishing, New Delhi. [kin recognition, behavioral ecology, social insect, stingless bee, Apidae, Panama, neotropics]
- 66) Suka, T.; Inoue, T.; Yamaoka, R. (1990) Chemical cues for recognition of kin and nestmates in stingless bees. In: Social insects and the environment. (ed. by Veeresh, G. K.; Mallik, B.; Viraktamath, C. A.). p. 521. Oxford and IBH Publishing, New Delhi. [kin recognition, chemical cue, behavioral ecology, social insect]
- 67) Inoue, T. (1990) An analysis of apid bee richness in Sumatra. In: Social insects and the environment. (ed. by Veeresh, G. K.; Mallik, B.; Viraktamath, C. A.). pp. 581-582. Oxford and IBH Publishing, New Delhi. [pollination ecology, Sumatra, S. E. Asia, flower visiting insects, community ecology]
- 68) Inoue, T.; Kato, M. (1990) Inter- and intraspecific morphological variation of Japanese bumblebee species, and competition in flower utilization. In: Abstracts of the plenary, symposium papers and posters presented at the V International Congress of Ecology. Yokohama. p. 14. [character displacement, bumble bee, Apidae, morphology, competition, community ecology]
- 69) Kato, M.; Kakutani, T.; Inoue, T.; Itino, T. (1990) Insect-flower relationship in the primary beech forest of Ashu, Kyoto: An overview of the flowering phenology and the seasonal pattern of insect visits. Contributions from the Biological Laboratory, Kyoto University 27: 309-375. [pollination ecology, Kyoto, Japan, flowering phenology, flower visiting insect]
- 70) Inoue, T.; Kato, M.; Kakutani, T.; Suka, T.; Itino, T. (1990) Insect-flower relationship in the temperate deciduous forest of Kibune, Kyoto: An overview of the flowering phenology and the seasonal pattern of insect visits. Contributions from the Biological Laboratory, Kyoto University 27: 377-463. [pollination ecology, Kyoto, Japan, flowering phenology, flower visiting insect]
- 71) Kakutani, T.; Inoue, T.; Kato, M.; Ichihashi, H. (1990) Insect- flower relationship in the campus of Kyoto University, Kyoto: An overview of the flowering phenology and the seasonal pattern of insect visits. Contributions from the Biological Laboratory, Kyoto University 27: 465-521. [pollination ecology, Kyoto, Japan, flowering phenology, flower visiting insect]

- 72) 井上民二 (1991) 書評『行動生態学(原著第2版)』. 日本動物行動学会NEWSLETTER. 18: 28-29. [書評, 行動生態学]
- 73) Kato, M.; Itino, T.; Hotta, M.; Inoue, T. (1991) Pollination of four Sumatran Impatiens species by hawkmoths and bees. *Tropics* 1: 59-73. [pollination ecology, morphologica matching, Impatiens, hawkmoth, bee, Sumatra, S. E. Asia]
- 74) Itoika, T.; Inoue, T. (1991) Settling-site selection and survival of two scale insects, *Ceroplastes rubens* and *C. ceriferus*. *Res. Popul. Ecol.* 33: 69-85. [habitat selection, scale insect, ideal free distribution, competition, survival process, citrus pest]
- 75) 井上民二 (1991) こんちゅう 昆虫. In: インドネシアの事典. (ed. by 石井米雄). pp. 179-180. 同朋舎, 京都. [昆虫, インドネシア, 熱帯]
- 76) 井上民二 (1991) 花と昆虫のエコロジ - 8 . 送粉共生系における形質置換 (1). *BIRDER* 5 (9): 50-54. [送粉生態学, 形質置換, マルハナバチ]
- 77) 井上民二 (1991) 花と昆虫のエコロジ - 9 . 送粉共生系における形質置換 (2). *BIRDER* 5 (10): 50-54. [送粉生態学, 形質置換, マルハナバチ]
- 78) Inoue, T. (1991) Worker oviposition behavior of stingless bees. In: 22nd International Ethological Conference. [oviposition behavior, social insect, stingless bee, Apidae, behavioral ecology]
- 79) Suka, T.; Inoue, T.; Yamaoka, R. (1991) Kin recognition of stingless bees and its chemical basis. In: 22nd International Ethological Conference. [Kin recognition, stingless bee, social insect, Apidae]
- 80) 井上民二; 加藤真 (1991) 植物の送粉者群集の特性とその保全. In: 日本植物学会第56回大会研究発表記録. pp. 80-80. [送粉生態学, 保全生態学, 比較群集生態学]
- 81) 井上民二 (1991) 動物学における海外学術調査の動向 - スマトラ自然研究計画をケ - スタディする -. 海外学術調査ニューズレタ - 20: 5-9. [スマトラ, 研究業績, 総説]
- 82) 井上民二監訳 (1991) マルハナバチの経済学 (ベルンド・ハインリッチ著). 294 pp. 文一総合出版社, 東京. [翻訳, マルハナバチ, 経済学, 生態学, 進化学]
- 83) Inoue, T.; Nakamura, K. (1991) Population dynamics of animals in unpredictably-changing tropical environments. In: International symposium on diversity and flexibility of biotic communities in fluctuating environments. p. 19. [tropical ecology, population dynamics, global change]
- 84) 井上民二 (1991) 精密な昆虫の認知能力 - 血縁もアンテナでピタリ. 毎日新聞 夕刊 1991/12/21.

- 1) 川那部浩哉 (1952) パチンコの推計学. 親学 1952 (10): 22-27.
- 2) 川那部浩哉 (1952) 生物統計法によせて. 民科京都生物部会ニュー - ス 8: 2-3.
- 3) 原田英司; 川那部浩哉 (1955) コメツキガニの行動と相互作用. 日本生態学会誌 4: 162-165.
- 4) 川那部浩哉; 宮地伝三郎; 森 圭一; 原田英司; 水原洋城; 大串竜一 (1956) 溯上アユの生態 - とくに淵におけるアユの生活様式について -. 京都大学理学部生理生態学研究業績 79: 1-37, pl. 1.
- 5) 大串竜一; 川那部浩哉; 原田英司 (1956) 淵の底の昆虫群集. 生理生態 7: 61-71.
- 6) 森 圭一; 布施慎一郎; 原田英司; 川那部浩哉; 橘川次郎; 水原洋城; 三浦泰蔵, 訳 (1956) 生態学の基礎 (E. P. オダム著). 12+432 pp. 朝倉書店, 東京.
- 7) 川那部浩哉 (1957) アユのなわばり. 自然 1957 (8): 3-11.
- 8) 川那部浩哉; 水野信彦; 宮地伝三郎; 森 圭一; 大串竜一; 西村 登 (1957) 溯上アユの生態 II - とくに生息密度と生活様式について -. 生理生態 7: 145-167.
- 9) 川那部浩哉; 森 圭一; 水野信彦 (1957) 溯上アユの生息密度と淵の利用のしかた. 日本生態学会誌 7: 22-26.
- 10) 水野信彦; 川那部浩哉 (1957) なわばりの密集した地域におけるアユの行動. 日本生態学会誌 7: 26-30.
- 11) 川那部浩哉 (1957) アユの社会構造と生産 - 生息密度と関連づけて -. 日本生態学会誌 7: 131-137.
- 12) 川那部浩哉; 水野信彦; 西村 登 (1957) アユは河床型をいかに利用するか - アユの密度と体長分布 -. 日本水産学会誌 23: 430-434.
- 13) 川那部浩哉 (1957) 採集者のための淡水魚の検索表. 自刊. 34 pp.
- 14) 川那部浩哉 (1958) 書評「日本ザル - この見事な社会構造 - 水原洋城著」. 日本読書新聞 (詳細不明).
- 15) 原田英司; 川那部浩哉 (1958) 鞍馬山の植生と動物相 いわゆる植生の遷移系列にそって. 生理生態 8: 67-79.
- 16) Kawanabe, H. (1958) On the significance of the social structure for the mode of density effect in a salmon-like fish, 'Ayu', *Plecoglossus altivelis* Temminck et Schlegel. Memoirs of College of Science, University of Kyoto, Ser. B 25: 171-180.
- 17) 水野信彦; 川那部浩哉; 宮地伝三郎; 森 圭一; 児玉浩憲; 大串竜一; 日下部有信; 古屋八重子 (1958) 川の魚の生活 I. コイ科4種の生活史を中心にして. 京都大学理学部生理生態学研究業績 81: 1-48.
- 18) 川那部浩哉 (1958) さかなの生活. 科学読売 10 (8): 25-28.

- 19) 川那部浩哉; 大崎晃三 (1958) 生物学シンポジウムをふりかえって. 民科京都生物部会ニュー - ス 22: 1-3.
- 20) 川那部浩哉; 森 主一; 水野信彦 (1959) アユの成長と藻類量, そのほか. 生理生態 8: 118-123.
- 21) Kawanabe, H. (1959) Food competition among fishes in some rivers of Kyoto Prefecture, Japan. Memoirs of College of Science, University of Kyoto, Ser. B 26: 253-268.
- 22) 川那部浩哉 (1959) さかなの社会生活. In: 動物の社会と個体. (ed. by 今西錦司). pp. 49-61. 岩波書店, 東京.
- 23) 川那部浩哉 (1959) 生態学実習の記録を読んで - 高校の「生態学」実習無用論 - . 民科京都生物部会ニュー - ス 25: 1-3.
- 24) 川那部浩哉 (1959) 書評 「日本魚名の研究 渋沢敬三著」. 図書新聞 1959 (詳細不明).
- 25) 川那部浩哉 (1960) 川の動物群集をどうとらえるか - 食物関係にもとづく群集理解の試み - . 生理生態 9: 1-10.
- 26) 城 五郎; 富田恒男; 小野寺好之; 宮地伝三郎; 森 主一; 川那部浩哉; 水野信彦; 児玉浩憲; 手塚洋子 (1960) 川の魚の生活 II. 魚類 5 種の生活史と群集構造. 20 pp. 京都府農林部水産課.
- 27) 宮地伝三郎; 森 主一; 川那部浩哉; 水野信彦; 児玉浩憲; 友田淑郎; 大串竜一; 古屋八重子 (1961) 魚類の現状. In: 天ヶ瀬ダム建設にともなう漁業補償のための生物調査報告. pp. 14-20. 近畿地方建設局天ヶ瀬ダム工事事務所, 京都.
- 28) 川那部浩哉 (1961) 書評「進化学 鹿間時夫 著」. 自然 16 (10): 56.
- 29) 名越 誠; 川那部浩哉; 水野信彦; 宮地伝三郎; 森 主一; 杉山幸丸; 牧 岩男; 斎藤洋子 (1962) 川の魚の生活 III. オイカワの生活史を中心にして. 京都大学理学部生理生態学研究業績 82: 1-19.
- 30) 川那部浩哉 (1962) トラ四題. 平安 1962 (1): 6-7.
- 31) 宮地伝三郎; 川那部浩哉 (1962) はじめに. In: 中湖干拓・淡水化事業に伴なう魚族生態調査報告. (ed. by 宮地伝三郎). pp. 1-12.
- 32) 川那部浩哉; 手塚洋子 (1962) 漁業日誌記録調査と聞き取り調査による魚族生態の概要. In: 中湖干拓・淡水化事業に伴なう魚族生態調査報告. (ed. by 宮地伝三郎). pp. 106-112.
- 33) 川那部浩哉 (1962) 魚類の現存量について. In: 中湖干拓・淡水化事業に伴なう魚族生態調査報告. (ed. by 宮地伝三郎). pp. 113-122.
- 34) 川那部浩哉 (1962) 魚類と餌生物との関係 - はじめに - . In: 中湖干拓・淡水化事業に伴なう魚族生態調査報告. (ed. by 宮地伝三郎). p. 123.
- 35) 坂本充; 原田英司; 川那部浩哉 (1962) 生産関係. In: 中湖干拓・淡水化事業に伴なう魚族生態調査報告. (ed. by 宮地伝三郎). pp. 135-147.

- 36) 川那部浩哉 (1962) ボラ. In: 中湖干拓・淡水化事業に伴なう魚族生態調査報告. (ed. by 宮地伝三郎). pp. 160-162.
- 37) 川那部浩哉; 浅野博利 (1962) その他の魚種. In: 中湖干拓・淡水化事業に伴なう魚族生態調査報告. (ed. by 宮地伝三郎). pp. 170-179.
- 38) 川那部浩哉; 宮地伝三郎 (1962) 干拓の影響 - はじめに -. In: 中湖干拓・淡水化事業に伴なう魚族生態調査報告. (ed. by 宮地伝三郎). p. 203.
- 39) 森主一; 川那部浩哉 (1962) 水質変化と生産. In: 中湖干拓・淡水化事業に伴なう魚族生態調査報告. (ed. by 宮地伝三郎). pp. 203-204.
- 40) 川那部浩哉 (1962) 生産関係の変化. In: 中湖干拓・淡水化事業に伴なう魚族生態調査報告. (ed. by 宮地伝三郎). p. 209.
- 41) 川那部浩哉 (1962) 魚類の変化 (種別). In: 中湖干拓・淡水化事業に伴なう魚族生態調査報告. (ed. by 宮地伝三郎). pp. 210-215.
- 42) 川那部浩哉 (1962) 魚類と甲殻類の水域別被害総括. In: 中湖干拓・淡水化事業に伴なう魚族生態調査報告. (ed. by 宮地伝三郎). pp. 215-217.
- 43) 川那部浩哉 (1962) 漁獲量の変化. In: 中湖干拓・淡水化事業に伴なう魚族生態調査報告. (ed. by 宮地伝三郎). p. 217.
- 44) 川那部浩哉 (1962) 生産力増強への数種の試み. In: 中湖干拓・淡水化事業に伴なう魚族生態調査報告. (ed. by 宮地伝三郎). pp. 217-218.
- 45) 東幹夫; 原田英司; 石黒俊雄; 伊沢紘生; 川那部浩哉; 牧岩男; 名越誠; 須永哲雄; 高松史朗; 竹田瑠美子; 友田淑郎; 柳島静江; 水田国康; 村上興正; 中村央; 西垣定治郎; 佐藤安雄; 辻英明 (1962) 書評 「動物生態学 宮地・加藤・森・森下・渋谷・北沢著」. 日本生態学会誌 12: 157-160.
- 46) 川那部浩哉 (1962) 川の生物群集. 科学の実験 13: 441-446.
- 47) 川那部浩哉 (1962) アユの生活. 科学の実験 13: 471-476.
- 48) 森主一; 川那部浩哉; 水野信彦 (1962) ダム湖およびそれに連なる川における魚類の生態学的研究 1. In: ダム湖の陸水生物学的研究. (ed. by 津田松苗). pp. 5-7.
- 49) 水野信彦; 森主一; 川那部浩哉 (1963) ダム湖およびそれに連なる川における魚類の生態学的研究 2. In: ダム湖の陸水生物学的研究. (ed. by 津田松苗). pp. 8-10.
- 50) 川那部浩哉 (1963) 植林地に火をいれる - 山焼き屋たちの弁 -. 朝日新聞 1963/9/1.
- 51) 川那部浩哉 (1963) 川の生物生産量と生産関係. 陸水学会誌 24: 1-15.
- 52) 宮地伝三郎; 川那部浩哉; 水野信彦 (1963) 原色日本淡水魚類図鑑. 275 pp., 44 pls. 保育社, 大阪.
- 53) 川那部浩哉 (1964) アユのなわばり 付 京都北山の淡水魚. In: 京都の自然. pp. 106-108. 六月社, 大阪.
- 54) 川那部浩哉 (1964) びわ湖と淀川の魚. In: 京都の自然. pp. 156-157. 六月社, 大阪.

- 55) 原田英司; 川那部浩哉 (1964) 生物学的生産に関する諸概念の検討. 生理生態 12: 300-316.
- 56) 水野信彦; 森主一; 川那部浩哉 (1964) ダム湖およびそれに連なる川における魚類の生態学的研究. 淡水生物 9: 4-8.
- 57) Miyadi, D., Kawanabe, H.; Harada, E. (1964) Ecology and biological production of Lake Naka-umi and adjacent regions. 1. General introduction. Special Publication, Seto Marine Biological Laboratory, Ser. 2 1: 1-7 (+1pl).
- 58) 川那部浩哉 (1964) 琵琶湖の現代の姿 - その生態学的側面 -. 科学の実験 15: 684-691.
- 59) 川那部浩哉 (1964) 講座新百学連環・動物生態学 1. 日本読書新聞 (詳細不明).
- 60) 川那部浩哉 (1964) 講座新百学連環・動物生態学 2. 日本読書新聞 (詳細不明).
- 61) 川那部浩哉 (1964) 講座新百学連環・動物生態学 3. 日本読書新聞 (詳細不明).
- 62) 川那部浩哉 (1964) 「食べない」釣り. 毎日新聞 (夕刊) 1964/5/28.
- 63) 川那部浩哉 (1964) 1970年代の動物生態学. In: 生物科学の発展のための現状と将来について語るシンポジウム記録. (ed. by 日本学術会議生物科学研究情報連絡会). pp. 34-41.
- 64) 川那部浩哉 (1965) 生態者の立場. 科学 35: 232-238.
- 65) 川那部浩哉 (1965) 河川. 科学の実験 16: 40-43.
- 66) 伊勢村寿三; 大田行人; 加藤淑裕; 川喜田愛郎; 川那部浩哉; 吉川秀男; 木原弘二; 近藤洋一; 佐藤七郎; 団勝磨; 時実利彦; 渡辺格, 編 (1966) 現代の生物学. 全9巻. 岩波書店, 東京.
- 67) 川那部浩哉 (1966) 生態学の歴史と展望. In: 現代の生物学 第9巻. pp. 1-18. 岩波書店, 東京.
- 68) 川那部浩哉 (1966) 生物群集における種の生産. In: 現代の生物学 第9巻. pp. 123-152. 岩波書店, 東京.
- 69) 川那部浩哉 (1966) 群集における生物生産. In: JPM-JPF 共同シンポジウム「群集をいかにとらえるか」. pp. 5-12.
- 70) 川那部浩哉 (1966) アユの生態研究小史. ミチュ - リン生物学研究 2: 235-255.
- 71) Kawanabe, H. (1967) Defecation ratio of a young crucian carp, *Carassius carassius*, in relation to its ingestion rate. *Memoirs of College of Science, University of Kyoto*, Ser. B 33: 157-162
- 72) 森主一; 川那部浩哉 (1967) びわ湖の自然とその保護. In: 陸水生物ならびに陸水生物群集の保護の方法に関する研究 (ed. by 津田松苗). 1: 15-16.
- 73) De La Cruz, A. A.; Kawanabe, H. (1967) The population and food habits of fish in a small estuarine pond. *Natural and Applied Science Bulletin* 20: 473-477.
- 74) 川那部浩哉 (1967) フナ類養魚の物質代謝測定法. In: 生態学実習書. (ed. by 生態学実習懇談会). pp. 135-140. 朝倉書店, 東京.
- 75) Kawanabe, H.; Saito, Y.; Sunaga, T.; Maki, I.; Azuma, M. (1968) Ecology and biological production of Lake Nakaumi and adjacent regions. 4. Distribution of fishes and their

- foods. Special Publication, Seto Marine Biological Laboratory, Ser. 2 2: 44-73 (+1 spec. table).
- 76) 川那部浩哉 (1968) 汽水域における生物生産 - 中海水系における生物関係を中心にして - . 地質学論集 3: 15-22.
- 77) 川那部浩哉 (1968) 阿賀野川における「水俣病」について. In: 陸水生物ならびに陸水生物群集の保護の方法に関する研究 (ed. by 津田松苗) 2: 95-99.
- 78) 川那部浩哉 (1968) 公害問題に生態学者として思う. 科学 38: 629.
- 79) 川那部浩哉 (1968) 日本動物学会第38回大会記事. 動物学雑誌 76: 351-352.
- 80) 川那部浩哉 (1969) 生産に関する用語と記号. In: 陸水生物生産研究法. (ed. by 森主一 ほか). pp. 1-7. 講談社, 東京.
- 81) 川那部浩哉 ; 平井賢一 (1969) 止水域の小型付着動物の測定法. In: 陸水生物生産研究法. (ed. by 森主一 ほか). pp. 115-119. 講談社, 東京.
- 82) 森下正明; 川那部浩哉 (1969) 生産に関する諸量と諸量間の関係. In: 陸水生物生産研究法. (ed. by 森主一 ほか). pp. 345-351. 講談社, 東京.
- 83) 川那部浩哉 ; 小野寺好之 (1969) 物質循環とエネルギー - 流転. In: 陸水生物生産研究法. (ed. by 森主一 ほか). pp. 352-357. 講談社, 東京.
- 84) 川那部浩哉 (1969) 群集全体の物質とエネルギー - の収支. In: 陸水生物生産研究法. (ed. by 森主一 ほか). pp. 367-374. 講談社, 東京.
- 85) 川那部浩哉 (1969) 生産関係調査とその問題点 - 概論 -. In: 陸水生物生産研究法. (ed. by 森主一 ほか). pp. 374-375. 講談社, 東京.
- 86) 川那部浩哉 ; 長田芳和 (1969) デトリタスとその重要性 - 概論 -. In: 陸水生物生産研究法. (ed. by 森主一 ほか). pp. 388-389. 講談社, 東京.
- 87) 川那部浩哉 (1969) 「群集の生産性」から「群集における生物生産へ」. In: 陸水生物生産研究法. (ed. by 森主一 ほか). pp. 440-447. 講談社, 東京.
- 88) Kawanabe, H. (1969) The significance of social structure in production of the 'Ayu', *Plecoglossus altivelis*. In: H. R. McMillan Lectures in Fisheries 'Symposium on salmon and trout in streams'. (ed. by Northcote, T. G.). pp. 243-251. University of British Columbia, Vancouver.
- 89) 川那部浩哉 (1969) 川と湖の魚たち. 196 pp. 中央公論社, 東京.
- 90) 川那部浩哉 (1969) 著者との一時間「川と湖の魚たち」 朝日新聞 1969/4/15.
- 91) 川那部浩哉 (1969) 著書と著者「川と湖の魚たち」 中日・東京新聞 1969/4/18.
- 92) 川那部浩哉 (1969) 著者との対話「川と湖の魚たち」 共同通信系新聞 1969/4/20.
- 93) 川那部浩哉 (1969) アユのなわばり：その仕くみとエサの関係. フィッシング 1969(5): 40-41.

- 94) 川那部浩哉; 北村誠一; 近藤正義; 津田松苗; 西原巧; 盛下勇 (1969) 川と人間性社会 - 都市河川の過去・現在・未来 (淀川の場合). 公害と対策 5: 495-506.
- 95) 川那部浩哉 (1969) 落ちアユ. 医人薬人 18 (11): 22-23.
- 96) 川那部浩哉 (1970) 分布南限にアユの生態をみる. フィッシング 6: 100-103.
- 97) 川那部浩哉 (1970) アユの社会構造と生産II - 15年間の変化をみて -. 日本生態学会誌 20: 144-151.
- 98) 川那部浩哉, 編 (1970) 江川水系の生物生態 1. 121 pp. 島根県水産課, 松江.
- 99) 川那部浩哉; 堀清子 (1970) はじめに. In: 江川水系の生物生態 1. (ed. by 川那部浩哉). pp. 2-4.
- 100) 川那部浩哉; 水野信彦 (1970) 江川本流河川形態の現況と過去の状態の復元の試み. In: 江川水系の生物生態 1. (ed. by 川那部浩哉). pp. 5-20.
- 101) 川那部浩哉; 水野信彦 (1970) アユの基準密度と生息量. In: 江川水系の生物生態 1. (ed. by 川那部浩哉). pp. 111-114.
- 102) 東幹夫; 川那部浩哉 (1970) 孵化仔魚流下量の日周変化と河口付近における仔魚の分布. In: 江川水系の生物生態 1. (ed. by 川那部浩哉). pp. 115-121.
- 103) 川那部浩哉 (1970) 姿なきミナミトミヨ. 朝日新聞 1970/4/5.
- 104) 川那部浩哉 (1970) 脚光あびる生態学のかげから - ある研究者の日記から -. 朝日ジャーナル 12 (30): 31-35.
- 105) 川那部浩哉 (1970) 「人間的自然」を回復させうるか - 俗流「公害論」への一批判 -. 別冊潮 1970 (秋): 74-80.
- 106) 川那部浩哉 (1970) 川の生物の生産性. 化学と生物 8: 103-108.
- 107) 川那部浩哉 (1970) この自然は誰のものか. In: テ - プレクチュア (カセットテ - プ).
- 108) 川那部浩哉; 吉田光邦 (1970) 環境管理時代の人間意識. In: テ - プレクチュア (カセットテ - プ).
- 109) 川那部浩哉 (1970) 河川水域の生態学的考察第1講. 古い著作から. 公害と対策 6: 589-594.
- 110) 川那部浩哉 (1970) 河川水域の生態学的考察第2講. 川は流れる. 公害と対策 6: 723-726.
- 111) 川那部浩哉 (1970) 河川水域の生態学的考察第3講. アユの生活の多様性. 公害と対策 6: 877-882.
- 112) 川那部浩哉 (1971) 河川水域の生態学的考察第4講. 淡水魚の地理的分布. 公害と対策 7: 51-55.
- 113) 川那部浩哉 (1971) 河川水域の生態学的考察第5講. 阿賀野川の「敗荷落日」(1). 公害と対策 7: 333-339.
- 114) 川那部浩哉 (1971) 河川水域の生態学的考察第6講. 阿賀野川の「敗荷落日」(2). 公害と対策 7: 489-496.

- 115) 川那部浩哉 (1971) 河川水域の生態学的考察 第7講. ダムの建設とアユ (1). 公害と対策 7: 613-623.
- 116) 川那部浩哉 (1971) 河川水域の生態学的考察第8講. ダムの建設とアユ (2). 公害と対策 7: 843-849.
- 117) 川那部浩哉; 大沢秀行; 安部琢哉, 訳 (1971) 侵略の生態学 (チャ - ルス・エルトン著). 223 pp. 思索社, 東京.
- 118) 川那部浩哉; 田中光常; 団伊玖磨; 古川晴男; 山階芳麿; 小原秀雄 (1971) 人間も生きるために. 朝日動物百科 2: 2-4.
- 119) 川那部浩哉; 小原秀雄 (1971) 何が自然の学か - 「生態学」的自然像を問う. Space Design 6: 39-52.
- 120) 川那部浩哉; 宇井純 (1971) 公害原論第2学期: 公害と生態学. 42 pp. 東大工学部助手会, 東京.
- 121) 川那部浩哉, 編 (1971) 江川水系の生物生態 2. 島根県水産課, 松江.
- 122) 川那部浩哉; 堀清子 (1971) はじめに. In: 江川水系の生物生態 2. (ed. by 川那部浩哉). pp. 2-5.
- 123) 丸山隆; 川那部浩哉; 後藤宮子 (1971) 江川西部におけるゴギの分布. In: 江川水系の生物生態 2. (ed. by 川那部浩哉). pp. 33-37.
- 124) 川那部浩哉; 東幹夫 (1971) 江川におけるアユの基準密度と生息量 2. In: 江川水系の生物生態 2. (ed. by 川那部浩哉). pp. 39-42.
- 125) 東幹夫; 川那部浩哉 (1971) 江川におけるふ化仔魚の流量と川口周辺におけるアユ仔魚の分布. In: 江川水系の生物生態 2. (ed. by 川那部浩哉). pp. 43-50.
- 126) 川那部浩哉 (1971) 江川におけるいわゆる「総合開発」について. In: 江川水系の生物生態 2. (ed. by 川那部浩哉). pp. 51-57.
- 127) 川那部浩哉 (1971) 書評「生物社会の論理 (今西錦司著)」。In: 思索社書評集. pp. 14-18.
- 128) 川那部浩哉 (1972) 書評「科学と人類の生存 (バリ - ・コモナ - 著)」。自然. 1972 (2): 106.
- 129) 川那部浩哉 (1972) 書評「サルの国の歴史 (水原洋城著)」。In: モンキ - (詳細不明).
- 130) 川那部浩哉 (1972) オイカワ. 中日スポ - ツ 1972/2/4.
- 131) 川那部浩哉 (1972) オイカワ (続). 中日スポ - ツ 1972/2/11.
- 132) 川那部浩哉 (1972) 琵琶湖の小アユ. 中日スポ - ツ 1972/2/18.
- 133) 川那部浩哉 (1972) 将来計画委員会「生態学研究所」を考えるグル - プ中間報告. 日本生態学会誌 22: 83-88.
- 134) 川那部浩哉 (1972) 自然と人間: アユのなわばり. 電信電話 24(5): 22-23.
- 135) 川那部浩哉 (1972) お魚と鳥と虫と. 読売新聞 1972/6/8.

- 136) 川那部浩哉 (1972) アユの社会構造の進化的意義について：付 分布南限における社会構造. 日本生態学会誌 22: 141-149.
- 137) 森主一; 川那部浩哉 (1972) 宇川. In: 日本生態学会陸水自然保護地域案. pp. 44-48. 日本生態学会, 仙台.
- 138) 川那部浩哉; 丸山隆; 谷田一三 (1972) 河川生物の調査. 白山資源調査事業報告 5: 24-49, 別表3.
- 139) 川那部浩哉 (1972) さかなの死にゆく日. 展望 1972 (8): 38-55.
- 140) 川那部浩哉 (1972) 暮らしのなかで - 月曜訪問. 京都新聞 1972/10/9.
- 141) 川那部浩哉 (1972) なわばりは氷河期の残し物? 朝日新聞 1972/10/21.
- 142) 川那部浩哉 (1972) 公害と生態学 II. In: 現代科学と公害 (ed. by 宇井純). pp. 269-326. 勁草書房, 東京.
- 143) 川那部浩哉 (1973) アユの「なわばり」とは何か - 群集の論理への一つの試み - . 科学 43: 74-83.
- 144) 川那部浩哉 (1973) 「なわばり」と動物社会学. In: 宮地伝三郎動物記第2巻月報 pp. 4-7. 筑摩書房, 東京.
- 145) 川那部浩哉; 高橋裕 (1973) 「列島改造」の水問題診断 - 資源開発と汚染対策の処方箋 - . 公害と対策 9: 29-40.
- 146) 川那部浩哉 (1973) 食物連鎖. In: アルファ大世界百科. pp. 2292-2294. アルファエント - プライズ, 東京.
- 147) 川那部浩哉 (1973) なわばり. In: アルファ大世界百科. pp. 4314-4315. アルファエント - プライズ, 東京.
- 148) 川那部浩哉 (1973) 共存と競争. UP 2(4): 18-20.
- 149) 川那部浩哉 (1973) 水俣病判決の翌々に思う. 京都大学新聞 1973/3/22.
- 150) 川那部浩哉 (1973) 河川の生態学数題. 花時計 (神戸市雑誌) 8: 15-16.
- 151) 川那部浩哉 (1973) 書評「生態学への招待」全6冊 その2. ミチュ - リン生物学研究 9: 53-56.
- 152) 川那部浩哉 (1973) エルトンの個体群と生息場所の相互的散在をめぐって. ミチュ - リン生物学研究 9: 100-109.
- 153) 川那部浩哉 (1973) 「アユのはなし 古田萬吉著」を読んで. 産経新聞 夕刊 1973/8/20.
- 154) 川那部浩哉 (1973) 沖縄の川 (上). 読売新聞 1973/10/1.
- 155) 川那部浩哉 (1973) 沖縄の川 (下). 読売新聞 1973/10/2.
- 156) 川那部浩哉 (1973) 「哲学」としての生態学. 理想 482: 32-41.
- 157) 宮地伝三郎; 川那部浩哉; 岩井保 (1973) 魚類. In: 川村日本淡水生物学. (ed. by 上野益三). pp. 637-656. 図鑑の北隆館, 東京.

- 158) 川那部浩哉 (1973) 沖縄島におけるヨシノボリの特異な摂食行動について. 沖縄生物学会誌 10: 1-6.
- 159) 川那部浩哉 (1973) 新動物誌 33 アユ. 朝日新聞 1973/11/12.
- 160) 川那部浩哉 (1973) 新動物誌 37 ゴリ. 朝日新聞 1973/11/19.
- 161) 川那部浩哉 (1973) 新動物誌 44 イタセンパラ. 朝日新聞 1973/11/29.
- 162) 川那部浩哉 (1973) 新動物誌 45 タウナギ. 朝日新聞 1973/12/3.
- 163) 川那部浩哉 (1973) 新動物誌 48 イワナとヤマメ. 朝日新聞 1973/12/11.
- 164) 小原秀雄; 杉本新; 香原志勢; 大森昌衛; 沼田真; 堀越増興; 川那部浩哉; 根本順吉; 本谷勲; 日浦勇; 半谷高久, 編 (1973) 日本列島. 192 pp. タイムライフブックス, 東京.
- 165) 小原秀雄; 杉本新; 香原志勢; 大森昌衛; 沼田真; 堀越増興; 川那部浩哉; 根本順吉; 本谷勲; 日浦勇; 半谷高久, 編 (1973) 日本の生物. 192 pp. タイムライフブックス, 東京.
- 166) 小原秀雄; 杉本新; 香原志勢; 大森昌衛; 沼田真; 堀越増興; 川那部浩哉; 根本順吉; 本谷勲; 日浦勇; 半谷高久, 編 (1973) 日本人と自然. 192 pp. タイムライフブックス, 東京.
- 167) 川那部浩哉 (1973) 生態の見本市 琵琶湖. In: 日本の生物. (ed. by 小原秀雄ほか). pp. 45-55. タイムライフブックス, 東京.
- 168) 川那部浩哉; 東幹夫; 石城謙吉; 水野信彦; 浦本昌紀 (1973) 水と空の生き物. In: 日本の生物. (ed. by 小原秀雄ほか). pp. 119-154. タイムライフブックス, 東京.
- 169) 川那部浩哉 (1974) 生活の変異をとらえなおそう. アニマ 3: 2-3.
- 170) 阿部永; 岩井保; 浦本昌紀; 奥野良之助; 川那部浩哉; 小西正泰; 日高敏隆 (1974) 新動物誌. 207 pp. 朝日新聞社, 東京.
- 171) 川那部浩哉; 丸山隆; 谷田一三 (1974) 高瀬川水系とその魚類について. In: 高瀬川流域自然総合調査報告書. pp. 223-232. 高瀬川流域自然総合調査団, 長野.
- 172) 川那部浩哉 (1974) 個体群の生態学について思うこと. In: 三省堂版「生物II」高校教師用指導書. pp. 164-170. 三省堂, 東京.
- 173) 川那部浩哉; 丸山隆; 谷田一三; 富田恒男 (1974) 京都府下の淡水魚類. In: 京都府の野生動物. (ed. by 森下正明). pp. 79-96. 京都府公害対策室, 京都.
- 174) 川那部浩哉 (1974) 食物連鎖. In: 万有百科事典. 20: 338-339. 小学館, 東京.
- 175) 川那部浩哉 (1974) すみわけ. In: 万有百科辞典. 20: 359. 小学館, 東京.
- 176) 川那部浩哉 (1974) なわばり. In: 万有百科辞典. 20: 466. 小学館, 東京.
- 177) 西島信昇; 諸喜田茂充; 川那部浩哉 (1974) 琉球列島の河川の概況. 琉球列島の自然とその保護に関する基礎的研究 (ed. by 池原貞雄), 1: 113-143.
- 178) 川那部浩哉; 板井隆彦; 西島信昇; 諸喜田茂充 (1974) 食物連鎖から見た琉球列島河川生物群集の特徴 (予報) - 1973年夏の状態. 琉球列島の自然とその保護に関する基礎的研究 (ed. by 池原貞雄), 1: 187-193.

- 179) 川那部浩哉; 西島信昇; 諸喜田茂充 (1974) 琉球列島陸水生物文献目録 (暫定). 琉球列島の自然とその保護に関する基礎的研究 (ed. by 池原貞雄), 1: 255-275.
- 180) 川那部浩哉 (1974) ほん物とにせ物. 毎日新聞 夕刊 1974/6/21.
- 181) 川那部浩哉 (1974) 書評「琵琶湖 1. 滋賀大学湖沼研究所編」. 科学朝日 (詳細不明).
- 182) 川那部浩哉 (1974) ANIMAL考: アユ. 朝日ファミリ - 1974/7/12.
- 183) 川那部浩哉 (1974) 淀川のイタセンパラ. 読売新聞 夕刊 1974/10/12.
- 184) 川那部浩哉; 井上泰佑; 松井正文 (1974) 爬虫類と両生類. In: 淀川の河川敷における生態調査報告書. (ed. by 筒井嘉隆). pp. 114-137.
- 185) 川那部浩哉 (1974) 琉球列島の河川生物. In: 陸水富栄養化の基礎的研究. (ed. by 津田松苗). pp. 69-71.
- 186) 川那部浩哉 (1974) 江川「総合開発計画」の漁業等に及ぼす影響. In: 「江川水系の生物生態」に関する追加報告書. (ed. by 江川漁業協同組合). pp. 1-9. 川本, 島根.
- 187) 川那部浩哉 (1975) 長良川の生物診断. 中日新聞 1975/2/25.
- 188) 川那部浩哉 (1975) 「長良川は病んでますな」. 川吠え 13: 1-4.
- 189) 川那部浩哉 (1975) 動物から見た淀川の自然保護. 自然史研究 (大阪自然史博物館) 1: 74-75.
- 190) 川那部浩哉 (1975) 太田川加計町付近における河川生物. In: 山村振興コンサルタント意見書 - 広島県山県郡加計町 -. pp. 1-8 (+spec. fig. 1). 山村振興調査会, 東京.
- 191) 川那部浩哉 (1975) 川の「かたち」の破壊. モンキ - 138: 4-5.
- 192) 川那部浩哉; 木村清朗; 丸山隆; 谷田一三 (1975) ダム建設にともない予想される諸影響とそれへの対応 (2). In: 猪牟田ダム影響調査報告書. (ed. by 高橋裕). pp. 39-48. 九重町, 大分県.
- 193) 川那部浩哉; 木村清朗; 丸山隆; 谷田一三 (1975) 玖珠川生物調査報告メモ. In: 猪牟田ダム影響調査報告書. (ed. by 高橋裕). pp. 76-85. 九重町, 大分県.
- 194) 川那部浩哉 (1975) 総合討論のために: 「「個体群」「と」「行動」」. 個体群生態学会会報 26/27: 37-39.
- 195) 川那部浩哉; 田中豊穂 (1975) 長良川に関する生態的予備考察. 公害研究 5(2): 1-14.
- 196) 川那部浩哉 (1975) 日本の淡水魚・琵琶湖の淡水魚. 淡水魚 1: 4-6.
- 197) 谷田一三; 川那部浩哉 (1975) 淀川の治水工事と都市のなかの自然の保護 - 縄田氏の「淀川における自然環境保全の取り組み」を読んで -. 淡水魚 1: 31-33.
- 198) 川那部浩哉 (1975) 西田信昇氏発見にかかる琉球列島新分布の淡水八種. 淡水魚 1: 79.
- 199) Kawanabe, H. (1975) On the origin of Ayu-fish (Pisces, Osmeridae) in Lake Biwa. In: Paleolimnology of Lake Biwa and the Japanese Pleistocene. (ed. by S. Horie). 3: 317-320.
- 200) 川那部浩哉 (1975) 琵琶湖・淀川の自然と人間. 果林 (詳細不明).

- 201) 伊藤滋; 石川錬治郎; 川那部浩哉; 高橋裕; 華山謙; 北山泉; 佐原甲吉; 旗手勲ほか (1975) コメントと討論. In: 水をめぐる自治と住民. pp. 53-130. 全国水問題協議会, 東京
- 202) 川那部浩哉 (1976) 筑後川上流中津江・下津江両村における河川生物. In: 山村振興コンサルタント意見書: 大分県日田郡中津江・下津江村. pp. 32-36.
- 203) 川那部浩哉 (1976) ネス湖怪物は何匹いるか. アニマ 1976 (5): 70-71.
- 204) 川那部浩哉 (1976) びわ湖アユのなわばりについて, 氷期遺存習性説による一考察. 生理生態 17: 395-399.
- 205) 川那部浩哉 (1976) サクラマス群の学名について (雑談). 淡水魚 2: 58-62.
- 206) 川那部浩哉; 松浦行真 (1976) 日曜インタビュー -: 珪藻を食ったアユはうまい. 産経新聞 1976/6/15.
- 207) 川那部浩哉 (1976) 「自然観察」の勧め. アニマ 1976 (7): 98.
- 208) 川那部浩哉 (1976) 博物誌 (ナチュラル・ヒストリ-) は果して発展したのか. アニマ 1976 (8): 98.
- 209) 川那部浩哉 (1976) 博物誌の発展のために. アニマ 1976 (9): 98.
- 210) 川那部浩哉 (1976) 独創的ナチュラルリストへの途. アニマ 1976 (10): 102.
- 211) 川那部浩哉 (1976) 科学の方法論について. アニマ 1976 (11): 102.
- 212) 川那部浩哉 (1976) 日本博物誌の伝統. アニマ 1976 (12): 102.
- 213) 川那部浩哉 (1976) 自然環境保全はまず川の調査から. 寒狭川中部漁業協同組合. 水と人と (全水協ニュー - ス) 4: 1.
- 214) 川那部浩哉; 宮地伝三郎; 水野信彦 (1976) 原色日本淡水魚類図鑑 (全改訂新版). 462 pp., 56 pls. 保育社, 大阪.
- 215) 川那部浩哉 (1976) 氷期の繰り返しの中で, アユの形成と進化 - なわばり構造を中心に -. アニマ 1976 (10): 21-28.
- 216) 岩井保; 東幹夫; 川那部浩哉; 桑波吉太郎; 原田英司 (1976) アユの世界. アニマ 1976 (10): 35-44.
- 217) 川那部浩哉 (1976) アユ. In: 日本の四季. (ed. by 荒垣秀雄). p. 95. 朝日新聞社, 東京.
- 218) 川那部浩哉 (1976) ハゼ. In: 日本の四季. (ed. by 荒垣秀雄). p. 139. 朝日新聞社, 東京.
- 219) 川那部浩哉 (1976) ハス. In: 日本の四季. (ed. by 荒垣秀雄). p. 146. 朝日新聞社, 東京.
- 220) 川那部浩哉 (1976) サケとマス. In: 日本の四季. (ed. by 荒垣秀雄). p. 197. 朝日新聞社, 東京.
- 221) 川那部浩哉 (1976) フナ. In: 日本の四季. (ed. by 荒垣秀雄). p. 258. 朝日新聞社, 東京.
- 222) 川那部浩哉 (1976) 学と学会と学者と. 陸水学雑誌 37: 154.
- 223) 川那部浩哉 (1977) 川魚 - その「魚ごごろ」と「水ごころ」 -. In: 文春デラックス「目で見る釣魚大全」. pp. 44-50. 文芸春秋社, 東京.

- 224) 川那部浩哉; 原田英司; 巖俊一, 編 (1977) 動物生態学関係項目. In: 岩波生物学辞典第2版. 1654 pp. 岩波書店, 東京.
- 225) 伊藤滋; 石川錬治郎; 川那部浩哉; 佐原甲吉; 高橋裕; 旗手勲ほか (1977) 質疑. In: ダムの村は滅びるか. pp. 36-69. 全国水問題協議会, 東京.
- 226) Kawanabe, H. (1977) Relic social structure hypothesis on the territoriality of Ayu, *Plecoglossus altivelis* (Pisces: Osmeridae). *Proceedings of Japan Academy* 53 (Ser. B): 74-77.
- 227) 川那部浩哉 (1977) 川の「上」と「下」 - 琉球列島の河川群集瞥見 -. *自然* 1977 (8): 42-53.
- 228) 川那部浩哉 (1977) 淀川の天然アユに関するご質問への回答. *淀川の自然を守る会会報* 20: 10-13.
- 229) 川那部浩哉 (1977) 淡水魚分布図の作成のために (提案). *淡水魚* 3: 48-49.
- 230) 栗原康; 岩城英夫; 川那部浩哉, 編 (1977) 生命の連鎖と人間: 生態学. *NHK大学講座*. 128 pp. NHK, 東京.
- 231) 田中豊穂; 川那部浩哉 (1977) 自然の連続性と生物・人間の生活. In: 生命の連鎖と人間: 生態学. *NHK大学講座*. (ed. by 栗原康ほか). pp. 7-11. NHK, 東京.
- 232) 川那部浩哉 (1977) 生態的地位の成立 - アユとミナミアユ -. In: 生命の連鎖と人間: 生態学. *NHK大学講座*. (ed. by 栗原康ほか). pp. 47-50. NHK, 東京.
- 233) 田中豊穂; 川那部浩哉 (1977) 生態学と技術. In: 生命の連鎖と人間: 生態学. *NHK大学講座*. (ed. by 栗原康ほか). pp. 73-76. NHK, 東京.
- 234) 川那部浩哉, 編 (1978) 京都市内河川の生態学的研究 1. 4+189 pp. 京都市公害対策室, 京都.
- 235) 川那部浩哉 (1978) はじめに. In: 京都市内河川の生態学的研究 1. (ed. by 川那部浩哉). pp. 2-3. 京都市公害対策室, 京都.
- 236) 川那部浩哉 (1978) 書評「可児藤吉全集」. *自然* 26 (詳細不明)
- 237) 川那部浩哉 (1978) 生物と環境. 230 pp. 人文書院, 京都.
- 238) 川那部浩哉; 松井宏明; 井原敏明; 堀道雄; 谷田一三, 訳 (1978) 動物の生態 (C. S. エルトン著). 293+20 pp. 思索社, 東京.
- 239) 川那部浩哉 (1978) 鳥に寄せる妄想: 囀り分けは何のため・・・. *読売新聞 夕刊*1978/3/22.
- 240) 川那部浩哉 (1978) 鱒(マス)と鮎(アユ)の調べ. *淡水魚* 4: 104.
- 241) 川那部浩哉 (1978) 音楽を周る環になった話. *第二主題* 3: 8-11.
- 242) Kawanabe, H. (1978) Some biological problems (in deep core of Lake Biwa). *Verhandlungen der Internationale Vereinigung f 躰 Limnologie* 20: 2674-2677.
- 243) Furukawa, T.; Nishida, N.; Matsubara, H; Kawanabe, H. (1978) Some morphological characters of sea-run and lacustrine forms of the red-spot masu-trout, *Salmo*

- (*Oncorhynchus*) *masou macrostomus* (?). *Paleolimnology of Lake Biwa and the Japanese Pleistocene* 6: 277-280.
- 244) 川那部浩哉; 岩井保; 白滝治郎; 木村英造ほか (1979) 動物分布調査報告書: 淡水魚類. 59 pp. 京都府, 京都.
- 245) Kawanabe, H.; Takamura, K. (1979) Fish fauna near Katana, southwest coast of Lake Kivu. In: Preliminary report on the aquatic community with special reference to the fish in Lake Tanganyika and Lake Kivu. (ed. by Kawabata, M.). pp. 7-8.
- 246) 川那部浩哉 (1979) 四冊の動物写真集. *アニマ* 1979 (9): 100.
- 247) 川那部浩哉 (1979) ミナミアユの話. *淡水魚* 5: 26-28.
- 248) 川那部浩哉 (1979) 科学の擁護. In: 加藤周一著作集第14巻月報. pp. 6-8. 平凡社, 東京.
- 249) 川那部浩哉 (1979) 陸水生物の種生態学. In: 生態学の現状分析と将来の進路. (ed. by 森主一). pp. 94-95.
- 250) 川那部浩哉; 巖俊一 (1979) 解題. In: 森下正明生態学論集第1巻. pp. 555-560. 思索社, 東京.
- 251) 巖俊一; 川那部浩哉 (1979) 解題. In: 森下正明生態学論集第2巻. pp. 581-585. 思索社, 東京.
- 252) 川那部浩哉 (1979) 四万十川の清流と魚. In: ほこらかに語れこの四万十を. pp. 103-116. 全国水問題協議会, 東京.
- 253) 麻生毅; 川那部浩哉; 安岡宏高; 高橋裕; 旗手勲; 北川泉; 水野信彦 (1979) 総合討論. In: ほこらかに語れこの四万十を. pp. 117-160. 全国水問題協議会, 東京.
- 254) Furukawa, T.; Matsubara, H.; Nishida, M.; Kawanabe, H. (1979) Studies on the masu salmon, *Salmo* (*Oncorhynchus*) *masou*, complex. II. *Paleolimnology of Lake Biwa and the Japanese Pleistocene* 7: 358-368.
- 255) Kawanabe, H. (1980) Recent progress of limnology in Japan, Fishes. *Recent Progress of Natural Science in Japan*. 5: 231-236.
- 256) 川那部浩哉 (1980) 多面的生態学の現状調査と解析 - アンケート集計結果を中心に -. In: 生態学の総合化と将来計画. (ed. by 森主一). pp. 1-8.
- 257) 川那部浩哉 (1980) 文化財公園になる京都・双が岡. *朝日新聞* 夕刊 1980/4/17.
- 258) 川那部浩哉; 三浦賢一 (1980) アユに見る淡水魚進化のなぞ. *科学朝日* 1980 (8): 77-82.
- 259) 川那部浩哉 (1980) 天然記念物. In: 京都市文化観光資源調査会報告書. pp. 24-26. 京都市, 京都.
- 260) 川合禎次; 川那部浩哉; 水野信彦, 編 (1980) 日本の淡水生物: 侵略と攪乱の生態学. 10+194+26 pp. 東海大学出版会, 東京.
- 261) 川那部浩哉 (1980) ニジマス. In: 日本の淡水生物. (ed. by 川合禎次ほか) pp. 44-48. 東海大

学出版会，東京．

- 262) 川那部浩哉 (1980) 群集の対応. In: 日本の淡水生物. (ed. by 川合禎次ほか) pp. 183-194.  
東海大学出版会，東京．
- 263) 川那部浩哉 (1981) 長江生物群集の協同調査に関する提案. 京都日中学術交流懇談会会報 9:  
12-13.
- 264) 川那部浩哉 (1981) おわりに. 京都日中学術交流懇談会会報 9: 15.
- 265) 川那部浩哉 (1981) 「公害をやかましくいうのは弱者の居直りである」?! 京都大学新聞  
1981/1/16.
- 266) 川那部浩哉 (1981) このごろ. 毎日新聞 夕刊 1981/4/7.
- 267) 高橋裕; 華山謙; 志村博康; 佐原甲吉; 北川泉; 川那部浩哉; 阿部襄 (1981) 助言者との交換. In:  
赤川 - 庄内をうるおすもの. pp. 105-154. 全国水問題協議会, 東京.
- 268) 川那部浩哉 (1981) タンガニイカ湖に種間関係を尋ねる. 上. なぜアフリカなのか? アニマ  
1981 (2): 66-72.
- 269) 川那部浩哉 (1981) タンガニイカ湖に種間関係を尋ねる. 中. 湖畔での瞑想. アニマ 1981  
(3): 72-77.
- 270) 川那部浩哉 (1981) タンガニイカ湖に種間関係を尋ねる. 下. 群集の壁と穴. アニマ 1981  
(4): 76-82.
- 271) Kawanabe, H. (1981) Territorial behaviour of *Tropheus moorei* (Osteichthyes:  
Cichlidae) with a preliminary consideration on the territorial forms in animals. African  
Study Monograph 1: 101-108.
- 272) 川那部浩哉 (1981) タンガニイカ湖の魚たち. アフリカ研究 20: 66-78.
- 273) 森村繁; 末井一松; 川那部浩哉; 板坂三郎; 直江昭良 (1981) シンポジウム「白山の川と魚の保  
護」. はくさん 8 (増刊号): 3-15.
- 274) Kawanabe, H., ed. (1981) Ecological and limnological study on Lake Tanganyika and its  
adjacent regions I. 58 pp.
- 275) Kawanabe, H.; Kwetuenda, M. K. (1981) Introduction. Ecol. Limnol. Tanganyika 1:  
4-6.
- 276) Kawanabe, H. (1981) Territories of *Tropheus moorei* and *Petrochromis polyodon* with a  
general discussion on peripheral and central systems territoriality. Ecol. Limnol.  
Tanganyika 1: 14-16.
- 277) Kawanabe, H. (1981) Characteristics of the communal relationship among fishes in Lake  
Tanganyika in comparison with usual freshwater communities. Ecol. Limnol.  
Tanganyika 1: 23-25.
- 278) 川那部浩哉 (1981) あとがきにかえて. In: 深泥池の自然と人. pp. 302-303. 京都市文化観

光局, 京都.

- 279) 川那部浩哉 (1981) 現代の奇跡深泥池,: 生物すべてが貴重. 京都新聞 1981/6/2.
- 280) 川那部浩哉 (1981) 若者は独立独行する! 京都新聞 夕刊 1981/7/21.
- 281) 川那部浩哉 (1981) 動物(?)さまざま. 京都新聞 夕刊 1981/9/1.
- 282) 川那部浩哉 (1981) 複数のところを持つと. 京都新聞 夕刊 1981/10/22.
- 283) 川那部浩哉 (1981) 「ウッソ - 」. 京都新聞 夕刊 1981/11/20.
- 284) 川那部浩哉 (1981) 書評「本の話: 青春に贈る挑発的読書論 白上謙一著」. 朝日ジャーナル 1981/9/4.
- 285) 川那部浩哉 (1981) 伸びたアユの北限. 北海道新聞 夕刊 1981/9/7.
- 286) 川那部浩哉 (1981) 感心できぬ溪流魚の放流 水域守り育てる努力が大事. 朝日新聞 夕刊 1981/9/25.
- 287) 川那部浩哉 (1981) 無題. In: 記録映画「薬に病む」京都上映パンフレット. pp. 11-12.
- 288) 川那部浩哉; 中村登流 (1981) 鳥たちの一年は秋に始まる. アニマ 1981 (10): 25-29.
- 289) 川那部浩哉 (1981) 身近な発想で核論議に現実感を. 朝日ジャーナル 1981/12/10増刊号.
- 290) Mizuno, N.; Kawanabe, H. (1981) A topographical classification of streams, with an introduction of the system widely used in Japan. I. Reach type, stream zone and stream type. Verhandlungen der Internationale Vereinigung f躰 Limnologie 21: 913.
- 291) 川那部浩哉 (1982) 魚たちに話し掛けること. 京都新聞 夕刊 1982/1/7.
- 292) 川那部浩哉 (1982) 国語の入試問題に寄せて. 京都新聞 夕刊 1982/3/10.
- 293) 川那部浩哉 (1982) 君子は豹変する (?). 京都新聞 夕刊 1982/5/1.
- 294) 川那部浩哉 (1982) アユ狩に寄せて. 京都新聞 夕刊 1982/6/23.
- 295) 川那部浩哉 (1982) 「子の保護」はどこまで進むか. 京都新聞 夕刊 1982/8/28.
- 296) 川那部浩哉 (1982) 長い歴史の中の短い時間. 京都新聞 夕刊 1982/10/18.
- 297) 川那部浩哉 (1982) 師走三題. 京都新聞 夕刊 1982/12/7.
- 298) 川那部浩哉 (1982) タンガニイカ湖詣で. 国立大学協会会報 95: 131.
- 299) 川那部浩哉 (1982) 生態学に関する対話のすすめ. 科学 52: 153.
- 300) 川那部浩哉 (1982) 二つの生態学 - 形而上学的覚書 -. 科学 52: 154-159.
- 301) 川那部浩哉 (1982) 採食なわばりと生殖なわばりとの峻別. 科学 52: 390-392.
- 302) 川那部浩哉 (1982) とりあえず御挨拶まで. 科学 52: 464-465.
- 303) 川那部浩哉 (1982) 種分化は生活間上の特定の段階でおこる. 科学 52: 527-529.
- 304) 川那部浩哉; 須永哲雄; 植松辰美 (1982) メダカ類の摂食行動. In: 摂食行動のメカニズム. (ed. by 森田弘道; 久保田競). pp. 181-198.
- 305) 川那部浩哉 (1982) 食物連鎖と栄養環. In: 生態学読本. (ed. by 沼田真). pp. 109-128. 東洋経済新報社, 東京.

- 306) 川那部浩哉; 鹿岳繁; 大西満; 太田清信 (1982) アユの話 1. ナワバリについて. 釣の友 1982 (6): 59-64.
- 307) 川那部浩哉; 鹿岳繁; 大西満; 太田清信 (1982) 鮎の話し 2. アユ諸相こもごも. 釣の友 1982 (7): 68-74.
- 308) 川那部浩哉; 鹿岳繁; 大西満; 太田清信 (1982) アユの話 3. 川の環境問題について. 釣の友 1982 (8): 67-71.
- 309) 川那部浩哉 (1982) 故巖俊一氏の生態学. In: 巖俊一先生追悼文集. pp. 6-11. 京都大学農学部昆虫学研究室, 京都.
- 310) 川那部浩哉; 水野信彦 (1982) 豊川水系での魚類の生息状態. In: 豊川水系における水資源開発と鳳来町. (ed. by 高橋裕). pp. 89-148. 鳳来町役場, 鳳来.
- 311) 川那部浩哉; 堀江正治 (1982) 「北半球における第四紀氷河作用」国際集会開催報告. 日本生態学会誌 32: 260.
- 312) 川那部浩哉 (1982) アユ - その分布と種族. 本 1982 (8): 30-33. 講談社, 東京.
- 313) 川那部浩哉; 桜井淳史 (1982) アユの博物誌. 142 pp. 平凡社, 東京.
- 314) 川那部浩哉 (1982) 「イワナ国際シンポジウム」をめぐる何と言う事もない話. 淡水魚 8: 91-96.
- 315) 川那部浩哉 (1982) ベ - ト - ベンの交響曲は雨降りの日にふさわしい. In: 京響第249回定期演奏会パンフレット. pp. 1-5. 京都市.
- 316) 川那部浩哉 (1982) 「アユの博物誌」のこと. 産経新聞 1982/11/15.
- 317) 川那部浩哉 (1983) 冬の自然. 京都新聞 夕刊 1983/2/3.
- 318) 川那部浩哉 (1983) フクロウによせる. 京都新聞 夕刊 1983/3/18.
- 319) 川那部浩哉 (1983) 不「正」入学とは何か. 京都新聞 夕刊 1983/5/6.
- 320) 川那部浩哉 (1983) 天台国清寺に詣でる. 京都新聞 夕刊 1983/6/21.
- 321) 川那部浩哉 (1983) 共存と協同. 海洋と生物 5: 1.
- 322) 鶴見俊輔; 西部邁; 河合秀和; 川那部浩哉 (1983) 頬づえについて管理者を凝視する. 朝日ジャーナル 25 (13): 10-19.
- 323) 川那部浩哉 (1983) 書は万卷. 思想の科学 32 (5): 20-21.
- 324) Kawanabe, H., ed. (1983) Ecological and limnological study on Lake Tanganyika and its adjacent regions II. 68 pp.
- 325) Kawanabe, H.; Kwetuenda, M. K. (1983) Introduction. Ecol. Limnol. Tanganyika 2: 6.
- 326) Kawanabe, H. (1983) Further observation of territoriality of *Tropheus moorei* and *Petrochromis polyodon* (Osteichthyes: Cichlidae). Ecol. Limnol. Tanganyika 2: 10-11.
- 327) Kawanabe, H.; Kwetuenda, M. K. (1983) Introduction. Ecol. Limnol. Tanganyika 2: 18-19.

- 328) 川那部浩哉; 原田英司; 須永哲雄; 東幹夫; 坂本巖 (1983) 宍道湖・中海の魚類. In: 宍道湖中海淡水湖化に関連する推理水質及び生態の挙動について. pp. 623-642. 農業土木学会宍道湖中海淡水化に伴う水管理及び生態変化に関する研究委員会.
- 329) 川那部浩哉 (1983) 川村多実二生誕100年の会. 自然 1983 (6): 16.
- 330) 川那部浩哉 (1984) ひと新世紀 1. アユの家計簿: 京都新聞 1984/1/1.
- 331) 川那部浩哉 (1984) 雪「ひろげ」. 大法輪 1984 (5): 36-37.
- 332) 川那部浩哉 (1984) 茶話. 毎日新聞 夕刊 1984/4/3.
- 333) 川那部浩哉 (1984) 文づかい. 毎日新聞 夕刊 1984/4/10.
- 334) 川那部浩哉 (1984) いさなとり. 毎日新聞 夕刊 1984/4/17.
- 335) 川那部浩哉 (1984) 生まれ出づる悩み. 毎日新聞 夕刊 1984/4/24.
- 336) 川那部浩哉 (1984) 桜の森の満開の下. 毎日新聞 夕刊 1984/5/1.
- 337) 川那部浩哉 (1984) 斜陽. 毎日新聞 夕刊 1984/5/4.
- 338) 川那部浩哉 (1984) 火の鳥. 毎日新聞 夕刊 1984/5/15.
- 339) 川那部浩哉 (1984) 生きている兵隊. 毎日新聞 1984/5/22.
- 340) 川那部浩哉 (1984) 山の音. 毎日新聞 夕刊 1984/5/29.
- 341) 川那部浩哉 (1984) 帰郷. 毎日新聞 夕刊 1984/6/5.
- 342) 川那部浩哉 (1984) 山椒魚. 毎日新聞 夕刊 1984/6/12.
- 343) 川那部浩哉 (1984) かよひ小町. 毎日新聞 夕刊 1984/6/19.
- 344) 川那部浩哉 (1984) それから. 毎日新聞 夕刊 1984/6/26.
- 345) 川那部浩哉 (1984) アユの研究その後. アニマ 1984 (6): 12-13.
- 346) Tokui, T.; Kawanabe, H. (1984) Fishes. In: Lake Biwa. (ed. by S. Horie). pp. 339-360. Dr. W. Junk Publishers, Dordrecht.
- 347) 川那部浩哉 (1984) 偉大なる奇書「池沼の生態学」. In: 水野寿彦教授退官記念誌. pp. 334-336. 大阪教育大学, 大阪.
- 348) 川那部浩哉 (1984) 神秘的な魚たち, タンガニイカ湖のカワスズメ 1. 熱帯の湖, 生態を探る. 信濃毎日新聞 1984/5/23.
- 349) 川那部浩哉 (1984) 神秘的な魚たち, タンガニイカ湖のカワスズメ 12. さまざまの協同関係発達. 信濃毎日新聞 1984/6/6.
- 350) 川那部浩哉 (1984) ある詩に寄せる. 動物と動物園 1984 (7): 3.
- 351) 川那部浩哉 (1984) タンガニイカ湖魚類にみられる協同関係. In: 「生物の社会構造ニュー - ス」 4: 4-5.
- 352) 川那部浩哉 (1984) アユの目でタンガニイカ湖の魚を見る. 創造の世界 51: 6-25.
- 353) 川那部浩哉; 岩井保; 梅原猛; 遠藤彰; 河合雅雄; 作田啓一 (1984) 進化の不思議. 創造の世界 51: 26-51.

- 354) 川那部浩哉 (1984) アフリカ研究の回顧と展望: 動物生態学の場合 (霊長類関係を除く). アフリカ研究 25: 28-41.
- 355) 川那部浩哉 (1984) ヨ - ロッパからの手紙 - 魚の獲りかたについて -. 研修 1984 (10): 15-20.
- 356) 川那部浩哉 (1984) 筑後川の奇魚「エツ」. In: 魚の歳時記 2. 初夏の魚. (ed. by 末広恭雄; 加藤楸邨). pp. 131-134. 学習研究社, 東京.
- 357) 川那部浩哉 (1984) アユのなわばりを研究して. In: 岩波ジュニア科学講座 4. 生物の世界を探る. (ed. by 木村允; 樋口広芳; 松本忠夫; 八杉貞利; 八杉竜一). 岩波書店, 東京.
- 358) Kawanabe, H.; Furukawa-Tanaka, T.; Maruyama, T. (1985) Interrelations among charrs and a trout in Japanese streams. ISACF Information Series 3: 65-71.
- 359) Kawanabe, H., ed. (1985) Ecological and limnological study on Lake Tanganyika and its adjacent regions III. 83 pp.
- 360) Kawanabe, H.; Kwetuenda, M. K. (1985) Introduction. Ecol. Limnol. Tanganyika, 3: 9-10.
- 361) Kondo, T.; Kawanabe, H. (1985) Distribution and abundance of insects and algae in the northwestern part of Lake Tanganyika. Ecol. Limnol. Tanganyika 3: 30.
- 362) Kawanabe, H. (1985) Introduction. Ecol. Limnol. Tanganyika 3: 45.
- 363) 飯野徹雄; 井口洋夫; 上田誠也; 江沢洋; 川那部浩哉; 滝保夫; 豊島久真男; 星野芳郎, 監修 (1985) 科学の辞典 第3版. 32+1432 pp., 64 pls. 岩波書店, 東京.
- 364) 上田哲行; 遠藤彰; 川那部浩哉 (1985) 行動と社会. In: 科学の辞典 第3版. (ed. by 飯野徹雄ほか). pp. 339-349. 岩波書店, 東京.
- 365) 遠藤彰; 上田哲行; 川那部浩哉 (1985) 動物の生態. In: 科学の辞典 第3版. (ed. by 飯野徹雄ほか). pp. 930-941. 岩波書店, 東京.
- 366) 川那部浩哉 (1985) 生物群集. 平凡社大百科辞典 8: 420-423.
- 367) 川那部浩哉 (1985) 琵琶湖の生物相. 平凡社大百科辞典 12: 805-806.
- 368) 川那部浩哉 (1985) なわばり構造の比較生態学的研究. 32 pp.
- 369) 川那部浩哉 (1985) 書評 「風狂始末 < 狂句木枯しの巻 > 新釈 安東次男著」. 京都大学新聞 1985/4/16.
- 370) 川那部浩哉 (1985) エルトン. 日本大百科全書 3: 686. 小学館, 東京.
- 371) Kawanabe, H.; Hori, M.; Takamura, K. (1985) Cooperative feeding among cichlid fishes in rocky shores of Lake Tanganyika. Verhandlungen der Internationale Vereinigung für Limnologie 22: 2661.
- 372) Barel, C. D. N.; Dorit, R.; Greenwood, P. H.; Fryer, G.; Hughes, N.; Jackson, P. B. N.; Kawanabe, H.; Lowe-McConnell, R. H.; Nagoshi, N.; Ribbink, A. J.; Trewavas, E.; Witte,

- F.; Yamaoka, K. (1985) Destruction of fisheries in Africa's lakes. *Nature* 315 (2 May): 19-20.
- 373) 安部琢哉; 遠藤彰; 河合雅雄; 川那部浩哉; 作田啓一 (1985) 森の中の化学戦略. 創造の世界 55: 40-68.
- 374) 川那部浩哉 (1985) いずこもおなじ(?)「イワナ狂会」の話. 淡水魚 11: 83-88.
- 375) 森下正明; 川那部浩哉, 編 (1985) 昭和59年度アユモドキ生態分布調査報告書. 43 pp. 京都府農林部水産課, 京都.
- 376) 川那部浩哉 (1985) 川と水の生態学. 253 pp. 講談社, 東京.
- 377) 川那部浩哉 (1985) 淡水魚類の分布・生態と水温. In: 1984日本河川水質年鑑 (建設省河川局監修). pp. 869-877. 山海堂, 東京.
- 378) 川那部浩哉 (1986) タンガニカ湖の初日の出. 読売新聞 夕刊 1986/1/8.
- 379) 川那部浩哉 (1986) 連句と生物群集. 読売新聞 夕刊 1986/1/22.
- 380) 川那部浩哉 (1986) ミュンヘンのバッハ. 読売新聞 夕刊 1986/1/29.
- 381) 川那部浩哉 (1986) 帰国直後の朝食の席で. 読売新聞 夕刊 1986/2/5.
- 382) 川那部浩哉 (1986) 二日酔と蜀山人. 読売新聞 夕刊 1986/2/12.
- 383) 川那部浩哉 (1986) 「狩りと漁撈」シンポで. 読売新聞 夕刊 1986/2/19.
- 384) 川那部浩哉 (1986) 魚の性転換. 読売新聞 夕刊 1986/2/26.
- 385) 川那部浩哉 (1986) 大学入試の日. 読売新聞 夕刊 1986/3/5.
- 386) 川那部浩哉 (1986) 忙中有閑, 閑中有忙. 読売新聞 夕刊 1986/3/12.
- 387) 川那部浩哉 (1986) 鳥の繁殖. 読売新聞 夕刊 1986/3/26.
- 388) 川那部浩哉 (1986) 宍道湖の春. 読売新聞 夕刊 1986/4/9.
- 389) 川那部浩哉 (1986) うしろ姿. 読売新聞 夕刊 1986/4/2.
- 390) 川那部浩哉 (1986) イワナとヤマメのシンポ. 読売新聞 夕刊 1986/4/9.
- 391) 川那部浩哉 (1986) 渋谷さんのこと. 読売新聞 夕刊 1986/4/16.
- 392) 川那部浩哉 (1986) ザイ - ルとの研究協力. 読売新聞 夕刊 1986/4/23.
- 393) 川那部浩哉 (1986) お花見. 読売新聞 夕刊 1986/4/30.
- 394) 川那部浩哉 (1986) 見渡せば山もと霞む. 読売新聞 夕刊 1986/5/7.
- 395) 川那部浩哉 (1986) 国大協の「決定」に思う. 読売新聞 夕刊 1986/5/14.
- 396) 川那部浩哉 (1986) モダンア - ト展にて. 読売新聞 夕刊 1986/5/21.
- 397) 川那部浩哉 (1986) 記憶の闇. 読売新聞 夕刊 1986/5/28.
- 398) 川那部浩哉 (1986) 三十分間の歯磨き. 読売新聞 夕刊 1986/6/4.
- 399) 川那部浩哉 (1986) 頭のラジエ - タ -. 読売新聞 夕刊 1986/6/11.
- 400) 川那部浩哉 (1986) 「直る」という語. 読売新聞 夕刊 1986/6/18.
- 401) 川那部浩哉 (1986) 帰去来の辞. 読売新聞 夕刊 1986/6/25.

- 402) 川那部浩哉 (1986) 書評「拡張された表現型 リチャ - ド・ド - キンス著」. 科学サロン 10 (1): 2.
- 403) 川那部浩哉 (1986) 書評「京都の動物1 渋谷寿夫編」. 京都民報 1986/3/16.
- 404) 川那部浩哉 (1986) 棹尾を飾るべき巻頭言. In: 特定研究「生物の社会構造と適応戦略」ニュー - ス 10: 1-2.
- 405) 川那部浩哉 (1986) 「日本生態学会誌」の再出発にあたって. 日本生態学会誌 36: 1.
- 406) 川那部浩哉 (1986) 発刊に寄せて. In: 新しいの動植物記 1. けもの・さかな. pp. 2-3. 信濃毎日新聞社, 長野.
- 407) 川那部浩哉 (1986) 牧野四子吉生物画集に寄せる. In: 牧野四子吉生物画集. pp. 1-4. 講談社, 東京.
- 408) 安東次男; 川那部浩哉 (1986) 「風狂始末」をめぐって. 文学界 1986 (9): 166-183.
- 409) Kawanabe, H. (1986) Cooperative study on the ecology of Lake Tanganyika between Japanese and Zairean scientists, with special reference to mutual interactions among fishes. *Physiology and Ecology Japan* 23: 119-128.
- 410) 川那部浩哉 (1987) すみわけ. In: 日本大百科全書. p. 200. 小学館, 東京.
- 411) 川那部浩哉 (1987) 偏見の生物学. 250 pp. 農山漁村文化協会, 東京.
- 412) Kawanabe, H.; Nagoshi, M., ed. (1987) Ecological and limnological study on Lake Tanganyika and its adjacent regions, IV. 150 pp.
- 413) Kawanabe, H.; Nagoshi, M.; Kwetuenda, M. K. (1987) Introduction. *Ecol. Limnol. Tanganyika* 4: 13-15.
- 414) Kawanabe, H.; Nagoshi, M.; Kwetuenda, M. K. (1987) Introduction. *Ecol. Limnol. Tanganyika* 4: 75-77.
- 415) 川那部浩哉; 林広義; 長田芳和; 後藤晃; 西田信昇 (1987) フィールド図鑑 淡水魚. 188 pp. 東海大学出版会, 東京.
- 416) 川那部浩哉 (1987) 北方圏の魚たち 北海道の淡水魚篇 I. 北方圏 59: 95-98.
- 417) 川那部浩哉 (1987) 「鼻行類」帯書. In: 鼻行類. 思索社, 東京.
- 418) 森下正明; 川那部浩哉, 編 (1987) 昭和60年度アユモドキ生態分布調査報告書. 36 pp. 京都府農林部水産課, 京都.
- 419) 川那部浩哉 (1987) 研究協力の価値と重要性への理解を. *EXPERT* 1987 (2): 16.
- 420) 川那部浩哉 (1987) 溪流賛歌 : とんでもない人. 毎日新聞 1987/6/16.
- 421) 川那部浩哉 (1987) 推薦のことば. In: ヤマメよ永遠に - わが心の源流 (飯塚友章著) p. 7. 広済堂出版, 東京.
- 422) 川那部浩哉 (1987) アユの摂食習性. In: 動物大百科 13 魚類. (ed. by K. E. Banister; 岩井保). pp. 66-67. 平凡社, 東京.

- 423) Kawanabe, H.; Harada, E., ed. (1987) Ecological play on the earth: ecological niche and its related problems. A forum for basic sciences of Kyoto Prizes 1986. 87 pp., 1 pl. Physiology and Ecology Japan 24 (special number).
- 424) Kawanabe, H.; Harada, E. (1987) Preface. Physiology and Ecology Japan 24: s51-52.
- 425) Kawanabe, H. (1987) Niche problems in mutualism. Physiology and Ecology Japan 24: s75-80.
- 426) 川那部浩哉 (1988) 信じられないはなし. 理学部図書ニュー - ス 1: 6.
- 427) 川那部浩哉 (1988) アフリカに寄せて思う. In: 関西自然保護機構会報 15: 7.
- 428) 川那部浩哉 (1988) 河川のあるべき姿. In: 関西自然保護機構会報 15: 37-39.
- 429) 広田勇; 川那部浩哉; 住友恒; 芝池義一; 米山俊直; 住友則彦ほか (1988) 「自然科学 I」の講義をめぐって. In: 環境問題への総合的アプローチの方法と本学における教育への適用の研究. pp. 3-39. 京都大学.
- 430) 川那部浩哉; 大西満; 太田勉; 平井忠 (1988) 鮎って何, 何が友釣り? In: 週刊釣サンデー - 別冊 新魚シリ - ズ6 新アユのすべて. pp. 27-33. 週刊釣サンデー -, 大阪.
- 431) 川那部浩哉 (1988) 「国際地域研究」に寄せる. 国際地域研究 1: 39-40. 京都大学.
- 432) 川那部浩哉 (1988) 宮地伝三郎. In: 日本大百科全書. 22: 471. 小学館, 東京.
- 433) 川那部浩哉 (1988) 「知床の動物」推薦文. In: 北海道大学図書刊行会パンフレット.
- 434) 川那部浩哉 (1988) 生態学雑感 I - 湖の畔にて. 海洋と生物 10: 340-341.
- 435) Kawanabe, H.; Kwetuenda, M. K., ed. (1988) Ecological and limnological study on Lake Tanganyika and its adjacent regions V. 109 pp.
- 436) Kawanabe, H.; Kwetuenda, M. K. (1988) Introduction. Ecol. Limnol. Tanganyika, 5: 11-13.
- 437) 川那部浩哉 (1988) 動物のみち. 京大広報 360: 552-553.
- 438) 川那部浩哉 (1988) 宮地伝三郎先生を悼む. 読売新聞 夕刊 1988/10/25.
- 439) 川那部浩哉 (1988) 宮地伝三郎さんと私. 毎日新聞 夕刊 1988/10/31.
- 440) 川那部浩哉 (1988) 長良川のカワマス (サツキマス) とアユについて. In: 「長良川河口ぜき 反対のための国際シンポジウム」速記録. (ed. by 木村英造). pp. 6-10. 淡水魚保護協会, 大阪.
- 441) 川那部浩哉 (1988) 水とみどり. In: みどりの森からのメッセージ. (ed. by 宮脇昭). p. 12. 神奈川県・大和市, 横浜.
- 442) 川那部浩哉 (1988) 図書と学術情報. 静脩 (京都大学付属図書館報) 25 (3): 1-3.
- 443) 川那部浩哉 (1988) 環境容量と生態学. In: 第1回環境容量シンポジウム - 環境容量の概念と応用 -. (ed. by 海老瀬潜一). pp. 49-58. 国立環境研究所, 筑波.
- 444) 川那部浩哉 (1988) 生物にみられる競争と協同 - 日本とアフリカの淡水魚を例として -. 大

谷学報 68 (3): 87-92.

- 445) 川那部浩哉 (1989) 生態学雑感 2 - 宮地伝三郎さんの死に思う. 海洋と生物 11: 106-107.
- 446) 川那部浩哉 (1989) 生態学雑感 3 - イワナ・サクラマス国際会議. 海洋と生物 11:196-197.
- 447) 川那部浩哉 (1989) 曖昧こそが肝心 生物の群集とはどういうものか? へるめす 20:166-173.
- 448) 川那部浩哉; 水野信彦 (1989) 川と湖の魚 1. 200 pp. 保育社, 大阪.
- 449) 井上正; 内田新; 木下政雄; 近藤豊; 柴田実; 堤圭三郎; 村岡正; 森谷尅久; 吉村元雄; 川上貢; 川那部浩哉; 村井康彦, 編 (1989) 文化財用語辞典. 6+524 pp. 淡交社, 京都.
- 450) 川那部浩哉 (1989) 宇川の子. In: 川と人とふるさとと: うかわ. pp. 3-5. 丹後町, 上宇川公民館, . 京都.
- 451) 川那部浩哉 (1989) 群集生態学から. In: シンポジウム「新しい生命像を探る - 情報の観点から - 」. (ed. by 清水博). pp. 28-42. 総合開発研究機構・トヨタ財団, 東京.
- 452) 川那部浩哉; 水野信彦, 編 (1989) 山溪カラ - 名鑑: 日本の淡水魚. 720 pp. 山と溪谷社, 東京.
- 453) 川那部浩哉 (1989) だからこの人この5作, 読者の精神を運動させる作品: 川那部浩哉がすすめる松下竜一. In: 朝日ジャ - ナル 31 (29): 99.
- 454) Kawanabe, H. (1989) Aquaculture and fisheries management. In: Blackwell Scientific Publ. (Pamphlet).
- 455) 川那部浩哉 (1989) 上野益三先生を偲ぶ. 学鏡 86 (10): 13-15. 丸善, 東京.
- 456) Kawanabe, H.; Yamazaki, F.; Noakes, D. L. G. (1989) Biology of charrs and masu salmon. 711 pp. Physiology and Ecology Japan, Special Volume.
- 457) Kawanabe, H (1989) Japanese char(r)r)s and masu-salmon problems: a review. Physiology and Ecology Japan, Special Volume 1: 3-12.
- 458) 川那部浩哉 (1989) 生態学雑感 4 - 国際生態学会議のために. 海洋と生物 11: 466-467.
- 459) Kawanabe, H., ed. (1989) Ecological and limnological study on Lake Tanganyika and its adjacent regions VI. 110 pp.
- 460) Kawanabe, H; Kwetuenda, M. K. (1989) Introduction. Ecol. Limnol. Tanganyika, 6: 11-14.
- 461) Kawanabe, H; Pearse, M. J. (1989) Introduction. Ecol. Limnol. Tanganyika 6: 61-62.
- 462) 東幹夫; 川那部浩哉; 西島信昇; 西田睦 (1989) リュウキュウアユ (仮称) についてのメモ. 淡水魚保護 2: 98.
- 463) Kawanabe, H. (1990) Complexity in biological communities, or the importance of being equivocal. In: Biological complexity and information. (ed. by Shimizu, H.). pp. 186-194. World Scientific, Singapore.

- 464) Kawanabe, H. (1990) The SIL workshop of the African great lakes: International symposium on resource use and conservation of the African great lakes. ILEC Newsletter 12: 1-2.
- 465) 川那部浩哉 (1990) 生態学雑感 5 - 長良川河口堰のこと. 海洋と生物 12: 120-121.
- 466) 川那部浩哉 (1990) 「京都民俗誌」「本朝食鑑」など. 月刊百科 1990 (2): 36. 平凡社, 東京
- 467) 川那部浩哉; 遊磨正秀 (1990) タンガニイカ湖魚類の資源・生態・自然保護. 京都大学アフリカ地域研究センタ - 年報 4: 18-19.
- 468) Kawanabe, H.; Ohgushi, T.; Higashi, M., ed. (1990) Ecology for tomorrow. 14+205 pp. Physiology and Ecology Japan, 27.
- 469) 川那部浩哉 (1990) 淡水化後の魚族の生息状況の予測 (追加) - 鳥取・島根両県の「助言者会議見解」に対する意見を中心に -. In: 宍道湖・中海の魚貝類. pp. 82-88. 宍道湖・中海淡水化にともなう水管理及び生態変化に関する研究委員会: 魚類小委員会・底生動物小委員会.
- 470) 川那部浩哉 (1990) 特集にあたって. 遺伝 44 (6): 9-10.
- 471) 川那部浩哉 (1990) ハンス・プリンカ -. 図書 1990 (7): 18.
- 472) 川那部浩哉; 水野信彦 (1990) 川と湖の魚 2. 216 pp. 保育社, 大阪.
- 473) 川那部浩哉, 編 (1990) 長良川河口堰事業の問題点 - 中間報告書 -. 133 pp. 日本自然保護協会, 東京.
- 474) 川那部浩哉 (1990) はじめに. In: 長良川河口堰事業の問題点 - 中間報告書 -. pp. 5-6.
- 475) 川那部浩哉 (1990) 小泉清明編「木曾三川河口資源調査報告」について. In: 長良川河口堰事業の問題点 - 中間報告書 -. pp.34-38.
- 476) 川那部浩哉 (1990) 河川技術者のための (?) 生態学 - ほんものの川を求めて -. 水工学シリ - ズ 90-A-2: 1-7. 土木学会水理委員会, 東京.
- 477) 川那部浩哉; 毛利甚八 (1990) 生態学からみた河口堰の危険性. BE-PAL 10 (9): 83-87.
- 478) 川那部浩哉 (1990) 第5回国際生態学会議について. 日本学術会議月報 31: 111-112.
- 479) 川那部浩哉 (1990) 河口堰工事の一時中止を: 生物遺伝子の多様性守れ. 共同通信系新聞 1990/12/15.
- 480) 川那部浩哉 (1990) 生態学雑感 6 - 国際生態学会議のために (2). 海洋と生物 12: 470-471.
- 481) 川那部浩哉, 監訳; 遠藤彰; 江崎保男, 訳 (1990) C・S・エルトン「動物群集の様式」. 8+649+29+32 pp- 思索社, 東京.
- 482) 川那部浩哉 (1991) 月の世界. 毎日新聞 夕刊 1991/1/8.
- 483) 川那部浩哉 (1991) 利口な女狐の物語. 毎日新聞 夕刊 1991/1/22.
- 484) 川那部浩哉 (1991) 人間の声. 毎日新聞 夕刊 1991/1/29.
- 485) 川那部浩哉 (1991) ファルスタッフ. 毎日新聞 夕刊 1991/2/5.
- 486) 川那部浩哉 (1991) スペ - ドの女王. 毎日新聞 夕刊 1991/2/12.

- 487) 川那部浩哉 (1991) 助けよ, 小妖精たちよ. 毎日新聞 夕刊 1991/2/19.
- 488) 川那部浩哉 (1991) 森の声. 毎日新聞 夕刊 1991/2/26.
- 489) 川那部浩哉 (1991) 雪. 毎日新聞 夕刊 1991/3/5.
- 490) 川那部浩哉 (1991) 湖上の美人. 毎日新聞 夕刊 1991/3/12.
- 491) 川那部浩哉 (1991) 魔笛・タンホイザー -. 毎日新聞 夕刊 1991/3/19.
- 492) 川那部浩哉 (1991) 期待. 毎日新聞 夕刊 1991/3/26.
- 493) Kawanabe, H.; Nagoshi, M., ed. (1991) Ecological and limnological study on Lake Tanganyika and its adjacent regions VII. 142 pp.
- 494) Kawanabe, H (1991) Opening address of the Oji International Seminars on 'Mutualism, cooperation and organization in natural communities'. Ecol. Limnol. Tanganyika 7: 102-103.
- 495) Kawanabe, H (1991) Opening address for the 5th International Congress of Ecology. Ecol. Limnol. Tanganyika 7: 106-107.
- 496) 伊達善夫; 川那部浩哉, 編 (1991) 汽水域・その豊かな生態系を求めて. 12+187 pp. 島根県, 松江.
- 497) 川那部浩哉 (1991) 主催者あいさつ 2 . In: 汽水域・その豊かな生態系を求めて. pp. 3-4.
- 498) 川那部浩哉 (1991) 山から海への系列における汽水域. In: 汽水域・その豊かな生態系を求めて. pp. 173-177.
- 499) Kawanabe, H.; Date, Y.; Kikuchi, T.; Harada, E.; Miyata, I.; Koike, F.; Kunii, H., eds. (1991) For richer ecological systems of brackish water zones. 10+23 pp. Kokuchosha, Matsue.
- 500) Kawanabe, H. (1991) Opening Address 2. In: For richer ecological systems of brackish water zones. (ed. by Kawanabe et al.). pp. 3-4. Kokuchosha, Matsue.
- 501) Kawanabe, H. (1991) Brackish water zone, the central chain of ecosystem series from mountains to ocean, with special reference to Lakes Shinji-ko and Naka-umi system. In: For richer ecological systems of brackish water zones. (ed. by Kawanabe et al.). pp. 223-224. Kokuchosha, Matsue.
- 502) 川那部浩哉 (1991) 生態学雑感 7 - 上田秋成さんに寄せて. 海洋と生物 13: 26-27.
- 503) 川那部浩哉 (1991) 生物と環境との関係等. 毎日新聞 夕刊 1991/4/26.
- 504) 川那部浩哉 (1991) 川の魚たちと森. 随想森林 25: 28-29.
- 505) Kawanabe, H; Gashagaza, M.M. (1991) Ecological diversity on Lake Tanganyika with special reference to fishes . In: Report on the 1st International Conference on the conservation and biodiversity of Lake Tanganyika. (ed. by Cohen, A. S.). p. 69.
- 506) Kawanabe, H.; Gashagaza, M. M. (1991) La diversit 残ologique du lac tanganyika avec

references speciales aux poissons. In: Compte rendu de la premiere conference internationale sur la conservation et la biodiversite du lac tanganyika (ed. by Cohen, A. S.). p. 69.

- 507) 川那部浩哉 (1991) 生態学雑感 8 - 野間宏さんに寄せて. 海洋と生物 13: 174-175.
- 508) 川那部浩哉 (1991) 書評「マダガスカル自然紀行 山岸哲著」. 信濃毎日新聞 1991/5/12.
- 509) 川那部浩哉 (1991) 基礎研究の場, 生態学研究センター -. 京大学生新聞 1991/5/20.
- 510) 川那部浩哉 (1991) 研究室おじゃま訪問. 滋賀民報. 1991/5/26.
- 511) 川那部浩哉 (1991) 京都大学生態学研究センター - の発足にあたって. 京都大学生態学研究センター - ・ニュー - ス 1: 1-2.
- 512) 川那部浩哉 (1991) 川魚の眼から見た河川環境. In: これからの河川環境の保全を考えるフォーラム. (ed. by 谷口順彦). pp. 5-8. 高知県内水面漁業協同組合連合会, 高知.
- 513) 川那部浩哉; 林千章 (1991) Weらぶ男たち: キ - ワ - ドを解く (上) エコロジ -. 読売新聞夕刊 1991/7/20.
- 514) Kawanabe, H. (1991) Preface (for the Special issue of plenary lectures at INTECOL '90). Ecological Research 6: 127-128.
- 515) 川那部浩哉 (1991) 「生物の多様性を問う」タンガニ - カ湖の魚. WWF 1991 (11): 11.
- 516) 川那部浩哉 (1991) 今の自然にこれが言いたい. 自然保護 1991 (10): 5.
- 517) 川那部浩哉 (1991) 共生系としての生物群集. 仏教別冊 6: 21-30.
- 518) 川那部浩哉; 原田英司; 遠藤彰, 編 (1991) 生態学と動物学関係用語. In: 広辞苑第4版. 2858 pp. 岩波書店, 東京.
- 519) Kawanabe, H. (1991) Conservation of freshwater fishes in Japanese Archipelago, with emphasis on relation to its physical environment and ecological diversity. In: Proceedings of the First International Symposium on Wildlife Conservation, ROC. pp. 18-33.
- 520) 川那部浩哉 (1991) 京都大学生態学研究センター - 開所式挨拶 (1991/10/16). 京都大学生態学研究センター - ・ニュー - ス 4: 1-2.

KOHYAMA, Takashi 甲山隆司 \_\_\_\_\_

- 1) Kohyama, T. (1980) Growth pattern of *Abies mariesii* saplings under conditions of open-growth and suppression. Bot. Mag. Tokyo 93: 13-24. [subalpine forest, *Abies mariesii*, saplings, tree form, growth pattern, suppression, Northern Yatsugatake Mts.]
- 2) Kohyama, T; Fujita, N. (1981) Studies on the *Abies* population of Mt. Shimagare I.

- Survivorship curve. Bot. Mag. Tokyo 94: 55-68. [subalpine forest, Abies stand, self-thinning, survivorship curve, wave regeneration, Northern Yatsugatake Mts.]
- 3) Kohyama, T. (1982) Studies on the Abies population of Mt. Shimagare II. Reproductive and life history traits. Bot. Mag. Tokyo 95: 167-181. [subalpine forest, Abies stand, reproductive curve, life history, mast seeding, reproductive effort, wave regeneration, Northern Yatsugatake Mts.]
- 4) Kohyama, T. (1983) Seedling stage of two subalpine Abies species in distinction from sapling stage: a matter-economic analysis. Bot. Mag. Tokyo 96: 49-65. [subalpine forest, Abies veitchii, Abies mariesii, dry matter production, relative growth rate, sapling stage, seedling stage, Northern Yatsugatake Mts.]
- 5) Kohyama, T. (1984) Regeneration and coexistence of two Abies species dominating subalpine forests in central Japan. Oecologia (Berlin) 62: 156-161. [subalpine forest, Abies veitchii, Abies mariesii, coexistence, regeneration niche, Northern Yatsugatake Mts.]
- 6) 甲山隆司 (1984) 林木のデモグラフィ - をめぐる問題点. 種生物学研究 8: 1-10. [総説, 林木 個体群]
- 7) 甲山隆司 (1984) 亜高山帯シラビソ・オオシラビソ林の更新. 遺伝 38 (4): 67-72. [総説, 更新動態, 近縁種, 共存]
- 8) 甲山隆司; 坂本圭児; 小林達明; 渡辺隆一 (1984) 小楊子川流域の照葉樹原生林における林木群集の構造. In: 屋久島原生自然環境保全地域調査報告書. (ed. by 沼田真). pp. 375-397. 環境庁自然保護局, 東京. [報告書, 照葉樹林, 林木群集構造, 隣接構造]
- 9) 甲山隆司 (1985) 極相種の特性. In: 現代生物学大系12b, 生態B. (ed. by 沼田真). pp. 170-172. 中山書店, 東京. [解説, 遷移, 極相種, 種特性]
- 10) 松井 淳; 甲山隆司; 小池文人; 酒井聡樹 (1985) 知床半島遠音別岳周辺における森林植生の垂直分布と林木群集の構造. In: 遠音別岳原生自然環境保全地域調査報告書. (ed. by 沼田真). pp. 173-200. 環境庁自然保護局, 東京. [報告書, 針広混交林, 林木群集構造, 隣接構造, 垂直分布]
- 11) Kohyama, T. (1986) Tree size structure of stands and each species in primary warm-temperate rain forests of southern Japan. Bot. Mag. Tokyo 99: 267-279. [warm-temperate rain forest, size distribution, regression model, Yakushima Island]
- 12) Kohyama, T.; Hotta, M. (1986) Growth analysis of Sumatran Monophyllaea, possessing only one leaf throughout perennial life. Plant Species Biology 1: 117-125. [Sumatra, net production, allocation, allometry, tropical herb, Monophyllaea spp.]
- 13) Kohyama, T.; Hotta, M. (1986) General description of two new study plots established

- in Ulu Gadut forests. In: Diversity and Dynamics of Plant Life in Sumatra, Part 1. (ed. by Hotta, M.). pp. 1-11. Yoshida College, Kyoto University, Kyoto. [research report, tropical rain forest, West Sumatra, secondary forest, micro-topological diversity]
- 14) Kohyama, T.; Hotta, M.; Ogino, K.; Yoneda, T. (1986) Trunk diameter-tree height relationship in Ulu Gadut forest plots. In: Diversity and Dynamics of Plant Life in Sumatra, Part 1. (ed. by Hotta, M.). pp. 13-16. Yoshida College, Kyoto University, Kyoto. [research report, tropical rain forest, West Sumatra, diameter-height curve]
- 15) Kohyama, T.; Ogino, K. (1986) Tree growth rate in forest plots of Ulu Gadut. In: Diversity and Dynamics of Plant Life in Sumatra, Part 1. (ed. by Hotta, M.). pp. 29-33. Yoshida College, Kyoto University, Kyoto. [research report, tropical rain forest, West Sumatra, stand dynamics]
- 16) 甲山隆司 (1986) 林木種の共存研究の方向. 群落研究 3: 15-22. [総説, 林木, 群集動態, 共存機構]
- 17) 田川日出夫; 甲山隆司; 鈴木英治 (1986) 稲尾岳自然環境保全地域の植生とフロラ. In: 稲尾岳自然環境保全地域調査報告書. pp. 47-108. 環境庁自然保護局, 東京. [報告書, 照葉樹林, 植生構造]
- 18) Kohyama, T. (1987) Stand dynamics in a primary warm-temperate rain forest analyzed by the diffusion equation. Bot. Mag. Tokyo 100: 305-317. [warm-temperate rain forest, size distribution, continuity equation, gap dynamics, stand dynamics, Yakushima Island]
- 19) Kohyama, T. (1987) Significance of architecture and allometry in saplings. Funct. Ecol. 1: 399-404. [allocation, allometry, branching pattern, light environment, regeneration niche, sapling, warm-temperate rain forest, Yakushima Island]
- 20) 甲山隆司 (1987) 屋久島の照葉樹林域における原生林と二次林の構造と動態. In: 屋久島生物圏保護区の動態と管理に関する研究 (環境科学研究報告集B335-R12-12). (ed. by 田川日出夫). pp. 50-62. 鹿児島大学教養部, 鹿児島. [報告書, 照葉樹林, 原生林, 二次林]
- 21) 甲山隆司 (1987) 北八ヶ岳の亜高山帯シラビソ・オオシラビソ・ダケカンバ混交林の動態. 長野県植物研究会誌 20: 36-41. [亜高山帯林, 林木群集, 更新動態]
- 22) Kohyama, T. (1988) A function describing all-sized trunk diameter distribution in warm-temperate rain forests. Bot. Mag. Tokyo 101: 207-212. [size distribution, stand dynamics, MNY-method, warm-temperate rain forest, Yakushima Island]
- 23) Kohyama, T. (1988) Etiology of 'Shimagare' dieback and regeneration in subalpine Abies forests of Japan. GeoJournal 17: 201-208. [wave regeneration, subalpine forest, regeneration dynamics, etiology, central Japan]

- 24) 甲山隆司 (1988) ハンドヘルド・コンピュータ - を利用した野外調査デ - タの処理. In: パソコンネットワークを利用した教育方法開発. (ed. by 木下紀正). pp. 44-50. 鹿児島大学教育学部, 鹿児島. [報告書, デ - タ処理]
- 25) Kohyama, T. (1989) Simulation of the structural development of warm-temperate rain forest stands. *Ann. Bot.* 63: 625-634. [competition, continuity equation, cumulative basal area, size distribution, warm-temperate rain forest, Yakushima Island]
- 26) Kohyama, T.; Hara, T. (1989) Frequency distribution of tree growth rate in natural forest stands. *Ann. Bot.* 64: 47-57. [diffusion equation, growth rate distribution, size distribution, tropical rain forest, warm-temperate rain forest]
- 27) Kohyama, T.; Hotta, M.; Ogino, K.; Syahbuddin; Mukhtar, E. (1989) Structure and dynamics of forest stands in Gunung Gadut, West Sumatra. In: Diversity and Plant-Animal Interaction in Equatorial Rain Forests (Occasional Papers No.16). (ed. by Hotta, M.). pp. 33-47. Kagoshima University Research Center for the South Pacific. [research report, tropical rain forest, West Sumatra, tree community structure, regeneration dynamics, stand dynamics]
- 28) Hotta, M.; Kohyama, T.; Tamin, R. (1989) Local names of rain forest trees in Ulu Gadut Valley, West Sumatra. In: Diversity and Plant-Animal Interaction in Equatorial Rain Forests (Occasional Papers No.16). (ed. by Hotta, M.). pp. 55-58. Kagoshima University Research Center for the South Pacific. [research report, tropical rain forest, West Sumatra, local names, ethnobotany, useful woods]
- 29) Kohyama, T.; Hara, T.; Tadaki, Y. (1990) Patterns of trunk diameter, tree height and crown depth in crowded *Abies* stands. *Ann. Bot.* 65: 567-574. [subalpine forest, *Abies* population, diameter-height curve, competition, stand development, tree form, wave regeneration]
- 30) Kohyama, T. ; Hotta, M. (1990) Significance of allometry in tropical saplings. *Funct. Ecol.* 4: 515-521. [Sumatra, sapling, allocation, allometry, branching pattern, tropical rain forest]
- 31) 甲山隆司 (1990) 長期観察が必要である - スマトラのケ - ス・スタディ - から. プランタ 9: 14-19. [解説, スマトラ, 永久調査区, 林木群集]
- 32) 甲山隆司 (1990) 東部アジアの多雨林の構造特性と再生動態. In: 日本を含む東アジアおよび太平洋地域における熱帯並びに亜熱帯現存植生の成立要因の地域間比較に関する予備的研究. (ed. by 中野和敬). pp. 30-38. 鹿児島大学南太平洋海域研究センタ - , 鹿児島. [報告書, 照葉樹林, 熱帯多雨林, 生産生態, サイズ分布動態]
- 33) Kohyama, T. (1991) A functional model describing sapling growth under a tropical

- forest canopy. *Funct. Ecol.* 5: 83-90. [allocation, allometry, growth model, branching structure, light environment, sapling, simulation, tropical rain forest]
- 34) Kohyama, T. (1991) Simulating stationary size distribution of trees in rain forests. *Ann. Bot.* 68: 173-180. [tropical rain forest, warm-temperate rain forest, size-structure dynamics, continuity equation, simulation, stationary size distribution, one-sided competition, equilibrium state]
- 35) Suzuki, E.; Kohyama, T. (1991) Spatial distribution of wind-dispersed fruits and trees of *Swintonia schwenkii* (Anacardiaceae) in a tropical forest of West Sumatra. *Tropics* 1: 131-142. [West Sumatra, spatial distribution, seed dispersal, *Swintonia schwenkii*, tropical rain forest, wind dispersal]
- 36) 甲山隆司 (1991) 屋久島の林木群集構造と基質表層の安定性. In: 照葉樹林域における基質表層の回転と森林の更新動態. (ed. by 田川日出夫). pp. 63-74. 鹿児島大学教養部, 鹿児島. [報告書, 表層動態, 群集構造, 屋久島]

MIURA, Taizo 三浦泰蔵 \_\_\_\_\_

- 1) Miura, T. (1959) Some ecological studies on fish populations in Lake Sagami, an impoundment, in Kanagawa Prefecture, Japan. *Bull. Freshwater Fish. Res. Lab.* 9: 23-39. [Impoundment Fish community Food habit Succession]
- 2) Miura, T. (1962) Early life history and possible interaction of five inshore species of fish in Nicola Lake, British Columbia. Ph. D. Thesis Univ. of British Columbia. [Lake fishes Early life Species interaction]
- 3) 名越誠; 三浦泰蔵 (1964) びわ湖産ゲンゴロウブナの個体群生態学的研究I. 標識法による早崎内湖産卵群の現存数・移入数および移出数の経日変化の推定. *生理生態* 12: 93-98. [琵琶湖ゲンゴロウブナ 産卵群 標識再捕法 個体数推定]
- 4) Miura, T. (1965) Researches on fish production in impoundments in Japan. *Papers 1964 Peking Scientific Symposium Agri. Sci.:* 899-917. [Impoundment Food chain Fish production Fish growth]
- 5) Miura, T. (1965) Population studies based on relative abundance of five different life history stages of ayu, *Plecoglossus altivelis* (Pisces, Plecoglossidae), in Lake Biwa. *Res. Popul. Ecol.* 7: 87-98. [Lake Biwa Ayu population Life history stages Inter-stage analysis]
- 6) Miura, T. (1966) Competitive influence of isaza, *Chaenogobius isaza*, on ayu, *Plecoglossus*

- altivelis, in Lake Biwa. Res. Popul. Ecol. 8: 37-50. [Lake Biwa Ayu Isaza Interspecific competition]
- 7) Miura, T. (1966) Ecological notes of the fishes and the interspecific relations among them in Lake Biwa. Jap. Jour. Limnol. 27: 1-24. [Lake Biwa Fishes Life cycle Food habit Habitat Interspecific relation Food chain]
- 8) 石田昭夫; 三浦泰蔵; 白石芳一; 田中昌一; 田中実 (1968) 数種の淡水魚に対する刺網の網目選択性. 淡水研報 18: 13-20. [淡水魚 刺網 網目選択性]
- 9) 三浦泰蔵 (1969) 個体関係, 社会関係, 種間関係. (魚類成長に関するシンポジウム). 日本水産学会誌 36: 316-321. [魚類 成長 個体関係 社会関係 種間関係]
- 10) 三浦泰蔵 (1969) 魚類生産 - 摂取. In: 陸水生物生産研究法. (ed. by 陸水生物生産測定方法論研究会). pp. 165-176. 講談社, 東京. [魚類生産 摂取量 研究法 IBP]
- 11) Miura, T. (1969) Predatory influence of hasu, *Opsariichthys uncirostris*, on ayu, *Plecoglossus altivelis*, in Lake Biwa. Bull. Freshwater Fish. Res. Lab. 19: 143-153. [Lake Biwa Hasu Ayu Predation Population dynamics]
- 12) 三浦泰蔵; 中賢治 (1970) プランクトン個体数推定過程におけるいくつかの問題点. 陸水学雑誌 31: 83-95. [プランクトン 個体数推定 サブサンプリング]
- 13) 三浦泰蔵 (1971) 琵琶湖の魚類. 琵琶湖国定公園学術調査報告書. pp. 313-330. [琵琶湖 魚類 固有種 生活様式 分布 食物連鎖]
- 14) 三浦泰蔵; 白石芳一; 石田昭夫 (1972) 渓流性魚類の個体数におけるエレクトリック・ショック - の効用. 北海道さけ・ますふ化場研報 26: 41-48. [渓流 魚類 個体数推定 エレクトリック・ショック - ]
- 15) 三浦泰蔵 (1973) エネルギー - 収支法によりカワチブナ個体群の攝食量の推定. 大阪府淡水魚試研報 増補 1: 109-118. [カワチブナ エネルギー - 収支法 植物プランクトン食 攝食量]
- 16) 三浦泰蔵; 名越誠; 須永哲雄; 平井賢一; 宮谷浩 (1973) カワチブナ仔稚魚期における攝食生態と成長. 大阪府淡水魚試研報 増補 1: 119-127. [カワチブナ 仔稚魚期 攝食 成長]
- 17) Miura, T. et al. (1975) Productivity of freshwater communities in Lake Biwa. JIBP Synthesis 10: 3-44. [Lake Biwa Oligotrophic Biological productivity]
- 18) Miura, T.; Suzuki, N.; Nagoshi, M.; Yamamura, K. (1976) The rate of production and food consumption of the biwamasu, *Oncorhynchus rhodurus*, population in Lake Biwa. Res. Popul. Ecol. 17: 135-154. [Lake Biwa Salmon Population Piscivory Production Food consumption]
- 19) 谷水久利雄; 三浦泰蔵 (1976) 琵琶湖における沈水植物群集に関する研究 I 南湖における侵入種オオカナダモの分布と生産能. 生理生態 17: 283-290. [琵琶湖 南湖 侵入種 オオカナダモ 分布 生産能]

- 20) Iwasa, Y.; Miura, T. (1976) The rates of respiration and ammonia excretion of freshwater shrimps in Lake Biwa. *Physiol. Ecol. Japan* 17: 465-472. [Lake Biwa Shrimp Respiration Excretion Ammonia]
- 21) Miura, T.; Kawakita, A.; Iwasa, Y.; Tanimizu, K. (1976) Studies on the submerged plant community in Lake Biwa.II. Macroinvertebrates as an important supplier of nitrogenous nutrients in a dense macrophyte zone. *Physiol. Ecol. Japan* 17: 587-591. [Lake Biwa Submerged plant Elodea Invertebrate Excretion Nutrient supplier]
- 22) 三浦泰蔵 (1977) 個体群の動態 - 魚類を中心として -. In: 集団と生態. (ed. by 森主一). pp. 38-107. 朝倉書店. [魚類 個体群動態 再生産 成長 摂食 種間関係 種内関係]
- 23) Mori, S.; Miura, T. (1980) List of plant and animal species living in Lake Biwa. (revised). *Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ., Ser. Biol.* 8: 1-33. [Lake Biwa Fauna Flora Species list]
- 24) 三浦泰蔵 (1980) 陸水学発展史の中での動物のとり扱い. In: 陸水学への招待. (ed. by 半谷高久). pp. 127-166. 東海大学出版会. [陸水学 研究方法論 陸水動物 トップ・ダウン・アプローチ]
- 25) Miura, T.; Tanimizu, K.; Iwasa, Y.; Kawakita, A. (1980) Macroinvertebrates as an important supplier of nitrogenous nutrients in a dense macrophyte zone in Lake Biwa. *Verh. Internat. Verein. Limnol.* 20: 1116-1121. [Lake Biwa Macrophyte Elodea Invertebrate Nitrogen Nutrient supplier]
- 26) Tanimizu, K.; Miura, T.; Higashi, M. (1981) Effect of water movement on the photosynthetic rate of an algal community attached to reed stems. *Verh. Internat. Verein. Limnol.* 21: 584-589. [Lake Biwa Reed Attached algae Water movement Photosynthesis]
- 27) (27) Higashi, M.; Miura, T.; Iwasa, Y. (1981) Effect of feeding of snails on the biomass and productivity of an algal community attached to reed stems. *Verh. Internat. Verein. Limnol.* 21: 590-595. [Lake Biwa Reed Attached algae Biomass Productivity Snail Grazing]
- 28) 三浦泰蔵 (1982) 栄養塩類回帰における底生動物の役割. 京大水資源研究センタ - 研報 2: 47-51. [琵琶湖 栄養塩類 回帰 底生動物 排泄]
- 29) Miura, T.; Wang, J. (1985) Chlorophyll a found in feces of phytoplanktivorous cyprinids and its photosynthetic activity. *Verh. Internat. Verein. Limnol.* 22: 2636-2642. [East Lake Chinese carp Phytoplankton Faeces Viability]
- 30) 三浦泰蔵; 朱志荣 (1986) 武漢東湖中浮遊植物与連魚相互作用的量的評価. *水生生物学報* 10: 202-208. [東湖 (East Lake) ハクレン (Silver carp) 植物プランクトン (Phytoplankton)]

相互作用(Interaction)]

- 31) 立川賢一; 朱志栄; 三浦泰蔵 (1986) 用浅水湖泊型魚探儀估算東湖魚群数量. 水生生物学報 10: 311-326. [東湖(East Lake) ハクレン(Silver carp) コクレン(Bighead carp) 個体数推定(Density estimation) 魚群探知機(Echosounder)]
- 32) 三浦泰蔵 (1986) 湖沼における植物食動物の藻類に及ぼす影響とその水質動態への関わり. 京大水資源研究センタ - 研報 6: 21-26. [湖沼 植物プランクトン 植食魚 ハクレン コクレン 水質]
- 33) 三浦泰蔵; 陳少蓮 (1988) 魚に食べられたワムシ類の行末. サイエンス 3: 40-41. [輪虫類 プランクトン食魚 被食後生残]
- 34) Miura, T. (1989) East Lake - A phytoplanktivorous fishes dominated lake ecosystem. [East Lake Lake ecosystem Phytoplanktivorous fish Production Nitrogen flow Ecosystem dynamics Mathematical modelling]
- 35) Miura, T.; Iwata, K.; Zhang, Z. (1989) Biological significance of effects of phytophagous fishes on phytoplankton. Chinese J. Oceanogr. Limnol. 7: 335-338. [Phytophagous fish Crucean carp Tilapia Phytoplankton Faeces Viability]
- 36) 三浦泰蔵; 山城稔幸 (1990) マルドブガイ(*Anodonta calipygos* KOBELT)と植物プランクトンの相互関係. 京大水資源研究センタ - 研報 10: 11-16. [琵琶湖 二枚貝 マルドブガイ 植物プランクトン 相互作用]
- 37) Miura, T.; Yamashiro, T. (1990) Size selective feeding of *Anodonta calipygos*, a phytoplanktivorous freshwater bivalve, and viability of egested algae. Jap. J. Limnol. 51: 73-78. [Lake Biwa Bivalve Phytoplankton Filter feeding Size selection Viability]
- 38) Iwata, K.; Chen, S.; Liu, X.; Miura, T. (1990) Estimation of ingestion rates of silver and bighead carp using the nitrogen balance method. Jap. J. Limnol. 51: 89-99. [East Lake Silver carp Bighead carp Nitrogen balance method Ingestion rate]
- 39) Miura, T. (1990) The effects of planktivorous fishes on the plankton community in a eutrophic lake. Hydrobiologia 200/201: 567-579. [East Lake Planktivorous fish Silver carp Bighead carp Phytoplankton Zooplankton Biomanipulation]
- 40) Mori, S.; Miura, T. (1990) List of plant and animal species living in Lake Biwa. (corrected third edition). Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ, Ser. Biol. 14: 13-32. [Lake Biwa Fauna Flora Species list]
- 41) Miura, T.; Cai, Q. (1991) The annual and seasonal occurrences of the zooplankters observed in North Basin, Lake Biwa from 1965 to 1979. Lake Biwa Study Monographs 5: 35. [Lake Biwa North Basin Zooplankton Annual occurrence Seasonal occurrence]

- 1) Nakanishi, M.; Monsi, M. (1965) Effect of variation in salinity on photosynthesis of phytoplankton growing in estuaries. *J. Fac. Sci. Univ. Tokyo* 9: 19-42. [salinity, photosynthesis, planktonic algae, estuary]
- 2) Aruga, Y.; Yokohama, Y.; Nakanishi, M. (1968) Primary productivity studies in February-March in the northwestern Pacific of Japan. *J. Oceanogr. Soc. Jap.* 24: 275-280. [primary productivity, phytoplankton, the Pacific ocean, winter]
- 3) Nakanishi, M.; Ward, F. J. (1971) Some sources of error in the 14-C method for estimating primary productivity and their relationship to light intensity during incubation. *Jpn. J. Limnol.* 32: 85-89. [14-C method, primary productivity, excretion loss, light intensity]
- 4) Ward, F. J.; Nakanishi, M. (1971) A comparison of Geiger-Mueller and liquid scintillation counting methods in estimating primary productivity. *Limnol. Oceanogr.* 16: 560-563. [G-M counting method, liquid scintillation counting method, primary productivity]
- 5) Ward, F. J.; Nakanishi, M. (1973) A comparison of liquid scintillation and Geiger-Mueller estimates of primary productivity in an in situ experiment. *J. Fish. Res. Bd. Canada* 30: 708-711. [primary productivity, phytoplankton, liquid scintillation estimates, G-M estimates]
- 6) 門田元; 田中信彦; 中西正己 (1974) 湖水の生態系における植物プランクトンとバクテリアとの関係. In: 微生物の生態 1. 方法論をめぐって. pp. 37-49. 東京大学出版会, 東京. [琵琶湖, 植物プランクトン, 従属栄養細菌, 細胞外排出]
- 7) Tanaka, N.; Nakanishi, M.; Kadota, H. (1974) The excretion of photosynthetic product by natural phytoplankton population in Lake Biwa. *Jpn. J. Limnol.* 35: 91-98. [extracellular organic carbon, photosynthesis, phytoplankton, glycollate]
- 8) Tanaka, N.; Nakanishi, M.; Kadota, H. (1974) Nutritional interrelation between bacteria and phytoplankton in a pelagic ecosystem. In: Effect of the ocean environment on microbial activities. (ed. by Colwell, R. R.; Morita, R. Y.). pp. 495-509. University Park Press, Baltimore. [phytoplankton production, bacterial production, glycolic acid, excretion]
- 9) Tanaka, N.; Nakanishi, M.; Kadota, H. (1975) Distribution and activity of glycollate-utilizing bacteria in the water column in Lake Biwa. *Bull. Japan. Soc. Sci. Fish.* 41: 251-256. [glycollate-utilizing bacteria, photosynthesis, vertical distribution]

- 10) Tanaka, N.; Nakanishi, M.; Kadota, H. (1975) Seasonal variation of glycollate-utilizing bacteria in the water column of Lake Biwa. *Bull. Japan. Soc. Sci. Fish.* 41: 1129-1134. [euphotic layer, extracellular organic carbon, glycollate]
- 11) Nakanishi, M. (1975) Primary productivity by phytoplankton. In: *Productivity of communities in Japanese inland waters.* (ed. by Mori, S.; Yamamoto, G. ). pp. 381-389. University of Tokyo Press, Tokyo. [phytoplankton, primary productivity, chlorophyll a, Japanese lakes]
- 12) Nakanishi, M.; Monsi, M. (1976) Factors that control the species composition of freshwater phytoplankton, with special attention to nutrient concentrations. *Int. Revue ges. Hydrobiol.* 61: 439-470. [nutrients, phytoplankton growth, photosynthesis, respiration]
- 13) Nakanishi, M. (1976) Seasonal variations of chlorophyll a amounts, photosynthesis and production rates of macro- and micro phytoplankton in Shiozu Bay, Lake Biwa. *Physiol. Ecol. Japan* 17: 535-549. [annual primary production, phytoplankton, light utilization efficiency, chlorophyll a]
- 14) Kurata, A.; Saraceni, C.; Ruggiu, D.; Nakanishi, M.; Melciorri-santolini, U.; Kadota, H. (1976) Relationship between B group vitamins and primary production and phytoplankton population in Lake Mergozzo. (northern Italy). *Mem. Ist. Ital. Idrobiol.* 33: 257-284. [B-group vitamins, phytoplankton composition, primary productivity]
- 15) 中西正己; 田中信彦; 岡本州弘 (1978) 水と生命と人間. 紀伊国屋書店, 東京. [河川, 湖, 海, 生態系, 人間活動]
- 16) Saraceni, C.; Ruggiu, D.; Nakanishi, M. (1978) Phytoplankton dynamics, chlorophyll a and phaeophytin in Lago di Mergozzo. (northern Italy). *Mem. Ist. Ital. Idrobiol.* 36: 215-237. [seasonal succession, planktonic algae, species diversity]
- 17) 中西正己; Saraceni, C.; Ruggiu, D. (1979) メルゴッツオ湖における植物プランクトンの動態. In: *微生物の生態 6. 個体群の変動機構をめぐって.* pp. 93-106. 学会出版センター, 東京. [個体群, 植物プランクトン, 季節遷移, 基礎生産力]
- 18) Ruggiu, D.; Saraceni, C.; De Bortoli, T.; Nakanishi, M. (1979) Primary production in Lago di Mergozzo (N. Italy) and implications of phytoplankton cell size. *Mem. Ist. Ital. Idrobiol.* 37: 223-246. [primary production, netphytoplankton, nannophytoplankton, photosynthetic efficiency]
- 19) 中西正己, 寺島彰 (1981) 琵琶湖総合開発と生態系の破壊. In: *水問題の争点.* pp. 218-229. 技術と人間, 東京. [沿岸帯, 形状変更, 水位低下, 水質悪化]
- 20) 石田紀郎; 中南元; 中西正己; 山田国広; 小林啓 (1981) 琵琶湖の赤潮とトリハロメタン生成の関

- 連. 公害と対策 17: 46-50. [ウログレナ, 富栄養化, 琵琶湖, トリハロメタン]
- 21) 中西正己 (1982) 琵琶湖南湖盆におけるナンノプランクトンとネットプランクトンのクロロフィル a 量および日生産量の季節変動. In: 陸水域の富栄養化防止に関する総合研究 (シンポジウム報告). pp. 197-208. 国立公害研究所, つくば. [ナンノプランクトン, ネットプランクトン, クロロフィルa, 日生産量]
- 22) Terashima, A.; Nakanishi, M. (1982) Chlorophyll a, particulate organic carbon and particulate organic nitrogen in sessile algal communities of Nepalese mountain rivers. Jpn. J. Limnol. 43: 208-214. [sessile algae, mountain rivers, Nepal]
- 23) Marriazzi, A. A.; Romero, M. C.; Nakanishi, M.; Conzonno, V. H. (1983) Influencia de la temperatura sobre la tasa de fotosintesis, en el Embalse del Rio Tercero. (Prov. de Cordoba, Argentina). Limnobiologia 2: 419-429. [temperature, photosynthesis, phytoplankton]
- 24) Romero, M. C.; Marriazzi, A. A.; Nakanishi, M. (1983) Relacion entre la tasa de fotosintesis fitoplanctonica y la intensidad luminosa en el Embalse del Rio Tercero. (Prov. de Cordoba, Argentina). Limnobiologia 2: 431-438. [light intensity, phytoplankton, photosynthesis]
- 25) Marriazzi, A. A.; Di Sierve, M.; Romero, M. C.; Nakanishi, M. (1983) Distribucion espacial y estacional de pigmentos fotosinteticos en la zona eufotica del Embalse del Rio Tercero. Limnobiologia 2: 464-470. [chlorophyll a, distribution, phaeopigments, reservoir]
- 26) Nakanishi, M.; Yamamura, N. (1984) Seasonal changes in the primary production and chlorophyll a amount of sessile algal community in a small mountain stream, Chigonosawa. Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ. Ser. Biol. 9: 41-55. [sessile algae, daily primary production, biomass, mountain stream]
- 27) Ibanez, M. S. R.; Nakanishi, M.; Tezuka, Y. (1984) The effect of nutrient enrichment on the natural phytoplankton community of Lake Biwa maintained in glass bottles. Jpn. J. Limnol. 45: 231-239. [nutrient, phytoplankton, chlorophyll a, species composition]
- 28) Nakanishi, M. (1984) Phytoplankton. In: Lake Biwa. (ed. by Horie, S.). pp. 281-290. Dr. W. Junk Publishers, Netherlands. [phytoplankton composition, primary productivity, long term changes]
- 29) Nakanishi, M.; Terashima, A.; Watanabe, M. M.; Mishra, P. N. (1984) Preliminary report on limnological survey in lakes of the Pokhara Valley (Nepal) in November-December 1982. In: Studies on distribution, adaptation and evolution of microorganisms in Nepal Himalayas. (ed. by Kadota, H.). pp. 31-41. Dogura, Kyoto. [diel changes, physico-chemical parameters, daily primary production]

- 30) Nakanishi, M.; Mariazzi, A. A.; Conzonno, V. H.; Di Siervi, C. M.; Romero, M. C. (1985) Primary production studies on a reservoir, Embalse del Rio Tercero, Argentina. Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ. Ser. Biol. 10: 49-62. [day- to day variations, primary production, biomass, phytoplankton]
- 31) Tsuda, R.; Nakanishi, M. (1985) Light utilization efficiencies by phytoplankton in Lake Biwa. Bulletin of Marine Science 36: 779. [daily primary productivity, phytoplankton, underwater light intensity]
- 32) Nakanishi, M.; Narita, T.; Mitamura, O.; Suzuki, N.; Okamoto, K. (1986) Horizontal distribution and seasonal change of chlorophyll a concentration in the south basin of Lake Biwa. Jpn. J. Limnol. 47: 155-164. [chlorophyll a, horizontal distribution, nanoplankton, netplankton]
- 33) Sako, Y.; Nakanishi, M.; Konda, T.; Ishida, Y.; Kadota, H.; Shrestha, K.; Bhandary, H. R.; Shrestha, R. L. (1986) Life cycle of *Peridinium* sp. B3 (Dinophyceae) isolated from Lake Begnas, Nepal. Nihon Biseibutsu Seitai Gakkaihou 1: 19-27. [Peridinium, cyst, life cycle, freshwater red tide]
- 34) Nakanishi, M.; Sako, Y.; Konda, T.; Shrestha, K.; Bhandary, H. R. (1986) Limnological Study in Phewa, Begnas and Rupa Lakes. In: Studies on Distribution, Adaptation and Evolution of Microorganisms in Nepal Himalayas (Second Report). (ed. by Ishida, Y.). pp. 3-13. Dogura, Kyoto. [chemical composition, primary productivity, algal composition]
- 35) 中西正己 (1987) 琵琶湖における淡水赤潮の発生 - 南湖での発生状況. In: 淡水赤潮. (ed. by 門田元). pp. 171-177. 恒星社厚生閣. [ウログレナ, 水平分布, 消長]
- 36) Nakanishi, M.; Watanabe, M. M.; Terashima, A.; Sako, Y.; Konda, T.; Shrestha, K.; Bhandary, H. R.; Ishida, Y. (1988) Studies on some limnological variables in subtropical lakes of the Pokhara, Nepal. Jpn. J. Limnol. 49: 71-86. [chemical composition, algal composition, algal biomass]
- 37) Konda, T.; Nakanishi, M.; Sako, Y.; Ishida, Y.; Shrestha, K.; Bhandary, H. R.; Shrestha, R. L. (1988) Bacterial numbers and floras in the water and sediment of subtropical lakes Phewa, Begnas and Rupa in Nepal. Bull. Jpn. Soc. Microbial Ecol. 3: 21-28. [AODC, heterotrophic bacteria, bacterial flora, subtropical lakes]
- 38) Nakanishi, M.; Narita, T.; Suzuki, N.; Mitamura, O. (1988) Assimilation number and primary productivity of phytoplankton in the south basin of Lake Biwa. Jpn. J. Limnol. 49: 175-184. [assimilation number, primary productivity, Lake Biwa, nanoplankton]
- 39) Tsuda, R.; Nakanishi, M. (1988) The relative importance of chlorophyll a, dissolved and

- particulate materials, and water to the vertical attenuation in the north basin of Lake Biwa. Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ. Ser. Biol. 13: 101-109. [light attenuation, chlorophyll a, dissolved matter, water]
- 40) Tsuda, R.; Nakanishi, M. (1989) Optical properties and their relation to light utilization by phytoplankton in the stratified period in the north basin of Lake Biwa. Arch. Hydrobiol. 116: 235-244. [light utilization, phytoplakton, summer]
- 41) Nakanishi, M.; Saraceni, C.; Kurata, A. (1989) Comparison of some limnological variables in the waters between the upper and lower littoral area within an Egeria stand. Arch. Hydrobiol. 116: 313-331. [Egeria densa, macrophyte zone, phytoplankton photosynthesis, antagonism]
- 42) Nakanishi, M.; Mitamura, O.; Matsubara, T. (1990) Sestonic C : N : P ratios in the south basin of Lake Biwa, with special attention to nutritional state of phytoplankton. Jpn. J. Limnol. 51: 185-189. [seasonal change, relative growth rate, phytoplankton, nutrient deficiency]
- 43) Tsuda, R.; Nakanishi, M. (1990) Spectral distribution characteristics in downwelling irradiance and optical properties within the euphotic layer in the north basin of Lake Biwa. Arch. Hydrobiol. 119: 279-292. [downwelling spectral distribution, chlorophyll a, diffuse attenuation coefficient]
- 44) Nakanishi, M. ; Matsubara, T.; Mitamura, O.; Xavier, M. B. (1990) A comparison of phytoplankton community structure between different locations in the south basin of Lake Biwa. Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ. Ser. Biol. 14: 1-11. [phytoplankton composition, local difference, species diversity, community similarity]
- 45) 中西正己 (1991) 琵琶湖の植物プランクトン。(コメント). In: 琵琶湖の生物 - 現状と変遷. pp. 33-41. 琵琶湖研究所, 滋賀. [植物プランクトン, 群集構造, 経年変化, 光合成]
- 46) 手塚泰彦; 中西正己 (1991) 琵琶湖の水質変動と植物プランクトンの関係. 環境科学総合研究所年報 10: 43-57. [water quality, phytoplankton, Lake Biwa, cyanobacteria]
- 47) Tsuda, R.; Nakanishi, M. (1991) Optical characteristics and light attenuation. (in press). In: Physics of Lake Biwa- the largest lake of Japan. (ed. by Imberger, J.; Okuda, S.). Springer-Verlag, Berlin. [downwelling spectral irradiance, light attenuation coefficient, Lake Biwa]

- 1) Harada, E; Narita, T. (1964) Ecological aspects of the research of bottom animals of the deep sea with reference to the collections of JEDS-6. *La Mer* 1: 62-66.
- 2) 成田哲也; Ward, F.J. (1971) Ingestion and incorporation in *Daphnia carinata*. 第36回 日本陸水学会大会講演要旨集. pp. 87-88.
- 3) Narita, T.; Ward, F.J.; (1972) Ingestion and incorporation by *Daphnia similis* from carbon-14 labeled *Scenedesmus* cultures. *Japanese Journal of Limnology* 33: 36-43 .  
[*Daphnia similis*, feeding rate, carbon-14 ]
- 4) 成田哲也; 森 主一 (1973) 大型・小型植物プランクトンにたいする動物プランクトンの摂食について. 第38回 日本陸水学会大会講演要旨集. p. 329.
- 5) 成田哲也; 中西正己; 三浦泰蔵; 田中信彦 (1974) 琵琶湖・湯ノ湖・諏訪湖における動物プランクトンの現存量と摂食量. 第39回日本陸水学会大会講演要旨集. p. 28.
- 6) Narita, T.; Mori, S. (1975) Secondary production of zooplankton. In: *Productivity of Communities in Japanese Inland Waters.* (ed. by Mori, S.; Yamamoto, G.). pp. 22-25. University of Tokyo Press, Tokyo. [zooplankton biomass]
- 7) 岡本州弘; 成田哲也 (1976) 植食性動物プランクトンの摂食活性. 第41回日本陸水学会大会講演要旨集. p. 137.
- 8) Narita, T. (1976) Occurrence of two ecological forms of *Anisogammarus annandalei* (Tattersall) (Crustacea:Amphipoda) in Lake Biwa. In: *Physiology and Ecology , Japan.* pp. 551-556. [amphipod, life-cycle]
- 9) 成田哲也; 岡本州弘 (1977) 動物プランクトン採集における北原式定量ネット, バンド - ン採水器, シンドラ - 型採集器の比較. 第42回日本陸水学会大会講演要旨集. p. C4.
- 10) 岡本州弘; 成田哲也 (1977) ヤマトヒゲナガケンミジンコ *Eodiaptomus japonicus* の摂食速度の測定. 第42回日本陸水学会大会講演要旨集. p. C5.
- 11) 成田哲也; 中西正己 (1979) フェオ色素測定の問題点. 第44回日本陸水学会大会講演要旨集. p. 18.
- 12) Narita, T.; Mizuno, T. (1980) Zooplankton. In: *Recent progress of Limnology in Japan.* (ed. by Hanya, T. (ed)). pp. 223-226. Science Council of Japan.
- 13) Okamoto, K.; Narita, T. (1981) Seasonal change in size-selective feeding activities of *Daphnia longispina* and *Eodiaptomus japonicus* on a natural phytoplankton community in Lake Biwa.(Abstract). *Verhandlungen International Vereinigung fur theoretische und angewandte Limnologie* 21: 600. [feeding rate, zooplankton, size fraction, natural phytoplankton]

- 14) 成田哲也 (1982) タンガニイカ湖の動物プランクトンの組成と分布. 第47回日本陸水学会大会講演要旨集. p. 122.
- 15) 成田哲也 (1983) 琵琶湖南湖における動物プランクトンの季節変化. 第48回日本陸水学会大会講演要旨集. p. 105.
- 16) 江田信一; 成田哲也 (1983) ノコギリケンミジンコによる動物プランクトンの捕食. 第48回日本陸水学会大会講演要旨集. p. 106.
- 17) 成田哲也 (1984) 淡水産動物プランクトンの生産過程. In: 日本プランクトン学会報. pp. 114-117.
- 18) 成田哲也 (1984) 琵琶湖南湖におけるイトミミズ *Tubifex hattai* の掘潜移動. 第49回日本陸水学会大会講演要旨集. p. 122.
- 19) Narita, T.; Okamoto, K. (1984) Zooplankton. In: Lake Biwa. (ed. by Horie, S.). pp. 313-321. Dr. Junk Pub.
- 20) 成田哲也 (1985) 底生動物の分布. 第50回日本陸水学会大会講演要旨集. p. 193.
- 21) Harada, E.; Nishino, M.; Narita, T. (1985) A partite plankton sampler and summer vertical structure of zooplankton revealed using it in shallow brackish waters, Lake Shinji-ko and Lake Naka-umi. *Physiology and Ecology, Japan* 22: 37-57. [partite plankton sampler, vertical distribution, brackish lake,]
- 22) 成田哲也 (1986) 藻類と水界動物の相互作用. In: 藻類の生態. (ed. by 秋山優, 坂本 充, 有賀祐勝, 横浜康継). pp. 425-435. 内田老鶴圃.
- 23) Narita, T.; Mulimbwa, N.; Mizuno, T. (1986) Vertical distribution and seasonal abundance of zooplanktons in Lake Tanganyika. *African Study Monograph* 6: 1-16. [Tanganyika, zooplankton, distribution, seasonality]
- 24) Nakanishi, M.; Narita, T.; Mitamura, O.; Suzuki, N.; Okamoto, K. (1986) Horizontal distribution and seasonal change of chlorophyll a concentration in the south basin of Lake Biwa. *Japanese Journal of Limnology* 47: 155-164. [chlorophyll amount, horizontal distribution]
- 25) 成田哲也 (1987) 琵琶湖北湖における水生貧毛類の垂直分布. 第52回日本陸水学会大会講演要旨集. p. 121.
- 26) 成田哲也 (1988) 琵琶湖北湖の水生ミミズの分布と季節変化. 第53回日本陸水学会大会講演要旨集. p. 83.
- 27) Nakanishi, M.; Narita, T.; Suzuki, N.; Mitamura, O. (1988) Assimilation number and primary production of phytoplankton in the south basin of Lake Biwa. *Japanese Journal of Limnology* 49: 175-184.
- 28) 成田哲也 (1989) 水生貧毛類 *Rhyacodrilus* sp. の産卵習性と分布. 第54回日本陸水学会大会講演

演要旨集. p. 15.

- 29) 成田哲也; 川幡佳一 (1991) *Eodiaptomus japonicus* ナウプリウスの摂食速度. 第56回日本陸水学会大会講演要旨集. p. 71.

SHIMIZU, Isamu 清水 勇

---

- 1) Shimizu, I.; Nagai, J.; Hatanaka, H.; Saito, E.; Katsuki, H. (1971) Subcellular localization of 3-hydroxy-3-methylglutaryl-CoA reductase in *Saccharomyces cerevisiae*. J. Biochem. 70: 175-177. [Saccaromyces cerevisiae, sterol, HMG-Co A reductase, mitochondria]
- 2) 清水勇; 永井純; 畠中寛; 斉藤英紀; 香月裕彦 (1971) 酵母におけるステロ - ル生合成初発段階の諸酵素の細胞内分布と好気適応. 生化学 43: 545.
- 3) 清水勇; 永井純; 畠中寛; 斉藤英紀; 香月裕彦 (1971) 酵母におけるステロ - ル生合成初発段階の諸酵素の細胞内分布について. 脂質生化学 13: 129-34. [酵母, ステロ - ル生合成, 細胞内分布, 好気適応, mitochondria]
- 4) 清水勇; 永井純; 香月裕彦 (1972) 酵母におけるアセト酢酸の代謝. 生化学 44: 756.
- 5) 田村昌文; 清水勇; 永井純 (1972) 酸素適応時における酵母のステロ - ル生合成の調節について. 生化学 44 : 800
- 6) Shimizu, I.; Nagai, J.; Hatanaka, H.; Katsuki, H. (1973) Mevalonate synthesis in the mitochondria of yeast. Biochimica et Biophysica Acta 296: 310-320. [mevalonate, mitochondria, yeast, acetoacetyl-Co A thiolase, ergosterol-synthesis]
- 7) 清水勇; 永井純; 香月裕彦 (1973) 酵母におけるステロ - ル生合成に及ぼす温度効果. 生化学 45: 72-.
- 8) Shimizu, I.; Nagai, J.; Katsuki, H. (1974) Formation and metabolism of acetoacetate in yeast. J. Biochem 75: 69-76. [yeast, acetoacetate, keton body, mitochondria, O2-adaptation]
- 9) Shimizu, I.; Katsuki, H. (1975) Effect of temperature on ergosterol biosynthesis in yeast. J. Biochem. 77: 1023-1027. [yeast, temperature adaptation, ergosterol, O2-adaptation]
- 10) Shimizu, I.; Kitabatake, S.; Kato, M. (1976) Loss of phototactic behavior in silkworm larvae reared on synthetic diet. Proc. Japan Acad. 52: 137-140. [*Bombyx mori*, phototaxis, artificial diet]
- 11) 清水勇 (1977) カイコの走光性行動と人工飼料. 化学と生物: 454-455.

- 12) 清水勇; 足立重信; 加藤勝 (1978) 電気刺激による家蚕の登簇と幼虫脱皮の促進. 日蚕雑 47: 226-230. [電気刺激; 家蚕; 負の背地性; 幼虫脱皮; 脱皮ホルモン]
- 13) Shimizu, I; Kato, M. (1978) Loss of phototaxis in silkworm larvae after smelling mulberry leaves and recovery after electroconvulsive shock. Nature 272: 248-249. [Bombyx mori, phototaxis, short-term memory, electroconvulsive shock]
- 14) 清水勇; 北畠征二 (1978) 桑樹における蠶蚕の行動-カイコ幼虫の視覚の役割. 第22回応用動物昆虫学会講演要旨集. p. 67
- 15) 清水勇 (1979) カイコ体液におけるKとMgイオン濃度の変化. 動物学雑誌 88: 513
- 16) 清水勇 (1980) 微生物環境が家蚕中腸の消化酵素活性に及ぼす影響. 無菌生物 20: 7-9. [腸内細菌; 消化酵素; 軟化病]
- 17) 清水勇 (1980) 微生物環境が昆虫中腸の消化酵素活性に及ぼす影響. 第13回無菌生物ノ - トバ イオロジ - 学会講演要旨集. p.12.
- 18) Shimizu, I.; Kitabatake, S.; Kato, M. (1980) Effect of carotenoid deficiency on photosensitivities in the silkworm, Bombyx mori. 16th International Congress of Entomology (Kyoto) Abstract: 27.
- 19) 酒井久満; 清水勇 (1980) カイコの光感覚と走行性行動. 動物学雑誌 89: 467
- 20) 清水勇; 北畠征二; 加藤勝 (1980) カイコの光周反応とカロチノイド. 動物学雑誌 89: 466
- 21) 清水勇 (1981) 昆虫の走光性に関する光生理現象. In: 文部省科研費 (特定研究 光生理現象の初期過程) 補助金研究成果報告書. (ed. by 原富之). pp. 250-251. 文部省科学研費補助金「光生理」研究班, 大阪.
- 22) 清水勇 (1981) カイコの走光性行動に関する研究 I 蠶蚕の走光性の適応的意味. 生物環境調節 19: 41-49. [Bombyx mori, 走光性行動, 視覚, 色彩感覚]
- 23) 清水勇; 道之前充直 (1981) カイコの走光性行動に関する研究 II 熟蚕期の走光性パターンの変化. 生物環境調節 19: 75-83. [Bombyx mori, 走光性行動, 変態, 視覚, 単眼]
- 24) Shimizu, I.; Kitabatake, S.; Kato, M (1981) Effect of carotenoid-deficiency on photosensitivities in the silkworm, Bombyx mori. J. Insect Physiol. 27: 593-599. [Bombyx mori, carotenoid, ocellus, compound eyes, photosensitivity, artificial diet, ERG response]
- 25) 清水勇 (1981) カイコの光周反応: 光受容機構について(1). 動物学雑誌 90: 510
- 26) Shimizu, I (1982) Variation of cation concentration in the haemolymph of the silkworm, Bombyx mori, with diet and larval-pupal development. Comp. Biochem. Physiol. 71: 445-447. [Bombyx mori, cation concentration, haemolymph, development]
- 27) Shimizu, I. (1982) Photoperiodic induction in the silkworm, Bombyx mori, reared on artificial diet: evidence for extraretinal photoreception. J. Insect Physiol. 28: 841-846.

- [*Bombyx mori*, photoperiodism, artificial diet, extraretinal photoreception, ocelli]
- 28) 清水勇 (1982) ノ - トバイオトロンキャビネットを用いた無菌飼育の試み ( 課題シンポジウム無菌環境の制御技法と無菌生物学研究の意義 ) . 第20回生物環境調節学会講演要旨集. p. 94.
  - 29) Kitabatake, S.; Shimizu, I; Kato, M. (1983) Wavelength-dependent properties of phototaxis in larvae of *Bombyx mori*. *Photo. and Photo.* 37: 321-327. [*Bombyx mori*, phototaxis, color-vision, wavelength-discrimination]
  - 30) Shimizu, I.; Matsui, K. (1983) Photoreceptions in the eclosion of the silkworm, *Bombyx mori*. *Photo. and Photo.* 37: 409-413. [*Bombyx mori*, eclosion, circadian rhythm, photoreception, compound eye]
  - 31) 清水勇; 松居径 (1983) カイコの羽化リズムと光受容. *動物学雑誌.* 91: 129.
  - 32) 松原藤好; 川口昭; 清水勇 (1983) ノ - トバイオロンによる全齢一回給餌によるカイコの無菌飼育. 第53回蚕糸学会講演要旨集. p. 69
  - 33) 清水勇 (1983) カイコの光周反応 (II) “大造” の光感受性について. *動物学雑誌* 92: 549
  - 34) Shimizu, I.; Kato, M. (1984) Carotenoid functions in the photoperiodic induction in the silkworm *Bombyx mori*. *Photobiochem. and Photobiophys.* 7: 47-52.  
[photoperiodism, carotenoid, *Bombyx mori*, photoreceptor, artificial diet]
  - 35) Shimizu, I. (1984) Eclosion rhythm of the silkworm, *Bombyx mori*. 17th International Congress of Entomology (Hamburg) Abstract: 138.
  - 36) Shimizu, I. (1984) Circadian clock controlling the eclosion rhythm of the silkworm, *Bombyx mori*. *Zoological Science* 1: 993.
  - 37) Miura, K.; Shimizu, I. (1984) Changes in lipid components in diapause, non-diapause and HCl-treated of the silkworm, *Bombyx mori*. *Zoological Science* 1: 908.
  - 38) 清水勇; 加藤勝 (1985) カイコの走光性行動に関する研究 III 桑葉の揮発成分による走光性の抑制. *生物環境調節* 23: 89-97. [*Bombyx mori*, 走光性行動, 桑葉揮発成分, 短期記憶]
  - 39) Hasegawa, K.; Shimizu, I. (1985) Localization of photoreceptor site for photoperiodic induction of *Bombyx mori*. *Zoological Science* 2: 968.
  - 40) 加藤勝; 清水勇; 吉川一 (1985) 光生態生理現象と生化学. *生化学* 57: 683.
  - 41) 清水勇 (1986) カイコの光周性反応で機能する光受容色素の同定. In: 文部省科研費 (一般研究C) 補助金研究成果報告書. pp. 1-18. [*Bombyx mori*, 光周性反応, 光受容色素, レチナ - ル, カロチノイド]
  - 42) Shimizu, I.; Hori, S. (1986) Photo-orientation behavior of silkworm, *Bombyx mori*, in cocoon. *Zoological Science* 3: 1102.
  - 43) Hasegawa, K.; Shimizu, I. (1986) In vitro programming of photoperiodic induction of

- diapause in *Bombyx mori*. *Zoologica Science* 3: 1090.
- 44) Miura, K.; Shimizu, I. (1986) Lipophorin in haemolymph and eggs of *Bombyx mori*. *Zoologica Science* 3: 1013.
- 45) 清水勇; 三浦健 (1986) カイコの羽化リズム. 第3回生物リズム研究会講演要旨集. p. 1.
- 46) Miura, K; Shimizu, I. (1987) Changes in triglyceride content in *Bombyx mori* eggs during diapause and embryogenesis. *Comp. Biochem. Physiol.* 86: 719-729. [diapause, *Bombyx mori*, triglyceride, embryogenesis, lipids, respiration, phospholipids]
- 47) Shimizu, I.; Miura, K. (1987) Circadian clock controlling the eclosion rhythm of the silkworm, *Bombyx mori*: its characteristics and dynamics. *Memoirs of the Faculty of Science, Kyoto University (series of Biology)* 12: 135-156. [*Bombyx mori*, eclosion, circadian rhythm, biological clock, phase-shift]
- 48) Hasegawa, K.; Shimizu, I. (1987) In vivo and in vitro photoperiodic induction of diapause using isolated brain-suboesophageal ganglion complexes of the silkworm, *Bombyx mori*. *J. Insect Physiol.* 33: 959-966. [diapause, photoperiodic induction, photoreception, brain, suboesophageal ganglion, *Bombyx mori*]
- 49) Miura, K; Shimizu, I. (1987) Developmental changes in properties of lipophorin of the silkworm, *Bombyx mori*. *Zoological Science* 4: 1011.
- 50) Hori, S.; Shimizu, I.; Yoshida, S.; Yoshizawa, T. (1987) Effect of vitamin A deficiency on ERG response and 3-OH-retinal content in the silkworm compound eyes. *Zoological Science* 4: 978.
- 51) Eguchi, E.; Hori, S.; Shimizu, I. (1987) The effect of vitamin A deficiency on the compound eyes of silkworm moth. *Zoological Science* 4: 981.
- 52) 清水勇 (1987) 光周性反応およびリズム現象におけるカロチノイド. 第58回動物学会講演要旨集 (シンポジウム: 動物の光周性反応機構). p. 12.
- 53) 清水勇 (1987) カイコとクワコの走行性行動. *野蚕研究会報* 3: 8-9.
- 54) Miura, K; Shimizu, I. (1988) Identification and properties of lipophorin of the silkworm, *Bombyx mori*. *Comp. Biochem. Physiol.* 89B: 95-103. [lipophorin, *Bombyx mori*, lipid, transport, haemolymph, fat-body]
- 55) Hasegawa, K; Shimizu, I. (1988) Occurrence of retinal and 3-hydroxyretinal in a possible photoreceptor of the silkworm brain involved in photoperiodism. *Experientia* 44: 74-76. [*Bombyx mori*, retinal, 3-hydroxyretinal, photoperiodism, photoreceptor, HPLC-analysis]
- 56) 清水勇 (1988) 家蚕の摂食機構に関する総合的考究 (桑葉中のカイコ走光性抑制因子と誘引物

- 質の検索. In: 文部省科研費(一般研究A)補助金研究成果報告書. (ed. by 林屋慶三). pp. 10-30. [Bombyx mori, 摂食機構, 走光性]
- 57) Shimizu, I.; Hasegawa, K. (1988) Photoperiodic induction of the silkworm, *Bombyx mori*: identification of the photoreceptor using chemiluminescent paint. *Physiol. Entomology* 13: 81-88. [Bombyx mori, photoperiodism, photoreceptor, counter, ocelli, extraretinal photoreceptor, chemiluminescent paint]
- 58) 清水勇; 長谷川浩; 松井智彦 (1988) 蚕の休眠ホルモンの分泌制御機構: GABAニューロンの関与の可能性. 第32回応用動物昆虫学会講演要旨集. p. 72.
- 59) 清水勇; 長谷川浩; 松井智彦 (1988) カイコの休眠ホルモンの分泌制御におけるGABAニューロンの関与. *動物生理* 5: 114.
- 60) 清水勇; 長谷川浩 (1988) カイコの休眠と光周反応(シンポジウム環境と動物の周期性). 第13回比較内分泌学会講演要旨. p. 26.
- 61) Shimizu, I. (1988) Sign change of phototaxis in white-eye silkworm mutant (W 1). *Zoologica Science* 5: 1206.
- 62) Miura, K.; Shimizu, I. (1988) Effect of adipokinetic hormone on properties of lipophorin of the silkworm, *Bombyx mori*. *Zoological Science* 5: 1244.
- 63) Hasegawa, K.; Shimizu, I.; Matsui, T. (1988) Regulation of diapause-hormone secretion in the silkworm, *Bombyx mori*. *Zoologica Science* 5: 1306.
- 64) Miura, K.; Shimizu, I. (1989) Changes of properties in lipophorin of the silkworm, *Bombyx mori* with ontogeny. *Comp. Biochem. Physiol.* 92B: 197-204. [Bombyx mori, lipid, lipophorin, transport, haemolymph, ontogeny]
- 65) Shimizu, I.; Matsui, T.; Hasegawa, K. (1989) Possible involvement of GABAergic neurones in regulation of the diapause hormone secretion in the silkworm, *Bombyx mori*. *Zoological Science* 6: 809-812. [Bombyx mori, GABAergic neurones, diapause, hormone, ovary, picrotoxin, photoperiodism]
- 66) Shimizu, I. (1989) *Circadian Clocks and Ecology*. Hokkaido University Press, Sapporo. [circadian rhythm, eclosion, phase-shift, *Bombyx mori*]
- 67) Shimizu, I.; Hasegawa, K. (1989) Photoperiodic induction of diapause in the silkworm, *Bombyx mori*: mechanism of photoreception. *Fifth International Congress of Invertebrate Reproduction (Nagoya) Abstract*. p. 136.
- 68) Oishi, T.; Kawata, A.; Oodera, K.; Hattori, A.; Shimizu, I. (1989) Photoperiodic-gonadal response in vitamin A deficient with retinoic acid replacement therapy. *Zoologica Science* 6: 1087.
- 69) 清水勇 (1990) 第一白卵(w-1)のカイコ幼虫の明暗順応による走光性の符号転換. *応用動*

- 物昆虫学雑誌 34: 29-36. [Bombyx mori, 走光性行動, 突然変異, 第一白卵, 明暗順応]
- 70) Hori, S; Shimizu, I. (1990) Geo-orientation and photo-orientation behavior of Bombyx mori at the terminatin of cocoon construction. Applied Ent. Zool. 24: 177-186.  
[Bombyx mori , geo-orientation, photo-orientation, cocoon construction]
- 71) 清水勇 (1990) カイコの光周性反応と休眠ホルモンの分泌制御機構 (総説). 生物物理 30: 50-54. [Bombyx mori, diapause hormone, photoperiodism]
- 72) Sakamoto, K; Shimizu, I. (1990) Effect of carotenoid deficiency on circadian rhythm in hatching of the silkworm, Bombyx mori. Zoological Science 7: 1029.
- 73) Hasegawa, K.; Shimizu, I. (1990) The brain regulates the release of diapause hormone from the suboesophageal ganglion primarily through GABAergic neurones in the silkworm, Bombyx mori. Zoological Science 7: 1130.
- 74) Hasegawa, K.; Shimizu, I. (1990) GABAergic control of the release of diapause hormone from the suboesophageal ganglion of the silkworm, Bombyx mori. J. Insect Physiol. 36: 909-915. [GABAergic control, Bombyx mori , diapause hormone, suboesophageal ganglion, photoperiodic induction]
- 75) Miura, K.; Shimizu, I. (1991) Effect of adipokinetic hormone on properties of lipophorin of the silkworm, Bombyx mori. Comp. Biochem. Physiol. 98B: 73-78. [lipophorin, Bombyx mori , adipokinetic hormone]
- 76) 清水勇 (1991) カイコの化性と光周性反応 (総説). 応用動物昆虫学雑誌 35: 83-91.  
[Bombyx mori , Photoperiodsim, voltinism]
- 77) 清水勇 (1991) カイコ幼虫の走光性行動 (総説). 日蚕雑 60: 91-96. [Bombyx mori, 走光性, 適応と変異]
- 78) Sakamoto, K.; Shimizu, I. (1991) Effect of carotenoid deficiency on circadian rhythm in hatching of the silkworm, Bombyx mori II. Zoologica1 Science 8: 1037.
- 79) Aoki, S.; Shimizu, I. (1991) Mechanism of synthesis and secretion of diapause hormone in the silkworm, Bombyx mori. Zoologica1 Science 8: 1182.
- 80) Eguchi, E.; Maeda, S.; Shimizu, I. (1991) The formation of myeloid bodies in relinular cells of the pupal compound eyes of silkworm moths ( Bombyx mori ) exposed to a constan bright light. Cell Tissues Res. 265: 381-384. [myeloid bodies, retinular cell, compound eyes, Bombyx mori]

- 1) Higuchi, K.; Tokuoka (Sugimoto), A. ; Watanabe, O. (1985) Effects of precipitation on the isotopic composition of falling snow particles. *Annals of Glaciology* 6: 261-262. [oxygen isotopic composition, snow, winter monsoon, precipitation efficiency]
- 2) Watanabe, O.; Kanamori, N.; Sugimoto, A.; Iida, H.; Higuchi, K. (1986) Regional characteristics of snow cover in the mountain region of central Japan. *The Journal of Earth Sciences, Nagoya University* 34: 67-108. [snow cover, oxygen isotopic composition, orographic effect, chemical composition ]
- 3) Sugimoto, A.; Higuchi, K.; Kusakabe, M. (1988) Relationship between dD and d18O values of falling snow particles from a separate cloud. *Tellus* 40B: 205-213. [snow particle, convective cloud, dD, d18O]
- 4) Sugimoto, A.; Higuchi, K. (1989) Oxygen isotopic variation of falling snow particles with time during the lifetime of a convective cloud: observation and modelling. *Tellus* 41B: 511-523. [oxygen isotopic composition, falling snow, convective cloud, modelling]
- 5) Sugimoto, A.; Xu Hong; Wada, E. (1991) Rapid and simple measurement of carbon isotope ratio of bubble methane using GC/C/IRMS. *Mass Spectroscopy* 39: 261-266. [bubble methane, carbon dioxide, wetland carbon isotopic composition, GC/C/IRMS ]
- 6) 杉本敦子 (1991) 酢酸の分子内同位体分布とその意義. 1991年度質量分析連合討論会講演要旨集: 26-27. [酢酸, 分子内同位体分布, d13C, メタン生成]
- 7) 杉本敦子; 和田英太郎 (1991) 水田土壤中におけるメタン生成機構と炭素同位体組成. 日本地球化学会年会講演要旨集. p. 82. [水田土壌, 炭素同位体組成, 保温実験, メタン生成機構, 酢酸]

- 1) Tabata, H. (1964) Vessel element of Japanese birches as viewed from ecology and evolution. *Physiology and Ecology Japan* 12: 7-16.
- 2) 田端英雄 (編) (1964) 国民のための生物教育. 法律文化社.
- 3) 油津雄夫; 田端英雄 (1964) 北見経営区におけるヤマナラシ天然更新 (1). *日林講*: 358-360 .
- 4) 田端英雄 (1964) 北見におけるヤマナラシの根ざしについて. *北方林業* 189: 25-26.
- 5) 田端英雄 (1965) ソビエトの植物生理学 - 種の問題を中心として -. *ミチュ - リン生物学研究* 1: 2-13.
- 6) Tabata, H. (1966) A contribution to the biology of Japanese birches. *Mem. Coll. Sci.*

- Univ. Kyoto (B) 32: 239-271.
- 7) 田端英雄 (1966) 生態学における種. In: 現代の生物学 9巻. pp. 19-38. 岩波書店, 東京.
  - 8) 徳田御稔; 田端英雄; 林繁一; 佐藤栄 (1966) 生態学における種の問題. ミチュ - リン生物学研究 2: 86-94.
  - 9) 田端英雄 (1967) ねずみ害について思うこと. 哺乳類科学 12: 19-24.
  - 10) 田端英雄 (1968) 生物学における適応. ミチュ - リン生物学研究 4: 53-61.
  - 11) 徳田御稔; 田端英雄 (対談) (1970) 激動の大学・戦後の証言 (36) 生態学の生態 (上). 朝日ジャーナル 12 (38): 37-41.
  - 12) 徳田御稔; 田端英雄 (対談) (1970) 激動の大学・戦後の証言 (36) 生態学の生態 (下). 朝日ジャーナル 12 (39): 85-89.
  - 13) Tabata, H. (1971) Root habit of Japanese birches (*Betula*). Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ. Ser. B 4: 130-138.
  - 14) 田端英雄 (1971) 可児藤吉の生態学とダ - ウィニズム. ミチュ - リン生物学研究 4: 53-61 .
  - 15) Hatakeyama, I.; Murata, G.; Tabata, H. (1973) A list of plants in the Botanical Garden of Kyoto University and some ecological data. Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ. Ser. B 6: 91-148.
  - 16) 田端英雄 (1973) 植物における種内関係 I. 北方林業 297: 17-19.
  - 17) 田端英雄; 村田源; 藤田昇 (1974) 京都府の植物. 京都府.
  - 18) Tabata, H. (1974) The vegetation of Kyoto Prefecture. Kyoto Prefecture.
  - 19) 田端英雄 (1974) 植物における種内関係 II. 北方林業 303: 6-11.
  - 20) 田端英雄 (1976) 進化システム (1) ネオテニ -. PPP 2 (2): 6-13.
  - 21) 田端英雄 (1976) 遊びの生物学 - ゴキブリ亭主が育児をしながら考えた人間論の試み. PPP 2 (6): 20-33.
  - 22) 田端英雄 (1976) 比較遊び論 文献紹介. PPP 2 (6): 34-37.
  - 23) 日高敏隆; 田端英雄 (1976) 遊びのもつ生物学的意味を問う. PPP 2 (6): 38-46.
  - 24) 田端英雄; 村田源; 藤田昇 (1978) 特定群落調査報告書. 154 pp. 京都府.
  - 25) 田端英雄; 和田一雄; Rajbhandari, K. R. (1979) ネパ - ルにおけるハヌマンラング - ル (ハイイロヤセザル) の分布と生態. In: 熱帯アジアにおけるヤセザル類の比較生態学的研究. (ed. by 川村俊蔵). pp. 142-146.
  - 26) Tabata, H. (1979) On the vegetation surrounding Lake Yogo. Paleolimnology of Lake Biwa and the Japanese Pleistocene 6: 281-293.
  - 27) 田端英雄 (1979) ネパ - ルのチベット交易. 朝日新聞 1979/2/8.
  - 28) 清水善和; 田端英雄 (1980) 植物からみた小笠原. 小笠原研究年報 3: 32-44.
  - 29) 田端英雄 (1980) ネパ - ル踏査行 (1) - 道なき道を行く. アサヒグラフ 1980/2/8: 62-68.

- 30) 田端英雄 (1980) ネパ - ル踏査行 (2) - 働き者の子どもたち. アサヒグラフ 1980/2/15: 50-53.
- 31) 田端英雄 (1980) ネパ - ル踏査行 (3) - 交易路の賑わい. アサヒグラフ 1980/2/22: 78-81.
- 32) 田端英雄 (1980) ネパ - ル踏査行 (4) - 小学校のいろいろ. アサヒグラフ 1980/2/29: 34-37.
- 33) 田端英雄 (1980) ネパ - ル踏査行 (5) - 生きている宗教. アサヒグラフ 1980/3/7: 56-59.
- 34) 田端英雄 (1980) ネパ - ルの林業雑感 - 深刻化する燃料問題. 随想森林 4: 43-44.
- 35) 田端英雄 (1980) ネパ - ルの林業雑感 - タライの穀倉地帯化と焼畑耕作の禁止. 随想森林 5: 42-44.
- 36) 土屋和三; 藤田昇; 田端英雄; 松井淳 (1981) 深泥池浮島の植生. In: 深泥池学術調査報告書. pp. 92-94. 京都市.
- 37) 藤田昇; 田端英雄; 松井淳 (1981) 深泥池浮島の生態学的研究. In: 深泥池学術調査報告書. pp. 95-138. 京都市.
- 38) 田端英雄; 藤田昇ほか (1981) 動植物分布図 (京都府). 環境庁.
- 39) 田端英雄 (1981) 現代の奇跡 深泥池 (3) 盛り上がりの形成 - 浮島 (2). 京都新聞 1981/4/23.
- 40) 田端英雄 (1981) 現代の奇跡 深泥池 (4) 健康維持の秘密 - 浮島 (3). 京都新聞 1981/4/24.
- 41) 田端英雄 (1981) 現代の奇跡 深泥池 (5) 水質悪化が病を - 浮島 (4). 京都新聞 1981/4/28.
- 42) 田端英雄; 北村四郎; 村田源; 川那部浩哉; 遠藤彰 (1981) 現代の奇跡 深泥池 (31) 永遠の語り部 (上) - 学際研究の出発点に. 京都新聞 1981/6/16.
- 43) 田端英雄; 北村四郎; 村田源; 川那部浩哉; 遠藤彰 (1981) 現代の奇跡 深泥池 (31) 永遠の語り部 (下) - '市民直結' の保護政策を. 京都新聞 1981/6/17.
- 44) 田端英雄; 藤田昇ほか (1982) 京都府現存植生図. 環境庁.
- 45) 田端英雄; 村田源; 岡川長郎 (1983) 京都府歴史的な自然環境保全地域候補地 (大江町岩戸山) 指定前調査報告書. 京都府.
- 46) 田端英雄 (1983) ヒマラヤの里びと 秘境西ネパ - ル (1) カルナリ県ジウムラ. 京都新聞 1983/8/2.
- 47) 田端英雄 (1983) ヒマラヤの里びと 秘境西ネパ - ル (2) ジウムラバザ - ル. 京都新聞 1983/8/3.
- 48) 田端英雄 (1983) ヒマラヤの里びと 秘境西ネパ - ル (3) 埋もれる遺跡. 京都新聞 1983/8/4.
- 49) 田端英雄 (1983) ヒマラヤの里びと 秘境西ネパ - ル (4) ジウムラの稲作. 京都新聞 1983/8/5.

- 50) 田端英雄 (1983) ヒマラヤの里びと 秘境西ネパ - ル (5) ライズマオの歌 - 田植え時に豊作と多産祈る. 京都新聞 1983/8/9.
- 51) 田端英雄 (1983) ヒマラヤの里びと 秘境西ネパ - ル (6) チョウダビスの人々 (1). 京都新聞 1983/8/10.
- 52) 田端英雄 (1983) ヒマラヤの里びと 秘境西ネパ - ル (7) チョウダビスの人々 (2). 京都新聞 1983/8/18.
- 53) 田端英雄 (1983) ヒマラヤの里びと 秘境西ネパ - ル (8) チョウダビスの人々 (3). 京都新聞 1983/8/19.
- 54) 田端英雄 (1983) ヒマラヤの里びと 秘境西ネパ - ル (9) チョウダビスの人々 (4). 京都新聞 1983/8/23.
- 55) 田端英雄 (1983) ヒマラヤの里びと 秘境西ネパ - ル (10) 外国人ボランティア. 京都新聞 1983/8/24.
- 56) 田端英雄 (1983) ヒマラヤの里びと 秘境西ネパ - ル (11) 新しいジユムラの顔. 京都新聞 1983/8/25.
- 57) 田端英雄 (1983) ヒマラヤの里びと 秘境西ネパ - ル (12) 普及しない学校教育. 京都新聞 1983/8/26.
- 58) 田端英雄 (1983) ヒマラヤの里びと 秘境西ネパ - ル (13) 牛を追う子供たち. 京都新聞 1983/8/31.
- 59) 田端英雄 (1983) ヒマラヤの里びと 秘境西ネパ - ル (14) ヒマラヤスギの古里. 京都新聞 1983/9/1.
- 60) 田端英雄 (1983) ヒマラヤの里びと 秘境西ネパ - ル (15) ナゾにつつまれた湖 - 期待深まる集水域の植生調査. 京都新聞 1983/9/2.
- 61) 氏原輝男; 田端英雄; 土屋和三 (1984) 西ネパ - ル山岳地域における普通ソバの収集及び主要特性について. 日本育種学雑誌 34: 311-312.
- 62) 田端英雄; 村田源; 岡川長郎 (1984) 同志社田辺校地の植生と植物相. 54 pp. 同志社大学, 京都.
- 63) 田端英雄 (1984) 西ネパ - ル・チョウダビスの谷 謎の谷に住む人々. アサヒグラフ 1984/6/29: 62-68.
- 64) 田端英雄; 藤田昇ほか (1985) 京都府現存植生図. 環境庁.
- 65) Shimizu, Y.; Tabata, H. (1985) Invasion of *Pinus lutchuensis* and its influence on the native forest on a Pacific island. *J. Biogeogr.* 12: 195-207.
- 66) 田端英雄 (1985) 航空写真の判読による深泥池の変遷. In: 深泥池浮島高層湿原の再生と遷移機構の生態学的解析 (文部省科学研究費研究成果報告書). pp. 43-45.
- 67) 田端英雄 (1985) ネパ - ルの植物 (1) - 亜熱帯の植物 -. 大塚薬報 387: 31-37.
- 68) 田端英雄 (1985) ネパ - ルの植物 (2) - 暖帯の植物 -. 大塚薬報 388: 31-37.

- 69) 田端英雄 (1985) ネパ - ルの植物 (3) - 温帯の植物 - . 大塚薬報 389: 31-37.
- 70) 田端英雄 (1985) ネパ - ルの植物 (4) - 高山と乾燥地帯の植物 - . 大塚薬報 390: 31-37.
- 71) 安田喜憲; 田端英雄ほか (1986) 森林の荒廃が文明の盛衰に及ぼす影響の比較生態史的研究.  
In: 日産科学振興財団研究報告書. pp. 13-32.
- 72) Tabata, H. (1986) Geology and vegetation of Kathmandu Valley. Bull. Dept. Med.  
Plants Nepal 11: 960-961.
- 73) 田端英雄 (1986) 牧野さんの挿画のことなど. In: 牧野四子吉生物画集. pp. 154-156. 講談社.
- 74) 安田喜憲; 田端英雄 (1987) ヒマラヤ地域の気候変動 - ララ湖の花粉分析から - . 地球 9: 691-695.
- 75) Igarashi, Y.; Yoshida, M.; Tabata, H. (1988) History of vegetation and climate in the Kathmandu Valley. Proc. Indian natn. Sci. Acad. 54: 530-537.
- 76) Tabata, H.; Tuchiya, K.; Shimizu, Y.; Fujita, N.; Matsui, K.; Koike, F.; Yumoto, T. (1988) Vegetation and climatic changes in Nepal Himalayas I. Vegetation and climate in Nepal Himalayas as the basis of palaeoecological studies. Proc. Indian natn. Sci. Acad. 54: 530-537.
- 77) Yasuda, Y.; Tabata, H. (1988) Vegetation and climatic changes in Nepal Himalayas II. A preliminary study of the Holocene vegetational history in the Lake Rara National Park Area. Proc. Indian natn. Sci. Acad. 54: 538-549.
- 78) 田端英雄; 小山博滋; 村田源; 藤田昇; 片山雅男 (1988) 特定植物群落調査報告書. 105 pp. 環境庁.
- 79) 田端英雄; 小山博滋; 村田源; 藤田昇; 片山雅男 (1988) 特定植物群落調査報告書 (生息状況調査). 125 pp. 環境庁.
- 80) 田端英雄 (1988) ヒマラヤ回廊について. 植物分類地理 39: 13-24.
- 81) Koike, F.; Tabata, H.; Malla, S. B. (1990) Canopy structures and its effect on shoot growth and flowering in subalpine forests. Vegetatio 86: 101-113.
- 82) 田端英雄 (1990) オオタカのすむ林を守ろう. I. 京都新聞「水曜ふぉうらむ」1990/10/10. [関西学園都市, オオタカ, 環境保全]
- 83) Shimizu, Y.; Tabata, H. (1991) Forest structure, composition and distribution on a Pacific Island with reference to ecological release and specification. Pacific Science 45: 28-49. [Bonin Islands, Forest structures, Vegetation, ecological release, speciation.]
- 84) 田端英雄 (1991) 許せぬ学研都市の里山破壊. 朝日新聞「論壇」1991/7/11. [関西学研都市, 里山, オオタカ, 自然保護, 開発]
- 85) 田端英雄 (1991) イヌセンブリが枯れる. 朝日新聞 1991/7/7. [関西学研都市, イヌセンブリ]

り, 保護, 粘土層, 水供給]

86) 田端英雄 (1991) 学研都市の理想像を模索. 京都新聞 1991/3/31. [関西学研都市, シンポジウム, 環境アセスメント, 住民参加, オオタカ]

TEZUKA, Yasuhiko 手塚泰彦

---

- 1) Tezuka, Y. (1958) On the relationship between plant growth and nitrogen supply under water culture conditions. Relations of plant communities to edaphic factors with special reference to mineral nutrition I. Bot. Mag. (Tokyo) 71: 181-186.
- 2) Tezuka, Y. (1959) The effects of phosphorus and calcium deficiency on the growth and dry matter production in *Chrysanthemum coronarium* var. *spatiosum* in water culture. Relations of plant communities to edaphic factors with special reference to mineral nutrition II. Bot. Mag. (Tokyo) 72: 101-107.
- 3) 北沢右三; 木村允; 手塚泰彦; 倉沢秀夫; 坂本充; 吉野みどり (1959) 大隅半島南部の植物生態学的研究. 資源研彙報 49: 19-36.
- 4) Tezuka, Y. (1960) The influence of nutrients on the growth of plant populations under different densities. Relations of plant communities to edaphic factors with special reference to mineral nutrition III. Bot. Mag. (Tokyo) 73: 7-13.
- 5) 手塚泰彦; 楠元司 (1960) 大隅半島南部の二次林について. 資源研彙報 52/53: 48-56.
- 6) Hogetsu, K.; Oshima, Y.; Midorikawa, B.; Tezuka, Y.; Sakamoto, M.; Mototani, I.; Kimura, M. (1960) Growth analytical studies on the artificial communities of *Helianthus tuberosus* with different densities. Jap. J. Bot. 17: 278-305.
- 7) Tezuka, Y. (1961) Development of vegetation in relation to soil formation in the volcanic island of Oshima, Izu, Japan. Jap. J. Bot. 17: 371-402.
- 8) 手塚泰彦 (共訳) (1961) 植物の生活. (ウエント・他, 著). 白楊社.
- 9) 手塚泰彦 (1962) し尿化学処理脱離液の活性汚泥法処理について. 用水と廃水 4(4): 55-60.
- 10) 小堀和夫; 本谷勲; 手塚泰彦 (1962) BOD試験法の意義と適用に関する研究 I 高温による短期間BOD試験法の検討. 水質汚濁研究 2: 20-27.
- 11) 手塚泰彦; 小堀和夫 (1962) 汚濁河川水の自浄作用に関する基礎的研究 I. 汚濁河川水の酸素消費と微生物との関係について. 水質汚濁研究 2: 119-132.
- 12) 倉沢秀夫; 手塚泰彦; 青山莞爾 (1962) 諏訪湖および流入, 流出河川のプランクトン (予報). 水質汚濁研究 2: 133-144.
- 13) 倉沢秀夫; 手塚泰彦; 小堀和夫; 青山莞爾 (1962) 印旛沼白井地区におけるプランクトンおよび

- 大型水生植物の生産量 I. 資源研彙報 58/59: 21-36.
- 14) 北村博; 手塚泰彦; 松橋正文; 板倉孝明 (1962) し尿化学処理脱離液の活性炭処理と活性汚泥法処理との組み合わせによる浄化. 用水と廃水 4(9): 31-36.
- 15) 倉沢秀夫; 手塚泰彦; 小堀和夫; 青山莞彙 (1963) 印旛沼臼井地区におけるプランクトンおよび大型水生植物の生産量 II. 資源研彙報 60: 76-87.
- 16) 手塚泰彦; 滝井進; 北村博 (1963) 汚濁河川水中の微生物群による有機物の嫌氣的分解 I. 有機酸醱酵と硫酸還元. 日生態誌 13: 188-196.
- 17) 手塚泰彦; 滝井進; 北村博 (1964) 汚濁河川水中の微生物群による有機物の嫌氣的分解 II. 乳酸醱酵と単離された乳酸生成菌の代謝. 日生態誌 14: 10-13.
- 18) 手塚泰彦 (1964) 汚濁河川水中の微生物群による有機物の嫌氣的分解 III. アミノ酸, 蛋白質およびその他数種の化合物からの脂肪酸生成. 日生態誌 14: 91-97.
- 19) 手塚泰彦 (1964) し尿中での有機酸醱酵について. 用水と廃水 6(4): 297-300.
- 20) Tezuka, Y. (1964) A sulfate-reducing bacterium which attacks L-serine. Bot. Mag. (Tokyo) 77: 66-67.
- 21) 手塚泰彦 (1964) 過硫酸塩酸化法による汚濁水中有機炭素の簡易定量法. 用水と廃水 6(11): 905-910.
- 22) Tezuka, Y. (1965) Physiological studies on a strain of sulfate-reducing bacterium, *Desulfovibrio desulfuricans*, isolated from polluted river-water. Bot. Mag. (Tokyo) 78: 1-7.
- 23) 手塚泰彦; 芹沢豊 (1965) 澱粉製造廃水の処理に関する若干の検討. 日水処理生物誌 2: 10-12.
- 24) 手塚泰彦 (共訳) (1965) 生態学原論 (G.L.クラ - ク, 著) 426 pp. 岩崎書店.
- 25) 倉沢秀夫; 青山莞爾; 手塚泰彦; 本谷勲; 小堀和夫; 沖野外輝夫 (1966) 沼沢沼の生態学的研究 I. 水質とプランクトンの生産量 (1). 資源研彙報 66: 34-46.
- 26) 倉沢秀夫; 青山莞爾; 手塚泰彦; 本谷勲; 小堀和夫; 沖野外輝夫 (1966) 日光丸沼の生態学的研究 I. 水質とプランクトンの生産量 (1). 資源研彙報 66: 47-57.
- 27) Tezuka, Y. (1966) A commensalism between the sulfate-reducing bacterium, *Desulfovibrio desulfuricans*, and other heterotrophic bacteria. Bot. Mag. (Tokyo) 79: 174-178.
- 28) 倉沢秀夫; 青山莞爾; 手塚泰彦; 本谷勲; 小堀和夫; 沖野外輝夫 (1966) 沼沢沼の生態学的研究 I. 水質とプランクトンの生産量 (2). 資源研彙報 67: 36-44.
- 29) 倉沢秀夫; 青山莞爾; 手塚泰彦; 本谷勲; 小堀和夫; 沖野外輝夫 (1966) 日光丸沼の生態学的研究 I. 水質とプランクトンの生産量 (2). 資源研彙報 67: 45-53.
- 30) 倉沢秀夫; 青山莞爾; 白石芳一; 手塚泰彦; 本谷勲; 小堀和夫; 沖野外輝夫 (1967) 日光菅沼の生

- 態学的研究Ⅰ. 水質とプランクトンの生産量(1). 資源研彙報 68: 62-77.
- 31) Tezuka, Y. (1967) Magnesium ion as a factor governing bacterial flocculation. *Appl. Microbiol.* 15: 1256.
- 32) 手塚泰彦; 沖野外輝夫; 磯部吉章 (1967) 屋外循環水路を用いた自浄作用の研究 - とくに付着生物量と浄化速度の関係について. *日水処理生物誌* 3(1): 15.
- 33) 倉沢秀夫; 青山莞爾; 白石芳一; 手塚泰彦; 本谷勲; 小堀和夫; 沖野外輝夫 (1967) 日光菅沼の生態学的研究Ⅰ. 水質とプランクトンの生産量(2). 資源研彙報 69: 76-86.
- 34) Tezuka, Y. (1968) A method for estimating bacterial respiration in natural water. *Jap. J. Ecol.* 18: 60-65.
- 35) 手塚泰彦 (1968) 活性汚泥細菌に関する研究 第1報. 活性汚泥中の細菌数およびフロック形成細菌の分布について. *日水処理生物誌* 4(1): 1-5.
- 36) Tezuka, Y. (1969) Cation-dependent flocculation in a *Flavobacterium* species predominant in activated sludge. *Appl. Microbiol.* 17: 222-226.
- 37) 陸水生物測定方法研究会, 編 (1969) 陸水生物生産研究法. 505 pp. 講談社.
- 38) Tezuka, Y. (1970) Distribution of heterotrophic bacteria and their possible role in the mineralization of organic matter in a mesotrophic lake, Yuno-ko. *Jap. J. Ecol.* 20: 151-158.
- 39) 手塚泰彦 (1971) 窒素の収支からみた日光 湯ノ湖の富栄養化に関する一考察. *日水処理生物誌* 7(1): 6-9.
- 40) Tezuka, Y. (1971) Feeding of *Daphnia* on planktonic bacteria. *Jap. J. Ecol.* 21: 127-134.
- 41) 手塚泰彦 (1971) 活性汚泥における細菌の役割(総説). *バイオテク* 2: 677-682.
- 42) 宇井純, 編 (1971) 日本経済と水. 日本評論社.
- 43) Sorokin, r. I.; Kadota, H., ed. (1972) *IBP Handbook, No.23.* Blackwell Scientific Publications, Oxford.
- 44) 宝月欣二; 吉良竜夫; 岩城英夫, 編 (1972) 環境の科学. 日本放送出版協会.
- 45) 手塚泰彦 (1972) 環境汚染と生物II 生態学講座34. 71 pp. 共立出版.
- 46) Tezuka, Y. (1973) A zoogloea bacterium with gelatinous mucopolysaccharide matrix. *J. Wat. Poll. Contr. Fed.* 45: 531-536.
- 47) 手塚泰彦 (1973) 水界の有機汚染とその生態学的問題 - 多摩川の汚染を中心に -. *生物科学* 25: 6-11.
- 48) 手塚泰彦; 山県登, 共訳 (1973) 生物圏資源の利用と保全(ユネスコ). 丸善.
- 49) Tezuka, Y. (1974) An experimental study on the food chain among bacteria, *Paramecium* and *Daphnia*. *Int. Rev. ges. Hydrobiol.* 531-537.
- 50) Tezuka, Y.; Watanabe, Y.; Hayashi, H.; Fukunaga, S.; Aizaki, M. (1974) Changes in the

standing crop of sessile microbes caused by organic pollution of the Tamagawa River.  
Jap. J. Ecol. 24: 43-50.

- 51) 中島拓男; 手塚泰彦 (1974) 好氣的条件下の水体における脱窒素の可能性について. 陸水雑.  
35: 117-123.
- 52) 手塚泰彦 (1974) 河川の汚染. 141 pp. 築地書館.
- 53) 微生物生態研究会, 編 (1974) 微生物の生態. 1. 東大出版会.
- 54) 沼田真, 編 (1974) 生態学辞典. 519 pp. 築地書館.
- 55) Tezuka, Y.; Aizaki, M. (1975) Biomass and activity of sessile microbes in a polluted  
river. Proc. 1st Intern. Congr of IAMS 2: 499-506.
- 56) Tezuka, Y.; Hayashi, H. (1975) Responses of algae and bacteria to nutrient additions in  
bottled lake water. Jap. J. Limnol. 36: 131-138.
- 57) 日本生態学会環境問題専門委員会, 編 (1975) 環境と生物指標 (水界編). 310 pp. 共立出版
- 58) 手塚泰彦 (1976) 湖沼の富栄養化に関する最近の研究 - とくにSchindler一派の研究を中心に  
- (総説). 日水処理生物誌 12(1): 4-8.
- 59) 手塚泰彦訳 (1976) 微生物生態学入門 (T.フエンチェル; B.B. ヘミングセン, 著). 192 pp. 講  
談社.
- 60) Fukunaga, S.; Tezuka, Y. (1977) The characteristics of carbon sources utilization in the  
heterotrophic bacteria isolated from Lake Okutamako. Jap. J. Limnol. 38: 70-72.
- 61) Tezuka, Y. (1977) The effect of nutrient concentration on the standing crop of  
*Scenedesmus obliquus* grown under continuous culture condition. Jap. J. Limnol. 38:  
90-93.
- 62) 微生物生態研究会編 (1978) 微生物の生態. 5. 学会出版センター.
- 63) 手塚泰彦 (共訳) (1978) 微生物学 (上, 下) (スタニエ; エ - デルバ - ク; イングラム, 著). 培  
風館.
- 64) 日本海洋学会編 (1979) 海洋環境調査法. 666 pp. 恒星社厚生閣.
- 65) 前田秋一; 手塚泰彦 (1979) 相模湖の従属栄養細菌 - とくに植物プランクトンとの関係. 水道  
協会雑誌 536: 19-31.
- 66) Tezuka, Y. (1979) Distribution of sulfate-reducing bacteria and sulfides in aquatic  
sediments. Jap. J. Ecol. 29: 95-102.
- 67) Konda, T.; Tezuka, Y. (1979) Bacterial flora in the water and sediment of Lake  
Motosu-ko, an oligotrophic lake in central Japan. Jap. J. Ecol. 29: 209-220.
- 68) Konda, T.; Tezuka, Y. (1980) Physiological properties of aerobic heterotrophic bacteria  
isolated from the water and sediment of Lake Motosu-ko. Bull. Jap. Soc. Sci. Fish. 46:  
781.

- 69) 高橋甫; 斉藤日向; 手塚泰彦; 水島昭二; 山口英世, 共訳 (1980) (B): 微生物学 (入門編) (ス  
タニエ; エ - デルバ - ク; イングラム, 著) 444 pp. 培風館.
- 70) Suehiro, S.; Tezuka, Y. (1981) Seasonal change in ciliate populations in the bottom  
sediment of a polluted river. *Jap. J. Limnol.* 42: 1-7.
- 71) Tanaka, Y.; Tezuka, Y. (1982) Dynamics of detritus-attached and free-living bacteria  
during decomposition of *Phragmites communis* powder in seawater. *Jap. J. Ecol.* 32:  
151-158.
- 72) Tezuka, Y. (1982) Seasonal variation of dominant phytoplankton, chlorophyll a and  
nutrient levels in nearshore waters of the south basin of Lake Biwa. *Jap. J. Limnol.* 43:  
215-220.
- 73) Tezuka, Y.; Takii, S.; Watanabe, Y.; Nakajima, T.; Konda, T.; Tanaka, Y. (1982)  
Distribution of microorganisms in pools and peat of the Ozegahara moor. *Ozegahara:  
Scientific Researches of the Highmoor in Central Japan.* pp. 299-305.
- 74) Tezuka, Y. (1982) Distribution and activity of microbes. In: *Tasek Bera.* (ed. by  
Furtado, J.I.; Mori, S.). pp. 149-158. Dr W. Junk Publishers.
- 75) 半谷高久, 編 (1983) 水とつきあう. 化学同人.
- 76) Tezuka, Y. (1984) Seasonal variations of dominant phytoplankton, chlorophyll a and  
nutrient levels in the pelagic regions of Lake Biwa. *Jap. J. Limnol.* 45: 26-37.
- 77) Ibanez, M.S.R.; Nakanishi, M.; Tezuka, Y. (1984) The effect of nutrient enrichment on  
the natural phytoplankton community of Lake Biwa maintained in glass bottles. *Jap. J.  
Limnol.* 45: 231-239.
- 78) 手塚泰彦; 滝井進, 共訳 (1985) 微生物生態学 (R.キャンベル, 著). 228 pp. 培風館.
- 79) Tezuka, Y. (1985) Rainfall as a factor regulating the appearance of *Anabaena* bloom in the  
south basin of Lake Biwa. *Jpn. J. Limnol.* 46: 8-14.
- 80) Tezuka, Y. (1985) The number of nitrifying bacteria in the north basin of Lake Biwa.  
*Jpn. J. Limnol.* 46: 145-148.
- 81) Tezuka, Y. (1985) C:N:P ratios of seston in Lake Biwa as indicators of nutrient deficiency  
in phytoplankton and decomposition process of hypolimnetic particulate matter. *Jpn. J.  
Limnol.* 46: 239-246.
- 82) Tezuka, Y. (1986) Does the seston of Lake Biwa release dissolved inorganic nitrogen and  
phosphorus during aerobic decomposition?: Its implication for eutrophication. *Ecol.  
Res.* 1: 293-302.
- 83) 手塚泰彦; 渡辺泰徳; 渡辺真利代, 訳 (1987) 藻類の生理生態学 (W.M.ダ - リ -, 著). 199 pp.  
培風館.

- 84) Tezuka, Y. (1988) Phosphorus as a possible factor stimulating the appearance of Anabaena bloom in the south basin of Lake Biwa. Jpn. J. Limnol. 49: 201-204.
- 85) エコ・ミクロ, 編 (1988) 微生物の手帖. 講談社.
- 86) Tezuka, Y. (1989) The C:N:P ratio of phytoplankton determines the relative amounts of dissolved inorganic nitrogen and phosphorus released during aerobic decomposition. Hydrobiologia 173: 55-62.
- 87) Tezuka, Y. (1989) The C:N:P ratio of Microcystis and Anabaena (blue- green algae) and its importance for nutrient regeneration by aerobic decomposition. Jpn. J. Limnol. 50: 149-155.
- 88) 高橋甫; 斉藤日向; 手塚泰彦; 水島昭二; 山口英世, 共訳 (1989) 微生物学 (上・下) (スタニエ; イングラム; ウイ - リス; ペインタ -, 著). 培風館.
- 89) 日本微生物学会編 (1989) 微生物学辞典. 1405 pp. 技報堂出版.
- 90) Tezuka, Y. (1990) Bacterial regeneration of ammonium and phosphate as affected by the carbon: nitrogen: phosphorus ratio of organic substrates. Microb. Ecol. 19: 227-238.
- 91) 手塚泰彦; 中西正己 (1991) 琵琶湖の水質変動と植物プランクトンの関係. 環境科学総合研究所年報 10: 43-57.

WADA, Eitaro 和田英太郎 \_\_\_\_\_

- 1) Miyake, Y.; Wada, E. (1967) The abundance ratio of  $^{15}\text{N}/^{14}\text{N}$  in marine environments. Records of Oceanographic Works in Japan 9: 37-53. [marine,  $^{15}\text{N}/^{14}\text{N}$ ,  $^{15}\text{N}$ ,  $\text{N}_2$ ,  $\text{NO}_3^-$ , biogenic matter]
- 2) Miyake, Y.; Wada, E. (1968) The nitrogen cycle in the sea. Records of Oceanographic Works in Japan 9: 197-208. [ammonia, nitrite, nitrate]
- 3) 和田英太郎 (1969) 海洋水中における窒素サイクル. うみ 7: 74-84. [アンモニア, 硝酸, 有光層]
- 4) Hattori, A.; Wada, E. (1970) A note on denitrification in the Central Pacific Ocean. In: Proceedings of the second symposium on nitrogen fixation and nitrogen cycle. (ed. by H. Takahashi (Record of activities of JIBP/PP - Nitrogen)). pp. 127-130. [denitrification, nitrate, A.O.U.]
- 5) Hattori, A.; Wada, E.; Koike, I. (1970) Denitrification in a brackish lake. Proceedings of the second symposium on nitrogen fixation and nitrogen cycle: 121-126. [Lake Hamana, denitrification]

- 6) 和田英太郎; 辻堯; 小池勳夫; 服部明彦 (1970) 浜名湖における窒素代謝. In: 水産土木. pp. 1-10. [湖, 無機態窒素]
- 7) Miyake, Y.; Wada, E. (1971) The isotope effects on the nitrogen in biochemical oxidation-reduction reactions. Records of Oceanographic Works in Japan 11: 1-6. [nitrification, denitrification, isotope effect of nitrogen]
- 8) Hattori, A.; Wada, E. (1971) Nitrite distribution and its regulating processes in the equatorial Pacific Ocean. Deep-Sea Res. 18: 557-568. [nitrate, nitrite maximum]
- 9) Wada, E.; Hattori, A. (1971) Spectrophotometric determination of traces of nitrite by concentration of azo dye on an anion-exchange resin, application to sea waters. Anal. Chim. Acta 56: 233-240. [nitrite, azo dye, exchange resin]
- 10) Wada, E.; Hattori, A. (1971) Nitrite metabolism in the euphotic layer of the central North Pacific Ocean. Limnol. Oceanogr. 16: 766-772. [nitrite maximum, euphotic zone]
- 11) Hattori, A.; Wada, E. (1972) Assimilation of inorganic nitrogen in the euphotic layer of the North Pacific Ocean. In Y. Takenouch (ed. in chief), Biological Oceanography of the North Pacific Ocean, Prof. Motoda's. Commemoration Volume: 279-287. [uptake,  $^{15}\text{N}$ , inorganic nitrogen, North Pacific]
- 12) Wada, E.; Hattori, A. (1972) Nitrite distribution and nitrate reduction in deep sea waters. Deep-Sea Res. 19: 123-132. [nitrite, nitrite maximum, deep sea]
- 13) Koike, I.; Wada, E.; Tsuji, T.; Hattori, A. (1972) Studies on denitrification in a brackish lake. Archiv. Hydrobiologie 69: 508-520.
- 14) Miyazaki, T.; Wada, E.; Hattori, A. (1973) Capacities of shallow waters of Sagami Bay for oxidation-reduction of inorganic nitrogen. Deep-Sea Res. 20: 571-577. [nitrite, nitrite maximum, nitrification, assimilation]
- 15) Hattori, A.; Wada, E. (1973) Biogeochemical cycle of inorganic nitrogen in marine environments with special reference to nitrite metabolism. Proceedings of 1970 IAGG Symposium on Hydrogeochemistry and Biogeochemistry 2: 28-39. [nitrite, nitrate, ammonium, uptake, oxidation-reduction]
- 16) Hattori, A.; Wada, E. (1973) Assimilation and oxidation-reduction of inorganic nitrogen in the North Pacific Ocean. Oceanography of the Bering Sea.: 149-162. [ammonium, nitrate, uptake, nitrification, denitrification]
- 17) 和田英太郎 (1973) 海洋における無機窒素の代謝の研究. 日本海洋学会誌 29: 163-169. [アンモニア, 硝酸, 亜硝酸, トリコデスミウム,  $\text{N}_2$  fixation,  $\text{IO}_3^-$ , ]
- 18) Wada, E.; Koike I.; Hattori, A. (1973) Nitrate metabolism in abyssal waters. Mar.

- Biology 29: 119-124. [deep-sea, incubation, nitrate reduction]
- 19) 和田英太郎 (1973) 海洋での無機窒素代謝. In: 海洋科学. pp. 17-23. 海洋出版株式会社.  
[アンモニア, 亜硝酸, 硝酸, 有光層]
- 20) 和田英太郎 (1973) 圧力・温度が生物活動におよぼす影響. In: 海洋生化学 (海洋科学基礎講座11). pp. 267-284. 東海大学出版会. [生物, 海洋, 圧力, 温度]
- 21) 和田英太郎 (1973) エネルギー - 代謝からみた分解過程. In: 海洋生化学 (海洋学講座7). pp. 149-159. 東京大学出版会. [海洋, 分解, エネルギー - 代謝]
- 22) Seki, H.; Wada, E.; Koike, I.; Hattori, A. (1974) Evidence of high organotrophic potentiality of bacteria in the deep Ocean. Marine Biology 26: 1-4. [deep-sea, pressure, bacterial growth]
- 23) Miyazaki, T.; Wada, E.; Hattori, A. (1975) Nitrite production from ammonia and nitrate in the euphotic layer of the western North Pacific Ocean. Marine Science Communications 1: 381-394. [nitrite, nitrification, nitrate reduction]
- 24) Wada, E.; Kadonaga, T.; Matsuo, S. (1975)  $^{15}\text{N}$  abundance in nitrogen of naturally occurring substances and global assessment of denitrification from isotopic viewpoint. Geochim. J. 9: 139-148. [ $^{15}\text{N}$ , natural abundance, isotope mass balance]
- 25) Hattori, A.; Wada, E. (1975) Inorganic nitrogen metabolism in coastal and oceanic waters of the Pacific. In: JIBP Synthesis. (ed. by Takahashi, H., In Nitrogen fixation and nitrogen cycle.). pp. 155-161. [ammonia, nitrate, ocean]
- 26) 和田英太郎; 服部明彦; 宮崎龍雄 (1975) 東シナ海・台湾東方海域における Trichodesmium 集落の無機態窒素代謝について. 文部省総合研究, 海洋浮遊性藍藻およびこれを中心とする生態系の総合的研究・研究業績報告集: 56-61.
- 27) 和田英太郎; 蓮本浩志 (1975) 藍藻 Trichodesmium のコロニー - のアンモニア取り込み活性. ibid: 62-64.
- 28) Wada, E.; Hattori, A. (1976) Natural abundance of  $^{15}\text{N}$  in particulate organic matter in the North Pacific Ocean. Geochim. Cosmochim. Acta 40: 249-251. [ $^{15}\text{N}/^{14}\text{N}$ ,  $^{15}\text{N}$ , Phytoplankton, Pacific Ocean]
- 29) 和田英太郎 (1976) 安定同位元素のトレーサー - 利用(Ⅰ)質量分析法による $^{15}\text{N}$ の測定と利用(Ⅰ). Radioisotopes 25: 79-89. [ $^{15}\text{N}$  トレーサー, 測定法]
- 30) 和田英太郎 (1976) 安定同位元素のトレーサー - 利用(Ⅱ)質量分析法による $^{15}\text{N}$ の測定と利用(Ⅱ)各種窒素化合物中の $^{15}\text{N}$ 測定と応用例を中心として. Radioisotopes 25: 68-79. [窒素同位体比, 測定法]
- 31) Wada, E.; Tsuji, T.; Saino, T.; Hattori, A. (1977) A simple procedure for mass spectrometric microanalysis of  $^{15}\text{N}$  in particulate organic matter with special reference

- to 15N-tracer experiments. *Anal. Biochem.* 80: 312-318. [biological sample, combustion, 15N]
- 32) Wada, E. (1977) Nitrite and nitrate distribution in the surface water of oligotrophic areas of the East China Sea and Philippine Sea off Taiwan. *Mar. Sci. Communications* 3: 279-286. [nitrate, concentration, surface seawater, nitrate]
- 33) 和田英太郎; 上原洋一 (1977) 自然界における脱窒過程. *化学と生物* 15: 98-110. [脱窒, 生物界]
- 34) 和田英太郎 (1977) 岩圏, 水圏, 生物圏におけ窒素酸化合物の分布. In: 窒素酸化物. pp. 35;64-55;68. 日本化学会. [窒素酸化物, 分布, 自然界]
- 35) Wada, E.; Hattori, A. (1978) Nitrogen isotope effects in the assimilation of inorganic nitrogenous compounds by marine diatoms. *Geomicrobiology J.* 1: 89-106. [isotope effect, diatom, nitrate, assimilation]
- 36) 和田英太郎 (1979) 微量重窒素含量の測定. In: 重窒素利用研究法. pp. 65-76. 学会出版センター. [15N, 微量, 測定法]
- 37) 和田英太郎; 辻堯; 南川雅男; 荻井美紀江; 柴田勲子 (1979) 水田における水質化学. 文部省環境科学特別研究, 農地生態学, 研究報告書 B35-R12-2: 15-18.
- 38) 和田英太郎 (1979) 自然界における窒素循環と窒素同位体効果. 文部省環境科学特別研究検討班, 窒素・リンの生物地球化学的循環, 報告書 S-05: 19-20.
- 39) Wada, E. (1980) Nitrogen isotope fractionation and its significance in biogeochemical processes occurring in marine environments. *Isotope Marine Chemistry*: 211-234. [15N, biota, marine]
- 40) Miyazaki, T.; Wada, E.; Hattori, A. (1980) Nitrogen-isotope fractionation in the nitrate respiration by the marine bacterium *Serratia marino*rubra. *Geomicrobiology J.* 2: 115-126. [Nitrate, reduction, isotope effect, anaerobic]
- 41) 和田英太郎; 中村孝一 (1980) 土壌中の窒素・炭素同位体組成 - 有機物の続成過程に関連して. *地球化学* 14: 7-15. [15N, 13C, 有機物]
- 42) 和田英太郎; 辻堯; 南川雅男; 荻井美紀江; 柴田勲子 (1980) 水田における水質化学. 文部省環境科学特別研究, 農地生態学, 研究報告書.
- 43) Wada, E.; Shibata, R; Torii, T. (1981) 15N abundance in Antarctica : Origin of soil nitrogen and ecological implications. *Nature* 292: 327-329. [15N, nitrate, algae, Antarctica]
- 44) 和田英太郎 (1981) 窒素同位体比よりみた東部熱帯太平洋における窒素代謝の特性. *海洋科学* 8: 522-529. [脱窒, 東部熱帯太平洋, 同位体]
- 45) 和田英太郎; 辻堯; 南川雅男; 荻井美紀江; 柴田勲子 (1981) 水田における水質化学. 文部省環

境科学特別研究, 農地生態学, 研究報告書.

- 46) Mizutani, H.; Wada, E. (1982) Effect of high atmospheric CO<sub>2</sub> concentration on <sup>13</sup>C of algae - a possible cause for the average depletion of <sup>13</sup>C in Precambrian reduced carbon. *Origin of Life* 12: 377-390. [P CO<sub>2</sub>, carbon isotope effect, assimilation, blue-green algae]
- 47) 木島宣明; 和田英太郎; 垣内信子 (1982) 質量分析法による安定同位体自然存在比の測定とその利用. *Radioisotopes* 31: 58-67. [水素, 炭素, 窒素, 同位体比, 測定法]
- 48) 和田英太郎 (1982) RI 農学・生物学利用文献集 (33): 植物の炭素同位体分別. *Radioisotopes* 31: 89. [植物, 炭素同位体]
- 49) 中谷周; 鳥居鉄也; 長連英; 和田英太郎; 松本源喜 (1982) 1980-1981年ドライバレ - 地域調査報告. *南極資料* 74: 324-329.
- 50) Saino, T.; Ootobe, H.; Wada, E.; Hattori, A. (1983) Subsurface ammonium maximum in the northern North Pacific and the Bering Sea in summer. *Deep-Sea Res.* 30: 1157-1171. [ammonia, euphotic layer, ocean]
- 51) Wada, E. (1983) Use of stable isotopes in environmental biology and agricultural sciences with emphasis on current method of <sup>15</sup>N analysis in Japan. *Proceedings of JAIF (Japan) - GKAE (USSR) Seminar on Isotopes and Radiation.* [soybean, N<sub>2</sub> fixation, <sup>15</sup>N tracer, natural <sup>15</sup>N abundance]
- 52) 和田英太郎; 南川雅男 (1983) 海洋の食物連鎖と窒素同位体分別. *Tracer* 8: 2-12. [食物連鎖, <sup>15</sup>N]
- 53) 和田英太郎; 辻堯; 南川雅男; 水谷広; 今泉勸子; 柄沢亨子 (1983) 大槌川水系における有機物輸送の研究 - 生物地球化学的モデル場の確立. *Otsuchi Mar. Res. Cent. Rep.* 9: 17-34. [集水域, 湾, 窒素, 炭素, 同位体]
- 54) 木島宣明; 和田英太郎; 垣内信子 (1983) ライフサイエンスのための安定同位体利用技術. 質量分析法による安定同位体自然存在比の測定とその利用: 13-22. [測定法, 生物, 同位体]
- 55) 和田英太郎 (1983) 自然界における無機態窒素代謝と窒素同位体効果. 文部省環境科学特別研究, 自然界における窒素とリンの循環, 研究報告集 B-188-R16-1,3: 82-83.
- 56) 和田英太郎 (1983) 脱窒における窒素同位体効果. 文部省環境科学特別研究物質循環, 硝化脱窒研究班, 陸域および水域における硝化脱窒課程が人間生存環境に及ぼす影響, 研究報告集 B-189-R16-1: 107-113.
- 57) 金森哲夫; 斉藤元也; 西宗昭; 和田英太郎; 安田環 (1983) 圃場条件におけるダイズの窒素固定量推定法の検討. 農林水産技術会議, グリ - ンエナジ - 計画成果シリ - ズII系 No.1, ダイズの光合成と窒素代謝の相互作用: 63-80.
- 58) Wada, E.; Imaizumi, R.; Takai, Y. (1984) Natural abundance of <sup>15</sup>N in soil organic

- matter with special reference to paddy soils in Japan : Biogeochemical implications on the nitrogen cycle. *Geochem. J.* 18: 109-123. [soil, organic matter,  $^{15}\text{N}$ ]
- 59) Wada, E.; Imaizumi, R.; Nakaya, S.; Torii, T. (1984)  $^{15}\text{N}$  abundance in the Dry Valley Area, South Victoria Land, Antarctica : Ecophysiological implications of microorganisms. *Mem. Natl. Inst. Polar Res. Spe. Issue* 32: 130-139. [  $^{15}\text{N}$ , saline pond, epibenthic algae]
- 60) Yoshida, N.; Hattori, A.; Saino, T.; Matsuo, S.; Wada, E. (1984)  $^{15}\text{N}/^{14}\text{N}$  ratio of dissolved  $\text{N}_2\text{O}$  in the eastern tropical Pacific Ocean. *Nature* 307: 442-444. [Nitrous oxide,  $^{15}\text{N}$ , nitrification, denitrification]
- 61) Minagawa, M.; Wada, E. (1984) Stepwise enrichment of  $^{15}\text{N}$  along food chains : Further evidence and the relation between  $^{15}\text{N}$  and animal age. *Geochim. Cosmochim. Acta* 48: 1135-1140. [  $^{15}\text{N}$ , food chain, feeding process, enrichment]
- 62) 和田英太郎 (1984) 生物による窒素の炭素同位体比の変動 - 有機地球化学への応用. *Res. Org. Geochem.* 4: 47-51. [生物, 窒素, 炭素, 同位体]
- 63) 中村孝一; 和田英太郎; 高井康雄 (1984) 水田生態系構成成分の質量分析計による炭素同位体比測定法. *日本土壤肥科学雑誌* 55: 151-159. [炭素, 同位体, 測定法]
- 64) 和田英太郎 (1984) 暖水塊における硝酸・亜硝酸の分布構造と動態. *海洋科学* 16: 451-456. [亜硝酸, 渦流, 黒潮]
- 65) 和田英太郎 (1984) 生物による炭素・窒素同位体比の変動 - 海洋への応用. *海洋科学* 16: 117-123. [窒素, 炭素, 同位体, 海洋]
- 66) 和田英太郎, 共著 (1984) 海のはなし. 技報堂出版株式会社. [海, 比ッス]
- 67) Mizutani, H.; Wada, E. (1985) Combustion of organic samples by infrared furnace for carbon isotope analysis. *Analytical Biochemistry* 146: 90-95. [biological sample, combustion, mass spectrometric analysis,  $^{13}\text{C}$ ]
- 68) Mizutani, H.; Wada, E. (1985) High-performance liquid chromatographic determination of uric acid in soil. *Journal of chromatography* 331: 359-369. [uric acid, separation,  $^{15}\text{N}$ ]
- 69) Mizutani, H.; Kabaya, Y.; Wada, E. (1985) High-performance liquid chromatographic isolation of uric acid from soil for isotopic determination. *Journal of Chromatography*: 331-381. [uric acid, separation,  $^{15}\text{N}$ ]
- 70) Mizutani, H.; Wada, E. (1985) Ammonia volatilization and high  $^{15}\text{N}/^{14}\text{N}$  ratio in a penguin rookery in Antarctica. *Geochemical Journal* 19: 323-327. [  $^{15}\text{N}$ , ammonia volatilization, enrichment of  $^{15}\text{N}$ , rookery]
- 71) 和田英太郎; 水谷広; 柄沢亨子; 蒲谷裕子; 南川雅男; 米本昌平; 辻堯 (1985) 大槌水系における

- 有機物の挙動 - 炭素・窒素同位体比からの評価. 地球化学 18: 89-98. [水系, 有機物, 輸送, 同位体]
- 72) 南川雅男; 和田英太郎 (1985) 動植物における H, C, N, O 同位体の分布とその生物地球化学的意味. 地球化学 19: 39-52. [動物, 植物, 同位体]
- 73) 和田英太郎 (1985) 微生物による窒素・炭素同位体分別. In: 微生物の生態. pp. 57-77. 学会出版センター. [微生物, 代謝, 同位体効果]
- 74) 和田英太郎 (1985) 生物地球化学から地球生命科学へ. In: 蛋白質・核酸・酵素. pp. 910-915. [生物地球化学, 地球生命科学]
- 75) 安藤喬志; 和田英太郎 (1985) 沈黙の同位体は何を語るか. In: 化学. pp. 633-639. [同位体, 自然存在比]
- 76) 和田英太郎 (1985) 安定同位体からみた陸起源物質の沿岸海域への移行過程. 文部省環境科学特別研究, 陸起源物質の沿岸海域への移行課程の評価 I, 研究報告集 B249-R14-3: 40-47.
- 77) Mizutani, H.; Hasegawa, H.; Wada, E. (1986) High nitrogen isotope ratio for soils of seabird rookeries. Biogeochemistry 2: 221-247. [high  $^{15}\text{N}$ , seabird, ammonia, evaporation]
- 78) Wada, E.; Imaizumi, R.; Kabaya, Y.; Yasuda, T.; Kanamori, T.; Saito, G.; Nishimune, A. (1986) Estimation of symbiotically fixed nitrogen in field grown soybeans: An application of natural  $^{15}\text{N}$  abundance and a low level  $^{15}\text{N}$ -tracer technique. Plant and Soil 93: 269-286. [soybean,  $^{15}\text{N}$  tracer,  $\text{N}_2$  fixation, three source model]
- 79) Wada, E.; Terazaki, M.; Kabaya, Y.; Nemoto, T. (1986)  $^{15}\text{N}$  and  $^{13}\text{C}$  abundances in the Antarctic Ocean with emphasis on biogeochemical structure of food web. Mem. Natl. Inst. Polar Res. Spe. Issue 40: 400-402. [ $^{15}\text{N}$ ,  $^{13}\text{C}$ , isotopic ecosystem]
- 80) Wada, E.; Mitamura, O.; Kabaya, Y.; Saijo, Y.; Tundisi, J.G. (1986)  $^{15}\text{N}$  and  $^{13}\text{C}$  abundances in Rio Doce Valley Lake System, Brazil. Proceedings of the Fifth Japan-Brazil Symposium on Science and Technology: 197-201. [ $^{15}\text{N}$ ,  $^{13}\text{C}$ , Lake in Brazil]
- 81) 和田英太郎 (1986) 生物関連分野における同位体効果 - 生物界における安定同位体分布の変動. Radioisotopes 35: 136-146. [生物, 同位体]
- 82) 和田英太郎 (1986) 自然界における藻類の窒素代謝. In: 藻類の生態. pp. 177-208. 内田老鶴圃. [藻類, 無機態窒素, 代謝, 水界]
- 83) 和田英太郎 (1986) 安定同位体からの評価. 文部省環境科学特別研究, 陸起源物質の沿岸海域への移行課程の評価II, 研究報告集 B284-R14-3: 74-82.
- 84) 和田英太郎; 栗原康 (1986) 蒲生干潟における食物網と物質の動態 - 安定同位体比からの評価. 文部省環境科学特別研究; 河口・沿岸域・水田生態系における環境機能の評価と制御に関する

- 研究; 研究報告書 B281-R12-1: 27-31.
- 85) 和田英太郎; 吉岡崇仁 (1986) 天然同位体比による生物相互作用系の解析. 文部省特別研究, メソコスムによる水域生物相互作用系の実験的解析, 研究報告集: 131-142.
- 86) 林秀剛; 和田英太郎; 吉岡崇仁; 花里孝幸; 山本鎔子; 菅野徳彦; 青山莞爾; 安田郁子; 大前裕美; 平林公男; 市川忠史; 寺沢恭子; 森正幸 (1986) ワカサギ投入実験Ⅰ. 概要と動植物プランクトン群衆への影響. 文部省特別研究, メソコスムによる水域生物相互作用系の実験的解析, 研究報告集: 99-108.
- 87) 和田英太郎; 吉岡崇仁; 林秀剛; 平林公男; 市川忠史 (1986) ワカサギ投入実験, 炭素・窒素同位体比について. 文部省特別研究, メソコスムによる水域生物相互作用系の実験的解析, 研究報告集: 109-111.
- 88) 吉岡崇仁; 和田英太郎; 竹内勝巳; 林秀剛 (1986) ワカサギの食性 - 安定同位体比からの評価. 文部省特別研究, メソコスムによる水域生物相互作用系の実験的解析, 研究報告集: 113-120.
- 89) 林秀剛; 和田英太郎; 吉岡崇仁; 伝田郁男; 大前裕美 (1986) シオミズツボウムシ (*Brachionus plicatilis*) によるワカサギの飼育 (予報). 文部省特別研究, メソコスムによる水域生物相互作用系の実験的解析, 研究報告集: 121-122.
- 90) Wada, E.; Terazaki, M.; Kabaya, Y.; Nemoto, T. (1987)  $^{15}\text{N}$  and  $^{13}\text{C}$  abundances in the Antarctic Ocean with emphasis on the biogeochemical structure of the food web. *Deep-Sea Res.* 34: 829-841. [ $^{15}\text{N}$ ,  $^{13}\text{C}$ , isotopic ecosystem,  $^{15}\text{N}$  enrichment, trophic effect]
- 91) Yamazaki, T.; Yoshida, N.; Wada, E.; Matsuo, S. (1987)  $\text{N}_2\text{O}$  reduction by *azotobacter vinelandii* with emphasis on kinetic nitrogen isotope effects. *Plant Cell Physiol.* 28: 263-322. [ $\text{N}_2$  fixation, bacteria, isotope effect]
- 92) Wada, E. (1987)  $^{15}\text{N}$  and  $^{13}\text{C}$  abundances in marine environments with emphasis on biogeochemical structure of food web. *Isotopen Praxis* 23 (9): 320-271. [ $^{15}\text{N}$ ,  $^{13}\text{C}$ , aquatic algae, watershed]
- 93) Wada, E.; Minagawa, M.; Mizutani, H.; Tsuji, T.; Imaizumi, R.; Karasawa, K. (1987) Biogeochemical studies on the transport of organic matter along the Otsuchi River watershed, Japan. *Estuarine Coastal and Shelf Science* 25: 321-336. [ $^{15}\text{N}$ ,  $^{13}\text{C}$ , two source model, watershed, bay sediment]
- 94) Wada, E. (1987)  $^{15}\text{N}$  and  $^{13}\text{C}$  abundances in marine environments with emphasis on biogeochemical structure of food web. *Proceedings of 4th Working Meeting on Isotopes in Nature, Leipzig*: 639-646. [estuary, antarctic ocean, food web]
- 95) 和田英太郎 (1987) 生物界における安定同位体の分布. 第18回日本アイソト - プ放射線総合会議報告文集: 603-609. [biosphere,  $^{15}\text{N}$ ,  $^{13}\text{C}$ ]

- 96) Mizutani, H.; Wada, E. (1988) Nitrogen and carbon isotope ratios in seabird rookeries and their ecological implicaitons. *Ecology* 69: 340-349. [ 15N, 13C, seabird]
- 97) Yoshioka, T.; Wada, E.; Saijo, Y. (1988) Analysis of lacustrine food web with natural carbon and nitrogen isotope ratios. *Ver. Internat. Verein. Limnol.* 23: 573-578. [ 15N, 13C, lake]
- 98) Yoshioka, T.; Wada, E.; Saijo, Y. (1988) Characterization of Lake Kizaki and Lake Suwa from isotopic viewpoints. *Jpn. J. Limnol.* 42: 168-175. [ 15N, 13C, sediment, lake]
- 99) 和田英太郎 (1988) 黒潮周辺海域における窒素の動態. *水産海洋研究会報* 52: 133-137. [黒潮, 無機態窒素]
- 100) 和田英太郎 (1988) 生物地球化学. In: 地球化学. (ed. by 半谷高久). pp. 121-159. 丸善株式会社. [生物, 地球化学]
- 101) 和田英太郎 (1988) 河口と海浜の環境特性 - 化学環境. In: 河口 - 沿岸域の生態学とエコテクノロジー -. (ed. by 栗原康). pp. 126-131. 東海大出版会. [河口域, 化学環境]
- 102) 和田英太郎 (1988) 化学構造から見た食物連鎖. In: 河口 - 沿岸域の生態学とエコテクノロジー -. (ed. by 栗原康). pp. 77-84. 東海大出版会. [同位体, 食物網, 河口域]
- 103) 和田英太郎 (1988) 環境保全の長期的課題, 生物地球科学の立場から. In: 環境情報科学. p. 48. [環境保全, 生物地球科学, 展望]
- 104) 林秀剛; 和田英太郎; 吉岡崇仁; 花里孝幸; 安田郁子; 山本鎔子; 菅野徳彦; 大前裕美; 平林公男; 市川忠史; 森正幸; 松原尚人; 小野知樹 (1988) ワカサギ投入実験Ⅰ. 概要と動植物プランクトン群衆への影響. 文部省特定研究, メソコスムによる水域生物総合作用系の実験的解析, 研究報告集: 164-177.
- 105) 和田英太郎; 吉岡崇仁; 林秀剛; 平林公男; 市川忠史 (1988) ワカサギ投入実験Ⅰ. 炭素・窒素同位体比からの評価. 文部省特定研究, メソコスムによる水域生物総合作用系の実験的解析, 研究報告集: 178-191.
- 106) 吉岡崇仁; 和田英太郎; 林秀剛; 竹内勝己; 高橋和志 (1988) 炭素・窒素安定同位体比による水域生物相互作用系の解析. 文部省特定研究, メソコスムによる水域生物総合作用系の実験的解析, 研究報告集: 192-210.
- 107) 和田英太郎 (1988-1990) 窒素安定同位体による N<sub>2</sub>O と CH<sub>4</sub> 発生源の評価. 重点領域研究, 人間 - 環境系研究報告集.
- 108) Yoshioka, T.; Hayashi, H.; Wada, E. (1989) Seasonal variations of carbon and nitrogen isotope ratios of plankton and sinking particles in Lake Kizaki. *The Jpn. J. Limnol.* 50: 313-320. [ 15N, 13C, settling particle, lake]
- 109) Yoshida, N.; Morimoto, N.; Hirano, M.; Koike, I.; Matsuo, S.; Wada, E.; Saino, T.;

- Hattori, A. (1989) Nitrification rates and  $^{15}\text{N}$  abundances of  $\text{N}_2\text{O}$  and  $\text{NO}_3^-$  in the western North Pacific. *Nature* 342: 895-897. [N<sub>2</sub>O, open ocean,  $^{15}\text{N}$ , denitrification]
- 110) 和田英太郎 (1989) 海洋の物質循環と海洋汚染. *MOL* 10月号: 40-45. [海洋, 汚染, 物質循環]
- 111) 和田英太郎 (1989) 生物活動と物質循環. In: 地球化学. (ed. by 松尾禎士). pp. 129-146. 講談社サイエンティフィック. [生物活動, 物質循環]
- 112) Takai, Y.; Wada, E. (1990) Methane formation in waterlogged paddy soils and its controlling factors. In: *Soils on a Warmer Earth*. (ed. by Scharpenseel, H.W.; Schomaker, M.; Ayoub, A.). pp. 101-107. Elsevier, Amsterdam. [CH<sub>4</sub>, paddy soil, redox condition]
- 113) Wada, E.; Kabaya, Y.; Tsuru, K.; Ishiwatari, R. (1990)  $^{13}\text{C}$  and  $^{15}\text{N}$  abundance of sedimentary organics in estuarine and coastal areas of Tokyo Bay. *Mass Spectroscopy* 38: 307-318. [  $^{15}\text{N}$ ,  $^{13}\text{C}$ , organic matter, estuary, Tokyo Bay]
- 114) Toda, H.; Wada, E. (1990) Use of  $^{15}\text{N}/^{14}\text{N}$  ratios to evaluate the food source of the mysid, *Neomysis intermedia* Czerniawsky, in an eutrophic lake in Japan. *Hydrobiologia* 194: 85-90. [mysid,  $^{15}\text{N}$ , feeding process, seasonal variation]
- 115) Kimura, T.; Ando, T.; Wada, E. (1990) A novel method for determining carbon-13 kinetic isotope effects from isotope ratio of whole molecules. *Bulletin of Shiga University of Medical Science* 1: 12-16. [isotope effect, organic reaction]
- 116) Takahashi, K.; Yoshioka, T.; Wada, E.; Sakamoto, M. (1990) Temporal variations in carbon isotope ratio of phytoplankton in an eutrophic lake. *Journal of Plankton Research* 12: 799-808. [  $^{13}\text{C}$ , bicarbonate, phytoplankton, lake]
- 117) Nakamura, K.; Takai, Y.; Wada, E. (1990) Carbon isotopes of soil gases and related organic matter in an agroecosystem with special reference to paddy field. In: *Geochemistry of Gaseous Elements and Compounds*. pp. 445-484. Theophrastus Publications, S.A., Athen, Greece. [  $^{13}\text{C}$ , paddy field, CH<sub>4</sub>]
- 118) 片瀬隆雄; 和田英太郎 (1990) 炭素及び窒素安定同位体比測定のためのアオコ中クロロフィル a の単離と諏訪湖に置けるそれらの変動. *分析化学* 39: 451-456. [藻類, クロロフィル, 炭素, 窒素同位体, 分析法]
- 119) 和田英太郎 (1990) 酸素のサイクル. *化学総説* 7: 233-240. [酸素, サイクル, 進化]
- 120) 吉田尚弘; 和田英太郎 (1990) 大気主成分と物質循環. *化学総説* 10: 46-61. [大気, 主成分]
- 121) Wada, E.; Mizutani, H.; Minagawa, M. (1991) The use of stable isotopes for food web analysis. *Critical Review in Food Science and Nutrition* 30: 361-371. [  $^{15}\text{N}$ ,  $^{13}\text{C}$ ,

food web analysis]

- 122) Mizutani, H.; Kabaya, Y.; Wada, E. (1991) Nitrogen and carbon isotope compositions relate linearly in cormorant tissues and its diet. *Isotopenpraxis*, Berlin 27: 166-168. [birds,  $^{15}\text{N}$ ,  $^{13}\text{C}$ , organ]
- 123) Sugisaki, H.; Terazaki, M.; Wada, E.; Nemoto, T. (1991) Food habits of a pelagic amphipod, *Themisto japonica* (Bovallius). *Mar. Biol.* 101: 241-244. [  $^{15}\text{N}$ ,  $^{13}\text{C}$ , feeding, zooplankton]
- 124) Mizutani, H.; Kabaya, Y.; Wada, E. (1991) Linear Correlation between latitude and soil  $^{15}\text{N}$ : Enrichment at seabird rookeries. *Naturwissenschaften* 78: 34-36. [  $^{15}\text{N}$ , ammonia, evaporation, island]
- 125) Wada, E. et al. (1991) Gas exchange in ecosystems: Framework and case studies. *Jpn. J. Limnol.* 52: 263-281. [biogenic gas, exchange, ecosystem]
- 126) Uzaki, M.; Mizutani, H.; Wada, E. (1991) The isotopic composition of methane in rice paddy soils in Japan. *Biogeochemistry* 13: 159-175. [ $\text{CH}_4$ ,  $^{13}\text{C}$ , seasonal variation, paddy field]
- 127) Takahashi, K.; Wada, E.; Sakamoto, M. (1991) Relationship between carbon isotope discrimination and the growth rate of green alga *Chlamydomonas reinhardi*. *Jpn. J. Limnol.* [  $^{13}\text{C}$ , growth rate, isotope effect]
- 128) Takahashi, K.; Wada, E.; Sakamoto, M. (1991) Carbon isotope ratios and uptake rates of carbon and nitrogen of size fractionated plankton assemblage in eutrophic Mikawa Bay, Japan. *Hydrobiologia* 120: 197-210. [ $^{14}\text{C}$ ,  $^{13}\text{C}$ , phytoplankton]
- 129) Sugimoto, A.; Xu Hong; Wada, E. (1991) Rapid and simple measurement of carbon isotope ratio of bubble methane using GC/C/IRMS. *Mass Spectroscopy* 39 (5): 261-266. [ $\text{CH}_4$ ,  $^{13}\text{C}$ , rapid measurement]
- 130) Wada, E.; Hattori, A. (1991) *Nitrogen in the Sea: Forms, Abundances & Rate Processes*. CRC Press, Florida, U.S.A. [nitrogen, sea, distribution,  $^{15}\text{N}$ ]
- 131) Wada, E.; Nakamura, K. (1991) Carbon isotopic studies on global methane production with emphasis on paddy field. *Proceeding of 5th Working Meeting on Isotopes in Nature*. [ $\text{CH}_4$ ,  $^{13}\text{C}$ , isotope mass balance]
- 132) Ueda, S.; Ogura, N.; Wada, E. (1991) Nitrogen stable isotope ratio of groundwater  $\text{N}_2\text{O}$ . *Geophysical Res. Letter* 18: 1449-1453. [ $\text{N}_2\text{O}$ ,  $^{15}\text{N}$ ]
- 133) 和田英太郎 (1991) 生物起源物質の窒素・炭素同位体組成について. 第20回日本アイソト - プ・放射線総会会議報告集 (印刷中). [生物, 同位体, メタン]
- 134) 和田英太郎 (1991) 環境科学におけるSIの利用. *Radioisotopes* 40: 82A. [メタン, 亜酸化

窒素]

- 135) 和田英太郎 (1991) 外洋域における物質循環. 月刊海洋 23 (12): 808-814. [深層水, 太平洋, 窒素, サング礁]
- 136) 上田真吾; Yoshinari, T.; 和田英太郎; 小倉紀雄 (1991) 窒素安定同位体から見た地下水中の N<sub>2</sub>Oの起源. 日化誌 5: 448-453. [N<sub>2</sub>O, 窒素同位体, 地下水]
- 137) 落合正宏; 和田英太郎 (1991) 陸水中の溶存ガスと有機物. ぶんせき 3: 198-204. [溶存ガス, 加圧フィル, 分析法, 陸水]
- 138) 和田英太郎 (1991) 安定同位体は海の指紋. In: 海と地球環境. (ed. by 日本海洋学会編). pp. 198-204. 東京大学出版会. [同位体, 海, 食物網]

YUMA, Masahide 遊磨正秀

---

- 1) 堀道雄; 遊磨正秀; 上田哲行; 遠藤彰; 伴浩治; 村上興正 (1978) ゲンジボタル成虫の野外個体群. インセクタリウム 15(6): 4-11. [清滝川]
- 2) 遊磨正秀 (1980) 机上の空論 - ホタルとカワニナ. ホタル情報交換 (全国ホタル研究会) 3: 7-8. [ゲンジボタル, 食う - 食われる関係]
- 3) Yuma, M. (1981) The body size variations of the climbing larvae of the firefly, *Luciola cruciata* (Coleoptera; Lampyridae). Jap. J. Ecol. 57: 66. [mature larvae, Kiyotaki R., seasonal changes]
- 4) Yuma, M.; Hori, M. (1981) Gregarious oviposition of *Luciola cruciata* Motschulsky (Coleoptera: Lampyridae). Physiol. Ecol. Japan 18: 93-112.
- 5) 遊磨正秀 (1981) ホタル. 京都民報 (京都の動物28).
- 6) 遊磨正秀 (1982) ゲンジボタルの上陸幼虫. インセクタリウム 19(5): 14-22. [蛹化行動, サイズ, 季節変化]
- 7) 遊磨正秀 (1982) ほたる.. In: 甲虫のくらし. (ed. by 日高敏隆). pp. 108-111. 小学館.
- 8) 遊磨正秀 (1982) 総説 カワニナ的生活様式. 第14回全国ホタル研究会大会要録: 11-14.
- 9) 遊磨正秀 (1982) ゲンジボタルの総羽化数推定法. ホタル情報交換 (全国ホタル研究会) 4: 19-24.
- 10) Yuma, M. (1984) Egg size and viability of the firefly *Luciola cruciata* (Coleoptera: Lampyridae). Kontyu 52: 615-629.
- 11) 遊磨正秀 (1984) ゲンジボタルの一生. In: 小動物の四季2 . 初夏. (ed. by 日高敏隆). pp. 91-97. 朝日新聞社.
- 12) 遊磨正秀; 小野健吉 (1985) ゲンジボタル成虫の発生消長と羽化数推定 - 琵琶湖疏水の場合 - .

横須賀市博物館研究報告 33: 1-11.

- 13) Yuma, M. (1986) Growth and size variations in the larvae of *Luciola cruciata* (Coleoptera: Lampyridae) in relation to the egg size.. *Physiol. Ecol. Japan* 23: 45-78.
- 14) 遊磨正秀 (1986) (書評) ホタルのコミュニケーション 大場信義著. *インセクトリウム* 23(9): 30-30.
- 15) 遊磨正秀 (1987) 人工水路のゲンジボタル成虫個体群. *遺伝* 41(3): 48-52.
- 16) Yuma, M. (1987) Diel changes in feeding activity of benthos feeding cichlid fishes in Lake Tanganyika. In: *Ecological and Limnological Study on Lake Tanganyika and its Adjacent Regions.* (ed. by Kawanabe, H.; Nagoshi, M.). pp. 18.
- 17) Yuma, M. (1987) Group foraging among the benthos feeding cichlid fishes in Lake Tanganyika. In: *Ecological and Limnological Study on Lake Tanganyika and its Adjacent Regions.* (ed. by Kawanabe, H.; Nagoshi, M.). pp. 19-21.
- 18) Gashagaza, M.; Nshombo, M.; Sato, T.; Yuma, M.; Nakai, K.; Abe, T. (1987) A preliminary survey on cichlid fishes in Lake Kivu. In: *Ecological and Limnological Study on Lake Tanganyika and its Adjacent Regions.* (ed. by Kawanabe, H.; Nagoshi, M.). pp. 45-47.
- 19) Nakai, K.; Yuma, M. (1987) Molluscan fauna in northwestern end of Lake Tanganyika. In: *Ecological and Limnological Study on Lake Tanganyika and its Adjacent Regions.* (ed. by Kawanabe, H.; Nagoshi, M.). pp. 64.
- 20) Yuma, M.; Nakai, K. (1987) Brood size and distribution among *Lavigeria* complex in Lake Tanganyika. In: *Ecological and Limnological Study on Lake Tanganyika and its Adjacent Regions.* (ed. by Kawanabe, H.; Nagoshi, M.). pp. 65.
- 21) Yuma, M. (1987) Foraging groups among benthos feeding cichlids at Mbemba in the northwestern part of Lake Tanganyika. In: *Ecological and Limnological Study on Lake Tanganyika and its Adjacent Regions.* (ed. by Kawanabe, H.; Nagoshi, M.). pp. 89-91.
- 22) Yuma, M. (1987) Capture-recapture analysis of a population of *Lavigeria paucisostata* (Mollusca: Thiaridae) in Lake Tanganyika. In: *Ecological and Limnological Study on Lake Tanganyika and its Adjacent Regions.* (ed. by Kawanabe, H.; Nagoshi, M.). pp. 123.
- 23) 遊磨正秀 (1988) ホタル. In: *京都の動物 II.* (ed. by 渋谷寿夫). pp. 144-148. 法律文化社 .
- 24) Sato, T.; Yuma, M.; Niimura, Y.; Nakai, K.; Abe, N.; Nishida, M.; Nshombo, M.; Gashagaza, M.M. (1988) Fish fauna around Ubwari peninsula. In: *Ecological and Limnological Study on Lake Tanganyika and its Adjacent Regions.* (ed. by Kawanabe, H.; Kwetuenda, M.K.). pp. 14-15.
- 25) Yuma, M. (1988) Community structure in sand dwelling cichlid fishes in Lake

- Tanganyika. In: Ecological and Limnological Study on Lake Tanganyika and its Adjacent Regions. (ed. by Kawanabe, H.; Kwetuenda, M.K.). pp. 35-36.
- 26) Mukirania, M.-s.; Mambona, B.; Gashagaza, M.; Yuma, M. (1988) Seasonal changes in size of pelagic fish in the northwestern part of Lake Tanganyika.. In: Ecological and Limnological Study on Lake Tanganyika and its Adjacent Regions. (ed. by Kawanabe, H.; Kwetuenda, M.K.). pp. 40-42.
- 27) Yuma, M.; Abe, N.; Mambona, B.; Mulimbwa, N.; Mukirania, M.-s. (1988) Length-weight relationship in *Stolothrissa tanganicae*, *Limnothrissa miodon* and *Lates stappersii*. In: Ecological and Limnological Study on Lake Tanganyika and its Adjacent Regions. (ed. by Kawanabe, H. Kwetuenda, M.K.). pp. 46-47.
- 28) Nakai, K.; Yuma, M. (1988) Molluscan fauna around Ubwari Peninsula. In: Ecological and Limnological Study on Lake Tanganyika and its Adjacent Regions. (ed. by Kawanabe, H.; Kwetuenda, M.K.). pp. 62-63.
- 29) Yuma, M. (1989) Community structure of benthos-feeding cichlid fishes in Lake Tanganyika. In: Ecological and Limnological Study on Lake Tanganyika and its Adjacent Regions. (ed. by Kawanabe, H.). pp. 39-39.
- 30) 遊磨正秀 (1989) (書評) 日本の水生昆虫 柴谷篤弘; 谷田一三編. Jpn. J. Ent. (昆虫) 57(4): 596-596.
- 31) 遊磨正秀 (1989) ホタル講座. In: 私たちのホタル. (ed. by 滋賀県琵琶湖研究所・水と文化研究会). pp. 5-6.
- 32) 遊磨正秀 (1989) ホタルカレンダー - からよみとれること. In: 私たちのホタル. (ed. by 滋賀県琵琶湖研究所・水と文化研究会). pp. 19-22.
- 33) 遊磨正秀 (1990) タンガニイカ湖における魚類の共存様式. 遺伝 44(6): 27-30.
- 34) 遊磨正秀 (1990) 熱帯の湖, タンガニイカ湖に潜る. 美しい自然 (滋賀県自然保護協会) 47: 14-17.
- 35) 遊磨正秀 ; 川那部浩哉 (1990) タンガニイカ湖魚類の資源・生態・自然保護. 京都大学アフリカ地域研究センタ - 年報 4: 18-19.
- 36) Yuma, M.; Hori, M. (1990) Seasonal and age-related changes in the behaviour of the Genji firefly, *Luciola cruciata* (Coleoptera, Lampyridae). Jap. J. Ent. 58: 863-870.
- 37) 遊磨正秀 (1991) ホタルの発生活消長と分布. In: 私たちのホタル. (ed. by 滋賀県琵琶湖研究所・水と文化研究会). pp. 13-26.
- 38) 遊磨正秀 (1991) ホタル講座. In: 私たちのホタル. (ed. by 滋賀県琵琶湖研究所・水と文化研究会). pp. 43-54.

## B. Research Students and Fellows 大学院生・研修員

HARAGUCHI, Akira 原口 昭

---

- 1) 原口 昭; 松井 淳; 藤田 昇 (1985) 深泥池の浮島・開水域・流入水の水質 深泥池浮島の再生と遷移機構の生態学的解析. 文部省科学研究費補助金 研究成果報告書: 1-11.
- 2) Hara, T.; Haraguchi, A. (1988) Phenotypic responses of plants to environmental conditions. In: Plant form and vegetation structure. (ed. by Werger, M.J.A.; van der Aart, P.J.M.; During, H.J.; Verhoeven, J.T.A.). pp. 147-151. SPB Publishing, The Hague, The Netherlands.
- 3) 原口 昭 (1988) 京の彩 深泥池. (写真提供). 毎日新聞マイきょ - と 1988/5/15.
- 4) 原口 昭 (1989) 深泥池の紹介記事. (写真提供) クオ - ク Vol. 6. 講談社.
- 5) 原口 昭 (1989) 太古を偲ぶ京都深泥池 一万年を生きてきた深泥池の自然. (写真提供・写真解説). ガ - デンライフ 9 (258): 48-57. 誠文堂新光社.
- 6) Haraguchi, A.; Matsui, K. (1990) Nutrient dynamics in a floating mat and pond system with special reference to its vegetation. *Ecological Research* 5(1): 63-79.
- 7) 原口 昭 (1991) ミツガシワ. (解説出演). In: NHK 花の自然誌 (1991年3月17日放映).
- 8) Haraguchi, A. (1991) Effect of flooding-drawdown cycle on vegetation in a system of floating peat mat and pond. *Ecological Research* 6 (3): 247-263.
- 9) 原口 昭 (1991) 深泥池浮島に生育するミツガシワ (*Menyanthes trifoliata* L.) の種子生産について. (Seed production of *Menyanthes trifoliata* L. in the floating mat in Mizorogaike Pond.) . 水草研究会会報 44: 15-21.
- 10) Haraguchi, A. (1991) Effects of water-table oscillation on redox property of peat in a floating mat. *J. Ecol.* 79: 1113-1121.

KATAYAMA, Masao 片山雅男

---

- 1) 田端英雄; 村田源; 藤田昇; 角野康郎; 土屋和三; 片山雅男; 忠津哲光 (1978) 京都府. In: 第2回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書. p. 154. 環境庁.
- 2) 片山雅男 (1982) 暖温帯二次林のフェノロジ - (I) コナラ林構成木本種の開舒と伸長. In: 第29回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 136.
- 3) 片山雅男; 清水善和; 土屋和三; 藤田昇 (1985) 深泥池浮島上における植生の主要構成種の種子発

- 芽特性. In: 深泥池浮島高層湿原の再生と遷移機構の生態学的解析 文部省科学研究費補助金 (一般研究B) 研究成果報告書. pp. 21-32.
- 4) 藤田昇; 片山雅男 (1985) 深泥池の水質とミスゴケ類の消長. In: 深泥池浮島高層湿原の再生と遷移機構の生態学的解析 文部省科学研究費補助金 (一般研究B) 研究成果報告書. pp. 15-20.
- 5) 片山雅男 (1985) クスノキ科におけるShootの形態と伸長・展葉様式について. In: 第32回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 214.
- 6) 田端英雄; 岡川長郎; 片山雅男; 横山卓雄 (1985) 大阪層群の土壌と植生. In: 第32回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 321.
- 7) 片山雅男 (1986) 暖温帯のフェノロジ - (II) 湿地林構成木本種の開舒・伸長と落葉について. In: 第33回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 14.
- 8) 田端英雄; 片山雅男; 岡川長郎 (1986) 輝緑凝灰岩と頁岩の上にみられる土壌と植生. In: 第33回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 55.
- 9) 藤田昇; 片山雅男; 原口昭; 松井淳; 土屋和三; 田端英雄 (1986) ミスゴケ類の消長からみた深泥池浮島の遷移と水質. In: 第33回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 66.
- 10) 田端英雄; 小山博滋; 村田源; 藤田昇; 片山雅男 (1988) 京都府. In: 第3回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書 追加調査・追跡調査. 環境庁.
- 11) 田端英雄; 小山博滋; 村田源; 藤田昇; 片山雅男 (1988) 京都府. In: 第3回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書 生育状況調査. 環境庁.
- 12) 片山雅男 (1988) コバノミツバツツジの発育過程の進行に伴うShootの伸長・展葉・落葉様式の変化. In: 第35回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 208.
- 13) 藤田昇; 片山雅男; 原口昭; 田中歩; 柴坂三根夫; 辻英夫 (1989) 京都市深泥池浮島高層湿原の植物流理・生態学的研究. In: 日本生命財団研究助成金 (自然保護) 研究報告書. pp. 1-31.
- 14) 片山雅男 (1989) 暖温帯二次林構成樹種の葉の生存様式について. In: 第36回 日本生態学会大会講演要旨集 シンポジウム『葉の生存期間』. p. 87.
- 15) 藤田昇; 片山雅男; 原口昭 (1989) 京都市深泥池浮島湿原の環境とその再生・遷移. In: 第36回 日本生態学会大会講演要旨集 シンポジウム『日本の湿原の遷移』. p. 136.
- 16) 藤田昇; 片山雅男; 八田修三 (1991) 京都市深泥池浮島高層湿原の再生と遷移. In: 第38回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 178.

MAKITA, Akifumi 蒔田明史

---

- 1) 蒔田明史 (1981) ネザサ実生個体群の動態. 京都大学大学院理学研究科修士論文. 87 pp. [ネ

- ザサ, 一斉開花, 成長, 地下茎, 有効節率]
- 2) 持田幸良; 牧田肇; 蒔田明史 (1981) 八甲田山北部のチシマザサ集団枯死. 日本生態学会東北地区会報 41: 18-19. [チシマザサ, 一斉開花, 開花地域, 発生実生密度]
  - 3) 蒔田明史 (1981) 一斉開花枯死後のネザサ群落の回復過程 I. 稈集団の構造. 第 28 回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 33. [ネザサ, 一斉開花, 実生, 出稈様式]
  - 4) 蒔田明史 (1982) 一斉開花枯死後のネザサ群落の回復過程 II. 地下部の構造. 第 29 回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 102. [ネザサ, 地下茎, 有効節率]
  - 5) 蒔田明史 (1983) ヨシがあつての琵琶湖のはずだが・・・環境破壊 4: 24-28. [ヨシ, 分布, 埋立面積]
  - 6) 藤田昇; 紺野康夫; 高田研一; 蒔田明史; 鈴木英治; 浜端悦治; 三原貴子; 仲和夫; 中静透 (1983) 比良山系のイブキザサの開花枯死と植生変化 II. 植生変化. 第 30 回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 86. [一斉開花, ササ原, 種数, 被度]
  - 7) 藤田昇; 紺野康夫; 高田研一; 蒔田明史; 鈴木英治; 浜端悦治; 三原貴子; 仲和夫; 中静透 (1983) 比良山系のイブキザサの開花枯死と植生変化 III. イブキザサ実生の定着と生長. 第 30 回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 87. [種子の被食, 稈密度, 初期成長]
  - 8) 蒔田明史; 牧田肇; 持田幸良 (1983) 八甲田山北部における一斉枯死後のチシマザサ群落の回復過程 I. 枯死状況. 第 30 回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 88. [一斉開花, 枯死域, 枯死稈の残存状況]
  - 9) 蒔田明史; 牧田肇; 持田幸良 (1983) 八甲田山北部における一斉枯死後のチシマザサ群落の回復過程 II. チシマザサの発芽と定着. 第 30 回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 89. [チシマザサ, 実生, 初期密度]
  - 10) 蒔田明史; 牧田肇 (1985) 八甲田山北部における一斉枯死後のチシマザサ群落の回復過程 III. 光環境の変化. 第 32 回 日本生態学会大会講演要旨集 p. 190. [相対照度, 一斉枯死, 成長]
  - 11) 蒔田明史; 牧田肇 (1986) 八甲田山北部における一斉枯死後のチシマザサ群落の回復過程 IV. チシマザサ実生の生長様式. 第 33 回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 123. [チシマザサ, 分枝様式]
  - 12) 蒔田明史; 牧田肇 (1986) 八甲田山北部における一斉枯死後のチシマザサ群落の回復過程 V. オオシラビソ実生・稚樹の動態. 第 33 回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 124. [ササ枯死地, オオシラビソ, 伸長量]
  - 13) 蒔田明史; 牧田肇 (1987) 八甲田山北部における一斉枯死後のチシマザサ群落の回復過程 VI. チシマザサの発育過程. 第 34 回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 105. [チシマザサ, 実生, 分枝様式, 発育段階]
  - 14) 蒔田明史; 牧田肇 (1987) 八甲田山北部における一斉枯死後のチシマザサ群落の回復過程 VII. オオシラビソ稚樹の伸長に対するチシマザサ枯死の影響. 第 34 回 日本生態学会大会講演

- 要旨集. p. 106. [オオシラビソ, ササの枯死, 伸長生長, 光条件]
- 15) 蒔田明史; 紺野康夫; 藤田昇; 高田研一; 浜端悦治; 三原貴子 (1988) 比良山系におけるイブキザサの一斉開花. *Bamboo Journal* 6: 14-21. [イブキザサ, 一斉開花, 開花地図, 開花時期]
- 16) 蒔田明史; 牧田肇 (1988) 八甲田山北部における一斉枯死後のチシマザサ群落の回復過程 VIII. チシマザサの成長と個体密度の経年変化. 第35回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 129. [チシマザサ, 個体密度, 3 / 2 剩則]
- 17) 蒔田明史; 牧田肇 (1988) 八甲田山北部における一斉枯死後のチシマザサ群落の回復過程 IX. 地表付近の植生の変化. 第35回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 130. [ササ枯死地, 種数, 被度]
- 18) 藤田昇; 紺野康夫; 高田研一; 蒔田明史; 浜端悦治; 三原貴子; 仲和夫; 中静透 (1988) 比良山系のイブキザサの開花枯死と植生変化 IV. 10年間の植生変化. 第35回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 131. [ササ枯死地, 植生変化, 被度]
- 19) 蒔田明史; 紺野康夫 (1989) 北海道野幌におけるクマイザサの部分開花について. 富士竹類植物園報告 33: 50-60. [クマイザサ, 部分開花, 結実率]
- 20) Makita, A (1990) Regeneration process after mass-flowering of monocarpic dwarf bamboos, *Sasa tsuboiana* and *S. kurilensis*. *Bamboo Journal* 8: 31-37. [*S. tsuboiana*, *S. kurilensis*, seedling, growth form]
- 21) Makita, A. (1990) Regeneration process after mass-flowering of monocarpic dwarf bamboos, *Sasa tsuboiana* and *S. kurilensis*. Abstracts of Vth INTECOL. p. 250. [*S. tsuboiana*, *S. kurilensis*, seedling, growth form]
- 22) 蒔田明史 (1991) チシマザサとイブキザサの生残過程の比較. 第38回 日本生態学会大会講演要旨集. p. 112. [チシマザサ, イブキザサ, 稈密度の調節機構, 生残過程]

MATSUBARA, Kenji 松原健司

---

- 1) 松原健司; 青山莞爾; 岩熊敏夫 (1986) 実験池における捕食者フサカと動物プランクトン群集の関係について. In: 第51回日本陸水学会講演要旨集. p. 64.
- 2) 松原健司; 岩淵聖; 青山莞爾; 杉森文夫; 黒田長久 (1987) 手賀沼の陸水学的特性とハシビロガモの採餌行動 I. In: 第52回日本陸水学会講演要旨集. p. 131.
- 3) 松原健司; 岩淵聖; 青山莞爾; 杉森文夫; 黒田長久 (1987) 手賀沼の陸水学的特性とハシビロガモの採餌行動 II. In: 第52回日本陸水学会講演要旨集. p. 132.
- 4) 杉森文夫; 松原健司; 岩淵聖 (1988) 手賀沼におけるハシビロガモ *Anas clypeata* の採餌行動と陸水学的環境との関係. In: 手賀沼1990年代の課題 - 鳥と人との共存 -. (ed. by 財団法人山

- 階鳥類研究所). pp. 49-68. 財団法人山階鳥類研究所. [手賀沼, ハシビロガモ, *Anas clypeata*, 富栄養化, 動物プランクトン, 採餌行動]
- 5) 松原健司; 中西正己 (1988) 琵琶湖南湖の動物プランクトンの水平分布と季節的消長. In: 第53回日本陸水学会講演要旨集. p. 57.
- 6) 杉森文夫; 松原健司; 岩淵聖 (1989) 手賀沼に飛来するカモ類の環境利用と水質汚濁の関係. 山階鳥類研究所研究報告 21: 234-244. [手賀沼; 過栄養湖; カモ類; 環境利用]
- 7) Nakanishi, M.; Mitamura, O.; Matsubara, T. (1990) Sestonic C : N : P ratios in the south basin of Lake Biwa with Special attention to nutritional state of phytoplankton. The Japanese Journal of Limnology 51: 185-189. [seasonal change, relative growth rate, phytoplankton, nutrient deficiency ]
- 8) Nakanishi, M.; Matsubara, T.; Mitamura, O.; Xavier, M. B. (1990) A comparison of phytoplankton community structure between different locations in the south basin of Lake Biwa. Memories of the Faculty of Science, Kyoto University (Series of Biology). pp. 1-11. [local difference, phytoplankton composition, species diversity, community similarity]
- 9) Matsubara, T. (1990) Feeding ecology of shoveler (*Anas clypeata*) in the hypertrophic lake Teganuma. In: Abstracts of V International Congress of Ecology. p. 361.
- 10) Matsubara, T. (1991) Habitat use pattern of ducks in the hypertrophic swamp Teganuma . In: Abstracts of Aquatic Birds '91; an International Symposium on Aquatic Birds in the Trophic Web of Lakes. p. 20.
- 11) 松原健司 (1991) プランクトン食のカモ (ハシビロガモ) の胃内容物. In: 第56回日本陸水学会講演要旨集. p. 65.

MATSUI, Kiyoshi 松井 淳

---

- 1) 土屋和三; 藤田昇; 田端英雄; 松井淳 (1981) 深泥池浮島の植生. In: 深泥池の自然と人 (深泥池学術調査報告書) . pp. 92-94. 京都市文化観光局, 京都.
- 2) 土屋和三; 藤田昇; 田端英雄; 松井淳 (1981) 深泥池浮島の生態学的研究. In: 深泥池の自然と人 (深泥池学術調査報告書) . pp. 95-133. 京都市文化観光局, 京都.
- 3) 原口昭; 松井淳; 藤田昇 (1985) 深泥池の浮島・開水域・流入水の水質. In: 深泥池浮島高層湿原の再生と遷移機構の生態学的解析 (文部省科研費報告書) . pp. 1-11.
- 4) 佐藤謙; 西川恒彦; 酒井聡樹; 松井淳; 甲山隆司; 小池文人; 小林正寛; 伊藤浩司 (1985) 遠音別岳原生自然環境保全地域と知床半島全域の維管束植物相. In: 遠音別岳原生自然環境保全地域調

- 査報告書. pp. 115-172. 環境庁自然保護局, 東京.
- 5) 松井淳; 甲山隆司; 小池文人; 酒井聡樹 (1985) 知床半島遠音別岳周辺における森林植生の垂直分布と林木群集の構造. In: 遠音別岳原生自然環境保全地域調査報告書. pp. 173-200. 環境庁自然保護局, 東京.
  - 6) 佐藤謙; 松井淳 (1985) 遠音別岳原生自然環境保全地域【植物】. In: 日本の自然公園. (ed. by 国立公園協会・日本自然保護協会). pp. 272-273. 講談社, 東京.
  - 7) Kunii, H.; Tsuchiya, T.; Matsui, K.; Ikusima, I. (1985) Present state of aquatic plants in Lake Biwa and its surrounding water bodies. *Jpn. J. Limnol.* 46: 215-218.
  - 8) Hara, T.; Koike, F.; Matsui, K. (1986) Crowding effect in marine macrophytic algae populations. *Bot. Mag. Tokyo* 99: 319-321.
  - 9) Tabata, H.; Tsuchiya, K.; Shimizu, Y.; Fujita, N.; Matsui, K.; Koike, F.; Yumoto, T. (1988) Vegetation and climatic changes in Nepal Himalayas. I. Vegetation and climate in Nepal Hymalayas as the basis of palaeoecological studies. *Proc. Indian natn. Sci. Acad.* 54: 530-537.
  - 10) Haraguchi, A; Matsui, K. (1990) Nutrient dynamics in a floating mat and pond system with special reference to its vegetation. *Ecol. Res.* 5: 63-79.
  - 11) Matsui, K. (1990) Sex expression, sex change and fruiting habit in *Acer rufinerve*. Abstracts, V International Congress of Ecology. p. 291.
  - 12) Matsui, K. (1991) Pollination ecology of four *Acer* species in Japan with special reference to bee pollinators. *Pl. Sp. Biol.* 6: 117-120.

NAKANO, Shin-ichi 中野伸一

---

- 1) 瀬戸昌之; 池島耕; 中野伸一 (1989) 多摩川の試水における塩素化フェノールの分解菌密度と塩素化フェノールの分解に関する二, 三の考察. *人間と環境* 14: 12-19.
- 2) 瀬戸昌之; 中野伸一; エルニ マルタニ; 牧野純一 (1989) いくつかの環境試水における低濃度の2,4-dichlorophenolの分解菌密度とその分解の微生物学的考察. *生態化学* 9: 8-15.
- 3) Nakano, S.; Seto, M. (1990) Some ecological factors in the degradation of 2,4-dichlorophenol in waters from aquatic environments. *Jpn. J. Limnol.* 51: 155-161. [degradation of DCP, DCP-degraders, MPN-method, nutrient limitation]
- 4) 瀬戸昌之; 中野伸一; 牧野純一 (1990) 多摩川における塩素化フェノールの分解菌密度の分布と季節変化, および, 添加した塩素化フェノールの分解様式の考察. *人間と環境* 15: 16-22.
- 5) 中野伸一 (1991) 琵琶湖のほとりから地球を考える - (書評). *人間と環境* 17: 110.

- 1) 深井宣男; 野間直彦; 原正利 (1986) 成毛稲荷神社の鳥類相. In: 千葉県自然環境保全地域等適地調査. pp. 281-284. 千葉県環境部自然保護課. [里山, 社寺林, スダジイ, ラインセンサス法, 鳥類群集]
- 2) 野間直彦; 大沢雅彦 (1988) 都市域の二次林における低木性樹種の開花・結実・散布について. In: 日本生態学会関東地区大会講演要旨集. p. 8. [二次林, 液果, 果実数, 鳥散布, 群集生態学]
- 3) Noma, N. (1990) Seed dispersal by animals in the broad-leaved evergreen forest on Yakushima island, Japan. In: Abstracts V International congress of Ecology. p. 301- [Yakushima island, broad-leaved evergreen forest, fruiting phenology, seed dispersal, plant-animal interrelationship, community ecology]
- 4) 野間直彦 (1989) 西部林道雑感. 生命の島 14: 79-81. [屋久島, 照葉樹林, 開発, 自然保護, 共生]
- 5) 野間直彦 (1991) 屋久島の照葉樹林における種子散布. In: 第38回日本生態学会大会講演要旨集: 73. [液果, 動物散布, 熟期, 種子トラップ, 照葉樹林, 群集生態学]
- 6) 野間直彦 (1991) 屋久島の照葉樹林における果実とニホンザルとの関係. 霊長類研究所年報 21: 87. [タブノキ, ヤマモモ, 摂食, 破壊率, 発芽抑制, 種子散布者, 群集生態学]
- 7) 野間直彦 (1991) 屋久島の照葉樹林における種子散布 -液果に着目して群集のレベルでとらえる-. フェノロジ - 研究 17: 3-4. [液果, 動物被食型散布, 果実のフェノロジ -, 鳥の渡り, 種子トラップ, 群集生態学]
- 8) Suzuki, E.; Hotta, M.; Partomihardjo, T.; Koike, F.; Noma, N. (1991) Vegetation of tengkawang forests. In: Structure and regeneration dynamics of tropical dipterocarp rain forests in varying degrees of management: Tentative final report to LIPI. pp. 15-56. [Borneo, West Kalimantan, Community ecology, Tengkawang, Dipterocarp forest, Plantation]
- 9) Noma, N.; Hotta, M.; Suzuki, E. (1991) Distribution and community structure of Macaranga (Euphorbiaceae). In: Structure and regeneration dynamics of tropical dipterocarp rain forests in varying degrees of management : Tentative final report to LIPI. pp. 73-87. [Borneo, West Kalimantan, Macaranga, community ecology, species diversity, forest recovery, pioneer tree ]
- 10) 野間直彦 (1991) -屋久島の生き物たち- 初夏の果実とサル・鳥. そんぐぼすと 50: 12. [屋久島, 照葉樹林, ヤマモモ, ハト類, サル, 種子散布 ]
- 11) 野間直彦 (1991) -屋久島の生き物たち- 照葉樹林の夏鳥. そんぐぼすと 51: 12. [屋久島, 照葉樹林, アカショウビン, キビタキ, 鳥の生態学 ]

- 12) 野間直彦 (1991) -屋久島の生き物たち- サシバの渡り. そんぐぼすと 52: 11. [屋久島, 渡りコ - ス, サシバ]
- 13) 野間直彦 (1991) -屋久島の生き物たち- とりつくものたち. そんぐぼすと 53: 12. [屋久島, 照葉樹林, 寄生植物, オオバヤドリギ, 動植物相互関係]
- 14) 野間直彦 (1992) -屋久島の生き物たち- サルのくらし. そんぐぼすと 54: 15. [屋久島, 照葉樹林, ヤクシマザル]

SAKUMA, Daisuke 佐久間大輔 \_\_\_\_\_

- 1) 佐久間大輔 (1992) 外生菌根性菌類の分布様式. 京都大学大学院理学研究科修士論文.  
[mycorrhizal symbiosis, ectomycorrhizal fungi, fruitbody distribution, plants-fungus interaction]
- 2) Sugai, T.; Sakuma, D.; Kobayashi, N.; Ohta, H. (1991) A Synthesis of (-)-Sitophilate by Utilizing Yeast-mediated. Tetrahedron 47: 7237-7244. [Aggregation pheromone, Enzymatic reduction]

UMEKI, Kiyoshi 梅木 清 \_\_\_\_\_

- 1) 梅木清 (1989) 物理的・生物的環境による樹形の変化. 第36回 日本生態学会大会講演要旨集 p. 147.
- 2) Umeki, K. (1990) A model of effect of the slope and neighbors on tree crown form. Abstracts of the plenary, symposium papers and posters presented at the V International Congress of Ecology p. 286.
- 3) 梅木清 (1991) 屋久島照葉樹林の構造. 第38回 日本生態学会大会講演要旨集 p. 124.

EOF

## あとがき

懸案の業績目録が、なんとかできあがりました。ご覧のように、完成版というにははばかりの状態での見切り印刷になってしまいましたが、ここまで整理するだけでも、はじめに考えたよりはるかにたいへんな作業でした。じつに辛気くさい入力・編集作業をてつだっていただいた松原幸子さんと馬野恒世さんに、この場を借りてあつくお礼もうしあげます。

作業はすべて生態学研究センターのパソコン・システムでおこないました。各構成員の業績はカード・イメージのデータベースソフトをもちいて整理しました。ひとつの業績は、[個人番号]、[出力タイプ]、[著者]、[発表年]、[論文タイトル]、[所載雑誌名または単行本名]、[巻]、[はじめのページ]、[おわりのページ]、[編集者]、[出版社]、[出版社の所在地]、[キーワード]の13項目からなります。最終的な目録作成にあたっては、「収録内容と凡例」の項で述べた3通りの出力タイプごとに書きだすBASICのプログラムをつくりました。どうしてもデータの欠落や入力の個人差があり、目録の書式は不ぞろいになってしまいました。計二回、各人にチェックをしてもらいましたが、まだ誤りもおおくふくまれているようです。おって修正していきたいとおもいますのでご容赦ください。

もちろん題目やその所載を列記しただけの業績目録では、ひとつひとつの発表の内容に踏みこむことはできません。今回のリスト作成と同時に、この目録にのせた論文などのすべてを、生態学研究センターの図書室に個人別のファイルボックスを作って保管するという作業もすすめています。さらに1991年の生態学研究センター発足以降の業績については年ごとに製本していく予定です。内外の別刷り請求にも、機関として対応できる体制にもっていききたいというのがわたしたちの希望です。

研究業績になんらの定義も区分も評価もくわえず、こうした発表物のリストを刊行するというのは異例な、研究機関としては不見識な試みかもしれません。しかし、わたしたちが知るかぎりでははじめての、所属する構成員の過去にさかのぼって（潜在的に）すべての発表物のリストを機関として公開するという試みは、開かれた共同利用体制を保持していこうとする生態学研究センターの姿勢のひとつの表明であるとかんがえています。

めくっていただければ、いろいろな読みかたが可能な資料であることがおわかりいただけることとおもいます。研究内容だけでなく、掲載基準も各自まちまちで、これがよく整理された目録に統一できなかった一因です。「パチンコの推計学」にはじまるセンター長の目録に象徴されるように、統一しようもない多様な研究活動が多様な生態現象を研究するこのセンターの特徴であるともいえそうです。いっぽう、口頭発表のわりに印刷論文の生産性がひくいという日本の生態学研究者の活動習性は、しっかり当センターの認識すべき特徴であることも、学会講演要旨をふくんだ目録からうかがえます。（この傾向は講演要旨をふくまない目録では隠されていますが）。こう申す井上と甲山（それぞれ新米の日本生態学会の全国委員と編集委員）に日本生態学会の会誌所載の論文がひとつもないのも、こうなっては白状せざるをえません。これから毎年刊行予定の業績目録でセンターの研究活動にきびしい評価をあたえてください。

編集担当: 井上民二・甲山隆司